

シラバスを参照したい科目をクリックしてください。



タイトル	開講所属	時間割コード	授業科目名			主担当 教員	対象年次	学期	曜日・ 校時	開講期間
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	20140560001001	●教養セミ ナー(教育)	和	E	大庭 伸 也	1年,2年,3年,4年	前期	月 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	20140560001002	●教養セミ ナー(教育)	和	E	赤羽 良 一	1年,2年,3年,4年	前期	月 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	20140560001003	●教養セミ ナー(教育)	和	E	隅田 祥 光	1年,2年,3年,4年	前期	月 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	20140560001004	●教養セミ ナー(教育)	和	E	牧野 一 穂	1年,2年,3年,4年	前期	月 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	20140560001005	●教養セミ ナー(教育)	和	E	山内 正 毅	1年,2年,3年,4年	前期	月 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	20140560001006	●教養セミ ナー(教育)	和	E	森野 美 央	1年,2年,3年,4年	前期	月 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	20140560001007	●教養セミ ナー(教育)	和	E	大平 晃 久	1年,2年,3年,4年	前期	火 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	20140560001008	●教養セミ ナー(教育)	和	E	土肥 大 次郎	1年,2年,3年,4年	前期	火 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	20140560001009	●教養セミ ナー(教育)	和	E	鈴木 章 能	1年,2年,3年,4年	前期	火 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	20140560001010	●教養セミ ナー(教育)	和	E	三上 次 郎	1年,2年,3年,4年	前期	火 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	20140560001011	●教養セミ ナー(教育)	和	E	加納 暁 子	1年,2年,3年,4年	前期	火 5	～
2014年度	教養教									

シラバス一覧

シラバス (教養教育 科目)	育・教養教 育 旧カリ科 目	20140560001012	●教養セミ ナー(教育)	和	E		及川 大 地	1年,2年,3年,4年	前期	火 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育・教養教 育 旧カリ科 目	20140560001013	●教養セミ ナー(教育)	和	E		高橋 浩 二	1年,2年,3年,4年	前期	火 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育・教養教 育 旧カリ科 目	20140560001014	●教養セミ ナー(教育)	和	E		綿巻 徹	1年,2年,3年,4年	前期	火 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育・教養教 育 旧カリ科 目	20140560001015	●教養セミ ナー(教育)	和	E		呉屋 博	1年,2年,3年,4年	前期	火 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育・教養教 育 旧カリ科 目	20140560001016	●教養セミ ナー(教育)	和	E		山岸 賢 一郎	1年,2年,3年,4年	前期	火 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育・教養教 育 旧カリ科 目	20140560001017	●教養セミ ナー(教育)	和	E		石川 衣 紀	1年,2年,3年,4年	前期	火 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育・教養教 育 旧カリ科 目	20140560001018	●教養セミ ナー(教育)	和	E		赤崎 真 弓	1年,2年,3年,4年	前期	火 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育・教養教 育 旧カリ科 目	20140560001019	●教養セミ ナー(教育)	和	E		倉田 伸	1年,2年,3年,4年	前期	火 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育・教養教 育 旧カリ科 目	20140560001020	●教養セミ ナー(教育)	和	E		瀬戸崎 典夫	1年,2年,3年,4年	前期	火 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育・教養教 育 旧カリ科 目	20140560001021	●教養セミ ナー(経済)	和	E		大倉 真 人	1年,2年,3年,4年	前期	木 4	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育・教養教 育 旧カリ科 目	20140560001022	●教養セミ ナー(経済)	和	E		小山 久 美子	1年,2年,3年,4年	前期	木 4	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育・教養教 育 旧カリ科 目	20140560001023	●教養セミ ナー(経済)	和	E		式見 拓 仙	1年,2年,3年,4年	前期	木 4	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育・教養教 育 旧カリ科 目	20140560001024	●教養セミ ナー(経済)	和	E		岩田 安 晴	1年,2年,3年,4年	前期	木 4	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育・教養教 育 旧カリ科 目	20140560001025	●教養セミ ナー(経済)	和	E		庵谷 治 男	1年,2年,3年,4年	前期	木 4	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育・教養教 育 旧カリ科 目	20140560001026	●教養セミ ナー(経済)	和	E		後藤 祐 一	1年,2年,3年,4年	前期	木 4	～

科目)	目										
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	20140560001027	●教養セミ ナー(経済)	和	E		成田 真 樹子	1年,2年,3年,4年	前期	木 4	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	20140560001028	●教養セミ ナー(経済)	和	E		柴多 一 雄	1年,2年,3年,4年	前期	木 4	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	20140560001029	●教養セミ ナー(経済)	和	E		勝又 壮 太郎	1年,2年,3年,4年	前期	木 4	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	20140560001030	●教養セミ ナー(経済)	和	E		仲井 幹 也	1年,2年,3年,4年	前期	木 4	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	20140560001031	●教養セミ ナー(経済)	和	E		神菌 健 次	1年,2年,3年,4年	前期	木 4	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	20140560001032	●教養セミ ナー(経済)	和	E		山口 純 哉	1年,2年,3年,4年	前期	木 4	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	20140560001033	●教養セミ ナー(経済)	和	E		神菌 健 次	1年,2年,3年,4年	前期	木 4	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	20140560001034	●教養セミ ナー(経済)	和	E		大倉 真 人	1年,2年,3年,4年	前期	金 4	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	20140560001035	●教養セミ ナー(経済)	和	E		小山 久 美子	1年,2年,3年,4年	前期	金 4	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	20140560001036	●教養セミ ナー(経済)	和	E		式見 拓 仙	1年,2年,3年,4年	前期	金 4	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	20140560001037	●教養セミ ナー(経済)	和	E		谷口 真 司	1年,2年,3年,4年	前期	金 4	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	20140560001038	●教養セミ ナー(経済)	和	E		深浦 厚 之	1年,2年,3年,4年	前期	金 4	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	20140560001039	●教養セミ ナー(経済)	和	E		宇都宮 譲	1年,2年,3年,4年	前期	金 4	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	20140560001040	●教養セミ ナー(経済)	和	E		式見 雅 代	1年,2年,3年,4年	前期	金 4	～

2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	20140560001041	●教養セミ ナー(経済)	和	E		松本 睦 樹	1年,2年,3年,4年	前期	金 4	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	20140560001042	●教養セミ ナー(経済)	和	E		津留崎 和義	1年,2年,3年,4年	前期	金 4	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	20140560001043	●教養セミ ナー(経済)	和	E		村田 嘉 弘	1年,2年,3年,4年	前期	金 4	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	20140560001044	●教養セミ ナー(経済)	和	E		土橋 力 也	1年,2年,3年,4年	前期	金 4	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	20140560001045	●教養セミ ナー(経済)	和	E		丸山 真 純	1年,2年,3年,4年	前期	金 4	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	20140560001046	●教養セミ ナー(経済)	和	E		張 笑男	1年,2年,3年,4年	前期	金 4	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	20140560001047	●教養セミ ナー(経済)	和	E		林川 美 由樹	1年,2年,3年,4年	前期	金 4	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	20140560001048	●教養セミ ナー(環境科学 部)	和	E		梅津 千 恵子	1年,2年,3年,4年	前期	木 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	20140560001049	●教養セミ ナー(環境科学 部)	和	E		福島 邦 夫	1年,2年,3年,4年	前期	月 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	20140560001050	●教養セミ ナー(環境科学 部)	和	E		保坂 稔	1年,2年,3年,4年	前期	木 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	20140560001051	●教養セミ ナー(環境科学 部)	和	E		吉田 謙 太郎	1年,2年,3年,4年	前期	月 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	20140560001052	●教養セミ ナー(環境科学 部)	和	E		黒田 暁	1年,2年,3年,4年	前期	火 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	20140560001053	●教養セミ ナー(環境科学 部)	和	E		小林 寛	1年,2年,3年,4年	前期	月 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	20140560001054	●教養セミ ナー(環境科学 部)	和	E		堀江 哲 也	1年,2年,3年,4年	前期	月 5	～
2014年度 シラバス	教養教 育-教養教		●教養セミ				井口 恵				

(教養教育 科目)	育 旧カリ科 目	20140560001055	ナー(環境科学 部)	和	E		一朗	1年,2年,3年,4年	前期	金 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	20140560001056	●教養セミ ナー(環境科学 部)	和	E		岡田 二 郎	1年,2年,3年,4年	前期	火 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	20140560001057	●教養セミ ナー(環境科学 部)	和	E		西山 雅 也	1年,2年,3年,4年	前期	月 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	20140560001058	●教養セミ ナー(環境科学 部)	和	E		宮西 隆 幸	1年,2年,3年,4年	前期	火 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	20140560001059	●教養セミ ナー(環境科学 部)	和	E		武藤 鉄 司	1年,2年,3年,4年	前期	火 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	20140560001060	●教養セミ ナー(環境科学 部)	和	E		杉山 和 一	1年,2年,3年,4年	前期	月 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	20140560001061	●教養セミ ナー(環境科学 部)	和	E		仲山 英 樹	1年,2年,3年,4年	前期	月 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	20140560001062	●教養セミ ナー(工学部)	和	E		桃木 悟	1年,2年,3年,4年	前期	木 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	20140560001063	●教養セミ ナー(工学部)	和	E		才本 明 秀	1年,2年,3年,4年	前期	木 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	20140560001064	●教養セミ ナー(工学部)	和	E		奥村 哲 也	1年,2年,3年,4年	前期	木 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	20140560001065	●教養セミ ナー(工学部)	和	E		小山 敦 弘	1年,2年,3年,4年	前期	木 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	20140560001066	●教養セミ ナー(工学部)	和	E		下本 陽 一	1年,2年,3年,4年	前期	木 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	20140560001067	●教養セミ ナー(工学部)	和	E		高瀬 徹	1年,2年,3年,4年	前期	木 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	20140560001068	●教養セミ ナー(工学部)	和	E		山口 朝 彦	1年,2年,3年,4年	前期	金 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	20140560001069	●教養セミ ナー(工学部)	和	E		坂口 大 作	1年,2年,3年,4年	前期	金 5	～

科目)	目										
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	20140560001070	●教養セミ ナー(工学部)	和	E		黒川 不 二雄	1年,2年,3年,4年	前期	木 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	20140560001071	●教養セミ ナー(工学部)	和	E		田口 光 雄	1年,2年,3年,4年	前期	木 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	20140560001072	●教養セミ ナー(工学部)	和	E		竹中 隆	1年,2年,3年,4年	前期	金 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	20140560001073	●教養セミ ナー(工学部)	和	E		小栗 清	1年,2年,3年,4年	前期	木 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	20140560001074	●教養セミ ナー(工学部)	和	E		喜安 千 弥	1年,2年,3年,4年	前期	木 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	20140560001075	●教養セミ ナー(工学部)	和	E		末吉 豊	1年,2年,3年,4年	前期	木 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	20140560001076	●教養セミ ナー(工学部)	和	E		森山 雅 雄	1年,2年,3年,4年	前期	木 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	20140560001077	●教養セミ ナー(工学部)	和	E		柴田 裕 一郎	1年,2年,3年,4年	前期	木 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	20140560001078	●教養セミ ナー(工学部)	和	E		藤村 誠	1年,2年,3年,4年	前期	木 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	20140560001079	●教養セミ ナー(工学部)	和	E		森田 千 尋	1年,2年,3年,4年	前期	木 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	20140560001080	●教養セミ ナー(工学部)	和	E		蓼原 真 一	1年,2年,3年,4年	前期	木 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	20140560001081	●教養セミ ナー(工学部)	和	E		勝田 順 一	1年,2年,3年,4年	前期	金 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	20140560001082	●教養セミ ナー(工学部)	和	E		蔣 宇静	1年,2年,3年,4年	前期	木 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	20140560001083	●教養セミ ナー(工学部)	和	E		多田 彰 秀	1年,2年,3年,4年	前期	金 5	～

2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	20140560001084	●教養セミ ナー(工学部)	和	E		奥松 俊 博	1年,2年,3年,4年	前期	木 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	20140560001085	●教養セミ ナー(工学部)	和	E		香川 明 男	1年,2年,3年,4年	前期	木 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	20140560001086	●教養セミ ナー(工学部)	和	E		木村 正 成	1年,2年,3年,4年	前期	木 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	20140560001087	●教養セミ ナー(工学部)	和	E		相樂 隆 正	1年,2年,3年,4年	前期	木 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	20140560001088	●教養セミ ナー(工学部)	和	E		清水 康 博	1年,2年,3年,4年	前期	木 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	20140560001089	●教養セミ ナー(工学部)	和	E		田邊 秀 二	1年,2年,3年,4年	前期	金 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	20140560001090	●教養セミ ナー(工学部)	和	E		近藤 慎 一郎	1年,2年,3年,4年	前期	木 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	20140560001091	●教養セミ ナー(工学部)	和	E		郷田 秀 一郎	1年,2年,3年,4年	前期	金 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	20140560001092	●教養セミ ナー(水産学 部)	和	E		平坂 勝 也	1年,2年,3年,4年	前期	月 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	20140560001093	●教養セミ ナー(水産学 部)	和	E		吉田 朝 美	1年,2年,3年,4年	前期	月 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	20140560001094	●教養セミ ナー(水産学 部)	和	E		山田 明 徳	1年,2年,3年,4年	前期	火 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	20140560001095	●教養セミ ナー(水産学 部)	和	E		北村 等	1年,2年,3年,4年	前期	火 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	20140560001096	●教養セミ ナー(水産学 部)	和	E		橘 勝康	1年,2年,3年,4年	前期	月 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	20140560001097	●教養セミ ナー(水産学 部)	和	E		山口 恭 弘	1年,2年,3年,4年	前期	月 5	～
2014年度 シラバス	教養教 育-教養教		●教養セミ				萩原 篤				

(教養教育 科目)	育 旧カリ科 目	20140560001098	ナー(水産学 部)	和	E		志	1年,2年,3年,4年	前期	月 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	20140560001099	●教養セミ ナー(水産学 部)	和	E		鈴木 利 一	1年,2年,3年,4年	前期	月 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	201405600010A0	●教養セミ ナー(水産学 部)	和	E		市川 寿	1年,2年,3年,4年	前期	月 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	201405600010A1	●教養セミ ナー(水産学 部)	和	E		阪倉 良 孝	1年,2年,3年,4年	前期	火 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	201405600010A2	●教養セミ ナー(水産学 部)	和	E		武田 重 信	1年,2年,3年,4年	前期	月 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	201405600010A3	●教養セミ ナー(歯学部)				宮崎 敏 博	1年,2年,3年,4年	前期	月 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	201405600010A5	●教養セミ ナー(歯学部)				岡田 幸 雄	1年,2年,3年,4年	前期	火 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	201405600010A6	●教養セミ ナー(歯学部)				綿本 隆 生	1年,2年,3年,4年	前期	火 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	201405600010A7	●教養セミ ナー(歯学部)				田中 美 保子	1年,2年,3年,4年	前期	火 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	201405600010A9	●教養セミ ナー(歯学部)				井川 一 成	1年,2年,3年,4年	前期	月 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	201405600010B0	●教養セミ ナー(歯学部)				尾崎 幸 生	1年,2年,3年,4年	前期	火 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	201405600010B1	●教養セミ ナー(薬学部)	和	E		黒田 直 敬	1年,2年,3年,4年	前期	月 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	201405600010B2	●教養セミ ナー(薬学部)				尾野村 治	1年,2年,3年,4年	前期	月 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	201405600010B3	●教養セミ ナー(薬学部)				栗山 正 巳	1年,2年,3年,4年	前期	月 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	201405600010B4	●教養セミ ナー(薬学部)				淵上 剛 志	1年,2年,3年,4年	前期	月 5	～

科目)	目										
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	201405600010B5	●教養セミ ナー(薬学部)				畑山 範	1年,2年,3年,4年	前期	火 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	201405600010B6	●教養セミ ナー(薬学部)				植田 弘 師	1年,2年,3年,4年	前期	火 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	201405600010B7	●教養セミ ナー(薬学部)	和	E		川上 茂	1年,2年,3年,4年	前期	火 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	201405600010B8	●教養セミ ナー(薬学部)				高橋 正 克	1年,2年,3年,4年	前期	火 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	201405600010C9	●教養セミ ナー(医学部保 健学科)				浦田 秀 子	1年,2年,3年,4年	前期	火 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	201405600010D0	●教養セミ ナー(医学部保 健学科)				大西 真 由美	1年,2年,3年,4年	前期	月 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	201405600010D1	●教養セミ ナー(医学部保 健学科)				本田 純 久	1年,2年,3年,4年	前期	月 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	201405600010D2	●教養セミ ナー(医学部保 健学科)				新川 哲 子	1年,2年,3年,4年	前期	火 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	201405600010D3	●教養セミ ナー(医学部保 健学科)				橋爪 可 織	1年,2年,3年,4年	前期	火 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	201405600010D4	●教養セミ ナー(医学部保 健学科)				山本 直 子	1年,2年,3年,4年	前期	火 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	201405600010D5	●教養セミ ナー(医学部保 健学科)				井口 茂	1年,2年,3年,4年	前期	月 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	201405600010D6	●教養セミ ナー(医学部保 健学科)	和	E		中野 治 郎	1年,2年,3年,4年	前期	火 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	201405600010D7	●教養セミ ナー(医学部保 健学科)				東 登志 夫	1年,2年,3年,4年	前期	火 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	201405600010D8	●教養セミ ナー(医学部保 健学科)				村田 潤	1年,2年,3年,4年	前期	火 5	～

2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	201405600010D9	●教養セミ ナー(医学部医 学科)				七島 篤 志	1年,2年,3年,4年	前期	月 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	201405600010F1	●教養セミ ナー(医学部医 学科)				松尾 孝 之	1年,2年,3年,4年	前期	月 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	201405600010F2	●教養セミ ナー(医学部医 学科)				北條 美 能留	1年,2年,3年,4年	前期	月 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	201405600010F3	●教養セミ ナー(医学部医 学科)	和	E		金子 賢 一	1年,2年,3年,4年	前期	火 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	201405600010F4	●教養セミ ナー(医学部医 学科)				林 秀行	1年,2年,3年,4年	前期	火 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	201405600010F5	●教養セミ ナー(医学部医 学科)				築城 英 子	1年,2年,3年,4年	前期	火 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	201405600010F6	●教養セミ ナー(医学部医 学科)				久保 嘉 直	1年,2年,3年,4年	前期	火 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	201405600010F7	●教養セミ ナー(医学部医 学科)	和	E		松坂 雄 亮	1年,2年,3年,4年	前期	火 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	201405600010F9	●教養セミ ナー(医学部医 学科)				林 洋子	1年,2年,3年,4年	前期	火 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	201405600010G1	●教養セミ ナー(医学部医 学科)				岡田 雅 彦	1年,2年,3年,4年	前期	金 5	～
2014年度 シラバス (教養教育 科目)	教養教 育-教養教 育 旧カリ科 目	201405600010G2	●教養セミ ナー(医学部医 学科)				中村 洋 一	1年,2年,3年,4年	前期	金 5	～





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140560001001	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(教育)		
編集担当教員	大庭 伸也		
授業担当教員名(科目責任者)	大庭 伸也		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	大庭 伸也		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教]21講義室		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業到達目標	①知的活動への動機づけを高める。② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業方法（学習指導法）	学生それぞれに研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表する。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、プレゼンテーション形式で行う。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成し、教養ゼミナール研究を行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。		
	以下の内容をクラスごとに行う。クラスにより内容が前後することがある。シラバスに変更がある場合はクラスごとに配布する。		
	回	内容	
	1	自己紹介、教養ゼミナールの趣旨説明、教養ゼミナールの具体的進め方・計画の説明	
	2	各学生によるテーマの提示と説明、質疑応答、学生間の議論・討論によるテーマの絞り込み作業	
	3	図書館資料収集ガイダンスの受講	

授業内容	4	テーマの設定，グループ分け，グループ別による研究の打合せ・グループディスカッション，グループ間によるテーマ研究打合せ報告とディスカッション
	5	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション
	6	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション，発表資料の作成開始・レポートの作成開始
	7	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション，発表資料の作成・レポートの作成
	8	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション，発表資料の作成・レポートの作成
	9	中間発表 質疑応答
	10	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション，発表資料の作成・レポートの作成（中間発表による修正）
	11	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション，発表資料の提出・レポート素案の提出
	12	プレゼンテーション準備（発表練習）と質疑応答，グループディスカッション
	13	合同発表会によるプレゼンテーション，質疑応答，レポート最終素案の提出
	14	最終レポートの修正
	15	最終レポートの提出
	16	
キーワード	初年次教育，課題解決型学習，自己表現能力，コミュニケーション能力	
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ，必要があればその時，指示する。	
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッションへの積極的参加20点，プレゼンテーション 20点，レポート 60点（個人レポート10点，進捗状況・計画等の報告10点，文章構成力・文章表現力・オリジナリティー40点）	
受講要件（履修条件）	全体の5分の4以上の出席を必要とする。	
備考（URL）		
学生へのメッセージ	本科目の位置づけ及び学習・教育目標については、教養教育学生便覧を参照すること。	





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140560001002	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(教育)		
編集担当教員	赤羽 良一		
授業担当教員名(科目責任者)	赤羽 良一		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	赤羽 良一		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教]22講義室		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業到達目標	①知的活動への動機づけを高める。② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業方法（学習指導法）	学生それぞれに研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表する。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、プレゼンテーション形式で行う。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成し、教養ゼミナール研究を行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。		
	以下の内容をクラスごとに行う。クラスにより内容が前後することがある。シラバスに変更がある場合はクラスごとに配布する。		
	回	内容	
	1	自己紹介、教養ゼミナールの趣旨説明、教養ゼミナールの具体的進め方・計画の説明	
	2	各学生によるテーマの提示と説明、質疑応答、学生間の議論・討論によるテーマの絞り込み作業	
	3	図書館資料収集ガイダンスの受講	

授業内容	4	テーマの設定，グループ分け，グループ別による研究の打合せ・グループディスカッション，グループ間によるテーマ研究打合せ報告とディスカッション
	5	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション
	6	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション，発表資料の作成開始・レポートの作成開始
	7	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション，発表資料の作成・レポートの作成
	8	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション，発表資料の作成・レポートの作成
	9	中間発表 質疑応答
	10	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション，発表資料の作成・レポートの作成（中間発表による修正）
	11	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション，発表資料の提出・レポート素案の提出
	12	プレゼンテーション準備（発表練習）と質疑応答，グループディスカッション
	13	合同発表会によるプレゼンテーション，質疑応答，レポート最終素案の提出
	14	最終レポートの修正
	15	最終レポートの提出
	16	
キーワード	初年次教育，課題解決型学習，自己表現能力，コミュニケーション能力	
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ，必要があればその時，指示する。	
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッションへの積極的参加20点，プレゼンテーション 20点，レポート 60点（個人レポート10点，進捗状況・計画等の報告10点，文章構成力・文章表現力・オリジナリティー40点）	
受講要件（履修条件）	全体の5分の4以上の出席を必要とする。	
備考（URL）		
学生へのメッセージ	本科目の位置づけ及び学習・教育目標については、教養教育学生便覧を参照すること。	





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140560001003	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(教育)		
編集担当教員	隅田 祥光		
授業担当教員名(科目責任者)	隅田 祥光		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	隅田 祥光		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教]23講義室		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業到達目標	①知的活動への動機づけを高める。② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業方法（学習指導法）	学生それぞれに研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表する。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、プレゼンテーション形式で行う。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成し、教養ゼミナール研究を行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。		
	以下の内容をクラスごとに行う。クラスにより内容が前後することがある。シラバスに変更がある場合はクラスごとに配布する。		
	回	内容	
	1	自己紹介、教養ゼミナールの趣旨説明、教養ゼミナールの具体的進め方・計画の説明	
	2	各学生によるテーマの提示と説明、質疑応答、学生間の議論・討論によるテーマの絞り込み作業	
	3	図書館資料収集ガイダンスの受講	

授業内容	4	テーマの設定，グループ分け，グループ別による研究の打合せ・グループディスカッション，グループ間によるテーマ研究打合せ報告とディスカッション
	5	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション
	6	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション，発表資料の作成開始・レポートの作成開始
	7	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション，発表資料の作成・レポートの作成
	8	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション，発表資料の作成・レポートの作成
	9	中間発表 質疑応答
	10	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション，発表資料の作成・レポートの作成（中間発表による修正）
	11	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション，発表資料の提出・レポート素案の提出
	12	プレゼンテーション準備（発表練習）と質疑応答，グループディスカッション
	13	合同発表会によるプレゼンテーション，質疑応答，レポート最終素案の提出
	14	最終レポートの修正
	15	最終レポートの提出
	16	
キーワード	初年次教育，課題解決型学習，自己表現能力，コミュニケーション能力	
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ，必要があればその時，指示する。	
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッションへの積極的参加20点，プレゼンテーション 20点，レポート 60点（個人レポート10点，進捗状況・計画等の報告10点，文章構成力・文章表現力・オリジナリティー40点）	
受講要件（履修条件）	全体の5分の4以上の出席を必要とする。	
備考（URL）		
学生へのメッセージ	本科目の位置づけ及び学習・教育目標については、教養教育学生便覧を参照すること。	





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140560001004	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(教育)		
編集担当教員	牧野 一穂		
授業担当教員名(科目責任者)	牧野 一穂		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	牧野 一穂		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教]絵画デザイン実習・実験室H26～		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業到達目標	①知的活動への動機づけを高める。② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業方法（学習指導法）	学生それぞれに研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表する。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、プレゼンテーション形式で行う。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成し、教養ゼミナール研究を行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。		
	以下の内容をクラスごとに行う。クラスにより内容が前後することがある。シラバスに変更がある場合はクラスごとに配布する。		
	回	内容	
	1	自己紹介、教養ゼミナールの趣旨説明、教養ゼミナールの具体的進め方・計画の説明	
	2	各学生によるテーマの提示と説明、質疑応答、学生間の議論・討論によるテーマの絞り込み作業	
	3	図書館資料収集ガイダンスの受講	

授業内容	4	テーマの設定，グループ分け，グループ別による研究の打合せ・グループディスカッション，グループ間によるテーマ研究打合せ報告とディスカッション
	5	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション
	6	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション，発表資料の作成開始・レポートの作成開始
	7	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション，発表資料の作成・レポートの作成
	8	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション，発表資料の作成・レポートの作成
	9	中間発表 質疑応答
	10	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション，発表資料の作成・レポートの作成（中間発表による修正）
	11	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション，発表資料の提出・レポート素案の提出
	12	プレゼンテーション準備（発表練習）と質疑応答，グループディスカッション
	13	合同発表会によるプレゼンテーション，質疑応答，レポート最終素案の提出
	14	最終レポートの修正
	15	最終レポートの提出
	16	
キーワード	初年次教育，課題解決型学習，自己表現能力，コミュニケーション能力	
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ，必要があればその時，指示する。	
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッションへの積極的参加20点，プレゼンテーション 20点，レポート 60点（個人レポート10点，進捗状況・計画等の報告10点，文章構成力・文章表現力・オリジナリティー40点）	
受講要件（履修条件）	全体の5分の4以上の出席を必要とする。	
備考（URL）		
学生へのメッセージ	本科目の位置づけ及び学習・教育目標については、教養教育学生便覧を参照すること。	





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140560001005	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(教育)		
編集担当教員	山内 正毅		
授業担当教員名(科目責任者)	山内 正毅		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	山内 正毅		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教]24講義室		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業到達目標	①知的活動への動機づけを高める。② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業方法（学習指導法）	学生それぞれに研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表する。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、プレゼンテーション形式で行う。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成し、教養ゼミナール研究を行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。		
	以下の内容をクラスごとに行う。クラスにより内容が前後することがある。シラバスに変更がある場合はクラスごとに配布する。		
	回	内容	
	1	自己紹介、教養ゼミナールの趣旨説明、教養ゼミナールの具体的進め方・計画の説明	
	2	各学生によるテーマの提示と説明、質疑応答、学生間の議論・討論によるテーマの絞り込み作業	
	3	図書館資料収集ガイダンスの受講	

授業内容	4	テーマの設定，グループ分け，グループ別による研究の打合せ・グループディスカッション，グループ間によるテーマ研究打合せ報告とディスカッション
	5	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション
	6	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション，発表資料の作成開始・レポートの作成開始
	7	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション，発表資料の作成・レポートの作成
	8	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション，発表資料の作成・レポートの作成
	9	中間発表 質疑応答
	10	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション，発表資料の作成・レポートの作成（中間発表による修正）
	11	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション，発表資料の提出・レポート素案の提出
	12	プレゼンテーション準備（発表練習）と質疑応答，グループディスカッション
	13	合同発表会によるプレゼンテーション，質疑応答，レポート最終素案の提出
	14	最終レポートの修正
	15	最終レポートの提出
	16	
キーワード	初年次教育，課題解決型学習，自己表現能力，コミュニケーション能力	
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ，必要があればその時，指示する。	
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッションへの積極的参加20点，プレゼンテーション 20点，レポート 60点（個人レポート10点，進捗状況・計画等の報告10点，文章構成力・文章表現力・オリジナリティー40点）	
受講要件（履修条件）	全体の5分の4以上の出席を必要とする。	
備考（URL）		
学生へのメッセージ	本科目の位置づけ及び学習・教育目標については、教養教育学生便覧を参照すること。	





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140560001006	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(教育)		
編集担当教員	森野 美央		
授業担当教員名(科目責任者)	森野 美央		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	森野 美央		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教]25講義室		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業到達目標	①知的活動への動機づけを高める。② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業方法（学習指導法）	学生それぞれに研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表する。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、プレゼンテーション形式で行う。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成し、教養ゼミナール研究を行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。		
	以下の内容をクラスごとに行う。クラスにより内容が前後することがある。シラバスに変更がある場合はクラスごとに配布する。		
	回	内容	
	1	自己紹介、教養ゼミナールの趣旨説明、教養ゼミナールの具体的進め方・計画の説明	
	2	各学生によるテーマの提示と説明、質疑応答、学生間の議論・討論によるテーマの絞り込み作業	
	3	図書館資料収集ガイダンスの受講	

授業内容	4	テーマの設定，グループ分け，グループ別による研究の打合せ・グループディスカッション，グループ間によるテーマ研究打合せ報告とディスカッション
	5	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション
	6	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション，発表資料の作成開始・レポートの作成開始
	7	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション，発表資料の作成・レポートの作成
	8	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション，発表資料の作成・レポートの作成
	9	中間発表 質疑応答
	10	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション，発表資料の作成・レポートの作成（中間発表による修正）
	11	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション，発表資料の提出・レポート素案の提出
	12	プレゼンテーション準備（発表練習）と質疑応答，グループディスカッション
	13	合同発表会によるプレゼンテーション，質疑応答，レポート最終素案の提出
	14	最終レポートの修正
	15	最終レポートの提出
	16	
キーワード	初年次教育，課題解決型学習，自己表現能力，コミュニケーション能力	
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ，必要があればその時，指示する。	
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッションへの積極的参加20点，プレゼンテーション 20点，レポート 60点（個人レポート10点，進捗状況・計画等の報告10点，文章構成力・文章表現力・オリジナリティー40点）	
受講要件（履修条件）	全体の5分の4以上の出席を必要とする。	
備考（URL）		
学生へのメッセージ	本科目の位置づけ及び学習・教育目標については、教養教育学生便覧を参照すること。	





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140560001007	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(教育)		
編集担当教員	大平 晃久		
授業担当教員名(科目責任者)	大平 晃久		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	大平 晃久		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教]12講義室		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業到達目標	①知的活動への動機づけを高める。② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業方法（学習指導法）	学生それぞれに研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表する。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、プレゼンテーション形式で行う。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成し、教養ゼミナール研究を行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。		
	以下の内容をクラスごとに行う。クラスにより内容が前後することがある。シラバスに変更がある場合はクラスごとに配布する。		
	回	内容	
	1	自己紹介、教養ゼミナールの趣旨説明、教養ゼミナールの具体的進め方・計画の説明	
	2	各学生によるテーマの提示と説明、質疑応答、学生間の議論・討論によるテーマの絞り込み作業	
	3	図書館資料収集ガイダンスの受講	

授業内容	4	テーマの設定，グループ分け，グループ別による研究の打合せ・グループディスカッション，グループ間によるテーマ研究打合せ報告とディスカッション
	5	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション
	6	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション，発表資料の作成開始・レポートの作成開始
	7	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション，発表資料の作成・レポートの作成
	8	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション，発表資料の作成・レポートの作成
	9	中間発表 質疑応答
	10	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション，発表資料の作成・レポートの作成（中間発表による修正）
	11	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション，発表資料の提出・レポート素案の提出
	12	プレゼンテーション準備（発表練習）と質疑応答，グループディスカッション
	13	合同発表会によるプレゼンテーション，質疑応答，レポート最終素案の提出
	14	最終レポートの修正
	15	最終レポートの提出
	16	
キーワード	初年次教育，課題解決型学習，自己表現能力，コミュニケーション能力	
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ，必要があればその時，指示する。	
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッションへの積極的参加20点，プレゼンテーション 20点，レポート 60点（個人レポート10点，進捗状況・計画等の報告10点，文章構成力・文章表現力・オリジナリティー40点）	
受講要件（履修条件）	全体の5分の4以上の出席を必要とする。	
備考（URL）		
学生へのメッセージ	本科目の位置づけ及び学習・教育目標については、教養教育学生便覧を参照すること。	





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140560001008	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(教育)		
編集担当教員	土肥 大次郎		
授業担当教員名(科目責任者)	土肥 大次郎		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	土肥 大次郎		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[全] 学部問い合わせのこと		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業到達目標	①知的活動への動機づけを高める。② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業方法（学習指導法）	学生それぞれに研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表する。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、プレゼンテーション形式で行う。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成し、教養ゼミナール研究を行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。		
	以下の内容をクラスごとに行う。クラスにより内容が前後することがある。シラバスに変更がある場合はクラスごとに配布する。		
	回	内容	
	1	自己紹介、教養ゼミナールの趣旨説明、教養ゼミナールの具体的進め方・計画の説明	
	2	各学生によるテーマの提示と説明、質疑応答、学生間の議論・討論によるテーマの絞り込み作業	
	3	図書館資料収集ガイダンスの受講	

授業内容	4	テーマの設定，グループ分け，グループ別による研究の打合せ・グループディスカッション，グループ間によるテーマ研究打合せ報告とディスカッション
	5	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション
	6	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション，発表資料の作成開始・レポートの作成開始
	7	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション，発表資料の作成・レポートの作成
	8	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション，発表資料の作成・レポートの作成
	9	中間発表 質疑応答
	10	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション，発表資料の作成・レポートの作成（中間発表による修正）
	11	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション，発表資料の提出・レポート素案の提出
	12	プレゼンテーション準備（発表練習）と質疑応答，グループディスカッション
	13	合同発表会によるプレゼンテーション，質疑応答，レポート最終素案の提出
	14	最終レポートの修正
	15	最終レポートの提出
	16	
キーワード	初年次教育，課題解決型学習，自己表現能力，コミュニケーション能力	
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ，必要があればその時，指示する。	
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッションへの積極的参加20点，プレゼンテーション 20点，レポート 60点（個人レポート10点，進捗状況・計画等の報告10点，文章構成力・文章表現力・オリジナリティー40点）	
受講要件（履修条件）	全体の5分の4以上の出席を必要とする。	
備考（URL）		
学生へのメッセージ	本科目の位置づけ及び学習・教育目標については、教養教育学生便覧を参照すること。	





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140560001009	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(教育)		
編集担当教員	鈴木 章能		
授業担当教員名(科目責任者)	鈴木 章能		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	鈴木 章能		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教]13講義室		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業到達目標	①知的活動への動機づけを高める。② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業方法（学習指導法）	学生それぞれに研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表する。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、プレゼンテーション形式で行う。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成し、教養ゼミナール研究を行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。		
	以下の内容をクラスごとに行う。クラスにより内容が前後することがある。シラバスに変更がある場合はクラスごとに配布する。		
	回	内容	
	1	自己紹介、教養ゼミナールの趣旨説明、教養ゼミナールの具体的進め方・計画の説明	
	2	各学生によるテーマの提示と説明、質疑応答、学生間の議論・討論によるテーマの絞り込み作業	
	3	図書館資料収集ガイダンスの受講	

授業内容	4	テーマの設定，グループ分け，グループ別による研究の打合せ・グループディスカッション，グループ間によるテーマ研究打合せ報告とディスカッション
	5	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション
	6	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション，発表資料の作成開始・レポートの作成開始
	7	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション，発表資料の作成・レポートの作成
	8	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション，発表資料の作成・レポートの作成
	9	中間発表 質疑応答
	10	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション，発表資料の作成・レポートの作成（中間発表による修正）
	11	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション，発表資料の提出・レポート素案の提出
	12	プレゼンテーション準備（発表練習）と質疑応答，グループディスカッション
	13	合同発表会によるプレゼンテーション，質疑応答，レポート最終素案の提出
	14	最終レポートの修正
	15	最終レポートの提出
	16	
キーワード	初年次教育，課題解決型学習，自己表現能力，コミュニケーション能力	
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ，必要があればその時，指示する。	
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッションへの積極的参加20点，プレゼンテーション 20点，レポート 60点（個人レポート10点，進捗状況・計画等の報告10点，文章構成力・文章表現力・オリジナリティー40点）	
受講要件（履修条件）	全体の5分の4以上の出席を必要とする。	
備考（URL）		
学生へのメッセージ	本科目の位置づけ及び学習・教育目標については、教養教育学生便覧を参照すること。	





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140560001010	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(教育)		
編集担当教員	三上 次郎		
授業担当教員名(科目責任者)	三上 次郎		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	三上 次郎		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教]23講義室		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業到達目標	①知的活動への動機づけを高める。② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業方法（学習指導法）	学生それぞれに研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表する。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、プレゼンテーション形式で行う。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成し、教養ゼミナール研究を行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。		
	以下の内容をクラスごとに行う。クラスにより内容が前後することがある。シラバスに変更がある場合はクラスごとに配布する。		
	回	内容	
	1	自己紹介、教養ゼミナールの趣旨説明、教養ゼミナールの具体的進め方・計画の説明	
	2	各学生によるテーマの提示と説明、質疑応答、学生間の議論・討論によるテーマの絞り込み作業	
	3	図書館資料収集ガイダンスの受講	

授業内容	4	テーマの設定，グループ分け，グループ別による研究の打合せ・グループディスカッション，グループ間によるテーマ研究打合せ報告とディスカッション
	5	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション
	6	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション，発表資料の作成開始・レポートの作成開始
	7	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション，発表資料の作成・レポートの作成
	8	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション，発表資料の作成・レポートの作成
	9	中間発表 質疑応答
	10	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション，発表資料の作成・レポートの作成（中間発表による修正）
	11	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション，発表資料の提出・レポート素案の提出
	12	プレゼンテーション準備（発表練習）と質疑応答，グループディスカッション
	13	合同発表会によるプレゼンテーション，質疑応答，レポート最終素案の提出
	14	最終レポートの修正
	15	最終レポートの提出
	16	
キーワード	初年次教育，課題解決型学習，自己表現能力，コミュニケーション能力	
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ，必要があればその時，指示する。	
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッションへの積極的参加20点，プレゼンテーション 20点，レポート 60点（個人レポート10点，進捗状況・計画等の報告10点，文章構成力・文章表現力・オリジナリティー40点）	
受講要件（履修条件）	全体の5分の4以上の出席を必要とする。	
備考（URL）		
学生へのメッセージ	本科目の位置づけ及び学習・教育目標については、教養教育学生便覧を参照すること。	





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140560001011	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(教育)		
編集担当教員	加納 暁子		
授業担当教員名(科目責任者)	加納 暁子		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	加納 暁子		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教]24講義室		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業到達目標	①知的活動への動機づけを高める。② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業方法（学習指導法）	学生それぞれに研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表する。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、プレゼンテーション形式で行う。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成し、教養ゼミナール研究を行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。		
	以下の内容をクラスごとに行う。クラスにより内容が前後することがある。シラバスに変更がある場合はクラスごとに配布する。		
	回	内容	
	1	自己紹介、教養ゼミナールの趣旨説明、教養ゼミナールの具体的進め方・計画の説明	
	2	各学生によるテーマの提示と説明、質疑応答、学生間の議論・討論によるテーマの絞り込み作業	
	3	図書館資料収集ガイダンスの受講	

授業内容	4	テーマの設定，グループ分け，グループ別による研究の打合せ・グループディスカッション，グループ間によるテーマ研究打合せ報告とディスカッション
	5	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション
	6	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション，発表資料の作成開始・レポートの作成開始
	7	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション，発表資料の作成・レポートの作成
	8	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション，発表資料の作成・レポートの作成
	9	中間発表 質疑応答
	10	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション，発表資料の作成・レポートの作成（中間発表による修正）
	11	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション，発表資料の提出・レポート素案の提出
	12	プレゼンテーション準備（発表練習）と質疑応答，グループディスカッション
	13	合同発表会によるプレゼンテーション，質疑応答，レポート最終素案の提出
	14	最終レポートの修正
	15	最終レポートの提出
	16	
キーワード	初年次教育，課題解決型学習，自己表現能力，コミュニケーション能力	
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ，必要があればその時，指示する。	
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッションへの積極的参加20点，プレゼンテーション 20点，レポート 60点（個人レポート10点，進捗状況・計画等の報告10点，文章構成力・文章表現力・オリジナリティー40点）	
受講要件（履修条件）	全体の5分の4以上の出席を必要とする。	
備考（URL）		
学生へのメッセージ	本科目の位置づけ及び学習・教育目標については、教養教育学生便覧を参照すること。	





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140560001012	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(教育)		
編集担当教員	及川 大地		
授業担当教員名(科目責任者)	及川 大地		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	及川 大地		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[全] 学部問い合わせのこと		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業到達目標	①知的活動への動機づけを高める。② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業方法（学習指導法）	学生それぞれに研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表する。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは複数のに絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、プレゼンテーション形式で行う。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成し、教養ゼミナール研究を行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。		
	以下の内容をクラスごとに行う。クラスにより内容が前後することがある。シラバスに変更がある場合はクラスごとに配布する。		
	回	内容	
	1	自己紹介、教養ゼミナールの趣旨説明、教養ゼミナールの具体的進め方・計画の説明	
	2	各学生によるテーマの提示と説明、質疑応答、学生間の議論・討論によるテーマの絞り込み作業	
	3	図書館資料収集ガイダンスの受講	

授業内容	4	テーマの設定，グループ分け，グループ別による研究の打合せ・グループディスカッション，グループ間によるテーマ研究打合せ報告とディスカッション
	5	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション
	6	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション，発表資料の作成開始・レポートの作成開始
	7	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション，発表資料の作成・レポートの作成
	8	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション，発表資料の作成・レポートの作成
	9	中間発表 質疑応答
	10	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション，発表資料の作成・レポートの作成（中間発表による修正）
	11	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション，発表資料の提出・レポート素案の提出
	12	プレゼンテーション準備（発表練習）と質疑応答，グループディスカッション
	13	合同発表会によるプレゼンテーション，質疑応答，レポート最終素案の提出
	14	最終レポートの修正
	15	最終レポートの提出
	16	
キーワード	初年次教育，課題解決型学習，自己表現能力，コミュニケーション能力	
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ，必要があればその時，指示する。	
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッションへの積極的参加20点，プレゼンテーション 20点，レポート 60点（個人レポート10点，進捗状況・計画等の報告10点，文章構成力・文章表現力・オリジナリティー40点）	
受講要件（履修条件）	全体の5分の4以上の出席を必要とする。	
備考（URL）		
学生へのメッセージ	本科目の位置づけ及び学習・教育目標については、教養教育学生便覧を参照すること。	





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140560001013	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(教育)		
編集担当教員	高橋 浩二		
授業担当教員名(科目責任者)	高橋 浩二		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	高橋 浩二		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教]31講義室		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業到達目標	①知的活動への動機づけを高める。② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業方法（学習指導法）	学生それぞれに研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表する。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、プレゼンテーション形式で行う。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成し、教養ゼミナール研究を行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。		
	以下の内容をクラスごとに行う。クラスにより内容が前後することがある。シラバスに変更がある場合はクラスごとに配布する。		
	回	内容	
	1	自己紹介、教養ゼミナールの趣旨説明、教養ゼミナールの具体的進め方・計画の説明	
	2	各学生によるテーマの提示と説明、質疑応答、学生間の議論・討論によるテーマの絞り込み作業	
	3	図書館資料収集ガイダンスの受講	

授業内容	4	テーマの設定，グループ分け，グループ別による研究の打合せ・グループディスカッション，グループ間によるテーマ研究打合せ報告とディスカッション
	5	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション
	6	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション，発表資料の作成開始・レポートの作成開始
	7	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション，発表資料の作成・レポートの作成
	8	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション，発表資料の作成・レポートの作成
	9	中間発表 質疑応答
	10	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション，発表資料の作成・レポートの作成（中間発表による修正）
	11	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション，発表資料の提出・レポート素案の提出
	12	プレゼンテーション準備（発表練習）と質疑応答，グループディスカッション
	13	合同発表会によるプレゼンテーション，質疑応答，レポート最終素案の提出
	14	最終レポートの修正
	15	最終レポートの提出
	16	
キーワード	初年次教育，課題解決型学習，自己表現能力，コミュニケーション能力	
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ，必要があればその時，指示する。	
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッションへの積極的参加20点，プレゼンテーション 20点，レポート 60点（個人レポート10点，進捗状況・計画等の報告10点，文章構成力・文章表現力・オリジナリティー40点）	
受講要件（履修条件）	全体の5分の4以上の出席を必要とする。	
備考（URL）		
学生へのメッセージ	本科目の位置づけ及び学習・教育目標については、教養教育学生便覧を参照すること。	





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140560001014	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(教育)		
編集担当教員	綿巻 徹		
授業担当教員名(科目責任者)	綿巻 徹		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	綿巻 徹		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教]32講義室		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業到達目標	①知的活動への動機づけを高める。② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業方法（学習指導法）	学生それぞれに研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表する。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは複数のに絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、プレゼンテーション形式で行う。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成し、教養ゼミナール研究を行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。		
	以下の内容をクラスごとに行う。クラスにより内容が前後することがある。シラバスに変更がある場合はクラスごとに配布する。		
	回	内容	
	1	自己紹介、教養ゼミナールの趣旨説明、教養ゼミナールの具体的進め方・計画の説明	
	2	各学生によるテーマの提示と説明、質疑応答、学生間の議論・討論によるテーマの絞り込み作業	
	3	図書館資料収集ガイダンスの受講	

授業内容	4	テーマの設定，グループ分け，グループ別による研究の打合せ・グループディスカッション，グループ間によるテーマ研究打合せ報告とディスカッション
	5	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション
	6	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション，発表資料の作成開始・レポートの作成開始
	7	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション，発表資料の作成・レポートの作成
	8	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション，発表資料の作成・レポートの作成
	9	中間発表 質疑応答
	10	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション，発表資料の作成・レポートの作成（中間発表による修正）
	11	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション，発表資料の提出・レポート素案の提出
	12	プレゼンテーション準備（発表練習）と質疑応答，グループディスカッション
	13	合同発表会によるプレゼンテーション，質疑応答，レポート最終素案の提出
	14	最終レポートの修正
	15	最終レポートの提出
	16	
キーワード	初年次教育，課題解決型学習，自己表現能力，コミュニケーション能力	
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ，必要があればその時，指示する。	
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッションへの積極的参加20点，プレゼンテーション 20点，レポート 60点（個人レポート10点，進捗状況・計画等の報告10点，文章構成力・文章表現力・オリジナリティー40点）	
受講要件（履修条件）	全体の5分の4以上の出席を必要とする。	
備考（URL）		
学生へのメッセージ	本科目の位置づけ及び学習・教育目標については、教養教育学生便覧を参照すること。	





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140560001015	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(教育)		
編集担当教員	呉屋 博		
授業担当教員名(科目責任者)	呉屋 博		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	呉屋 博		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教]41講義室		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業到達目標	①知的活動への動機づけを高める。② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業方法（学習指導法）	学生それぞれに研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表する。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、プレゼンテーション形式で行う。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成し、教養ゼミナール研究を行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。		
	以下の内容をクラスごとに行う。クラスにより内容が前後することがある。シラバスに変更がある場合はクラスごとに配布する。		
	回	内容	
	1	自己紹介、教養ゼミナールの趣旨説明、教養ゼミナールの具体的進め方・計画の説明	
	2	各学生によるテーマの提示と説明、質疑応答、学生間の議論・討論によるテーマの絞り込み作業	
	3	図書館資料収集ガイダンスの受講	

授業内容	4	テーマの設定，グループ分け，グループ別による研究の打合せ・グループディスカッション，グループ間によるテーマ研究打合せ報告とディスカッション
	5	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション
	6	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション，発表資料の作成開始・レポートの作成開始
	7	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション，発表資料の作成・レポートの作成
	8	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション，発表資料の作成・レポートの作成
	9	中間発表 質疑応答
	10	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション，発表資料の作成・レポートの作成（中間発表による修正）
	11	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション，発表資料の提出・レポート素案の提出
	12	プレゼンテーション準備（発表練習）と質疑応答，グループディスカッション
	13	合同発表会によるプレゼンテーション，質疑応答，レポート最終素案の提出
	14	最終レポートの修正
	15	最終レポートの提出
	16	
キーワード	初年次教育，課題解決型学習，自己表現能力，コミュニケーション能力	
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ，必要があればその時，指示する。	
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッションへの積極的参加20点，プレゼンテーション 20点，レポート 60点（個人レポート10点，進捗状況・計画等の報告10点，文章構成力・文章表現力・オリジナリティー40点）	
受講要件（履修条件）	全体の5分の4以上の出席を必要とする。	
備考（URL）		
学生へのメッセージ	本科目の位置づけ及び学習・教育目標については、教養教育学生便覧を参照すること。	





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140560001016	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(教育)		
編集担当教員	山岸 賢一郎		
授業担当教員名(科目責任者)	山岸 賢一郎		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	山岸 賢一郎		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[全] 学部問い合わせのこと		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業到達目標	①知的活動への動機づけを高める。② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業方法（学習指導法）	学生それぞれに研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表する。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、プレゼンテーション形式で行う。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成し、教養ゼミナール研究を行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。		
	以下の内容をクラスごとに行う。クラスにより内容が前後することがある。シラバスに変更がある場合はクラスごとに配布する。		
	回	内容	
	1	自己紹介、教養ゼミナールの趣旨説明、教養ゼミナールの具体的進め方・計画の説明	
	2	各学生によるテーマの提示と説明、質疑応答、学生間の議論・討論によるテーマの絞り込み作業	
	3	図書館資料収集ガイダンスの受講	

授業内容	4	テーマの設定，グループ分け，グループ別による研究の打合せ・グループディスカッション，グループ間によるテーマ研究打合せ報告とディスカッション
	5	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション
	6	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション，発表資料の作成開始・レポートの作成開始
	7	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション，発表資料の作成・レポートの作成
	8	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション，発表資料の作成・レポートの作成
	9	中間発表 質疑応答
	10	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション，発表資料の作成・レポートの作成（中間発表による修正）
	11	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション，発表資料の提出・レポート素案の提出
	12	プレゼンテーション準備（発表練習）と質疑応答，グループディスカッション
	13	合同発表会によるプレゼンテーション，質疑応答，レポート最終素案の提出
	14	最終レポートの修正
	15	最終レポートの提出
	16	
キーワード	初年次教育，課題解決型学習，自己表現能力，コミュニケーション能力	
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ，必要があればその時，指示する。	
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッションへの積極的参加20点，プレゼンテーション 20点，レポート 60点（個人レポート10点，進捗状況・計画等の報告10点，文章構成力・文章表現力・オリジナリティー40点）	
受講要件（履修条件）	全体の5分の4以上の出席を必要とする。	
備考（URL）		
学生へのメッセージ	本科目の位置づけ及び学習・教育目標については、教養教育学生便覧を参照すること。	





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140560001017	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(教育)		
編集担当教員	石川 衣紀		
授業担当教員名(科目責任者)	石川 衣紀		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	石川 衣紀		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[全] 学部問い合わせのこと		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業到達目標	①知的活動への動機づけを高める。② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業方法（学習指導法）	学生それぞれに研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表する。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、プレゼンテーション形式で行う。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成し、教養ゼミナール研究を行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。		
	以下の内容をクラスごとに行う。クラスにより内容が前後することがある。シラバスに変更がある場合はクラスごとに配布する。		
	回	内容	
	1	自己紹介、教養ゼミナールの趣旨説明、教養ゼミナールの具体的進め方・計画の説明	
	2	各学生によるテーマの提示と説明、質疑応答、学生間の議論・討論によるテーマの絞り込み作業	
	3	図書館資料収集ガイダンスの受講	

授業内容	4	テーマの設定，グループ分け，グループ別による研究の打合せ・グループディスカッション，グループ間によるテーマ研究打合せ報告とディスカッション
	5	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション
	6	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション，発表資料の作成開始・レポートの作成開始
	7	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション，発表資料の作成・レポートの作成
	8	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション，発表資料の作成・レポートの作成
	9	中間発表 質疑応答
	10	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション，発表資料の作成・レポートの作成（中間発表による修正）
	11	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション，発表資料の提出・レポート素案の提出
	12	プレゼンテーション準備（発表練習）と質疑応答，グループディスカッション
	13	合同発表会によるプレゼンテーション，質疑応答，レポート最終素案の提出
	14	最終レポートの修正
	15	最終レポートの提出
	16	
キーワード	初年次教育，課題解決型学習，自己表現能力，コミュニケーション能力	
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ，必要があればその時，指示する。	
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッションへの積極的参加20点，プレゼンテーション 20点，レポート 60点（個人レポート10点，進捗状況・計画等の報告10点，文章構成力・文章表現力・オリジナリティー40点）	
受講要件（履修条件）	全体の5分の4以上の出席を必要とする。	
備考（URL）		
学生へのメッセージ	本科目の位置づけ及び学習・教育目標については、教養教育学生便覧を参照すること。	





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140560001018	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(教育)		
編集担当教員	赤崎 眞弓		
授業担当教員名(科目責任者)	赤崎 眞弓		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	赤崎 眞弓		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教]42講義室		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業到達目標	①知的活動への動機づけを高める。② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業方法（学習指導法）	学生それぞれに研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表する。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、プレゼンテーション形式で行う。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成し、教養ゼミナール研究を行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。		
	以下の内容をクラスごとに行う。クラスにより内容が前後することがある。シラバスに変更がある場合はクラスごとに配布する。		
	回	内容	
	1	自己紹介、教養ゼミナールの趣旨説明、教養ゼミナールの具体的進め方・計画の説明	
	2	各学生によるテーマの提示と説明、質疑応答、学生間の議論・討論によるテーマの絞り込み作業	
	3	図書館資料収集ガイダンスの受講	

授業内容	4	テーマの設定，グループ分け，グループ別による研究の打合せ・グループディスカッション，グループ間によるテーマ研究打合せ報告とディスカッション
	5	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション
	6	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション，発表資料の作成開始・レポートの作成開始
	7	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション，発表資料の作成・レポートの作成
	8	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション，発表資料の作成・レポートの作成
	9	中間発表 質疑応答
	10	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション，発表資料の作成・レポートの作成（中間発表による修正）
	11	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション，発表資料の提出・レポート素案の提出
	12	プレゼンテーション準備（発表練習）と質疑応答，グループディスカッション
	13	合同発表会によるプレゼンテーション，質疑応答，レポート最終素案の提出
	14	最終レポートの修正
	15	最終レポートの提出
	16	
キーワード	初年次教育，課題解決型学習，自己表現能力，コミュニケーション能力	
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ，必要があればその時，指示する。	
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッションへの積極的参加20点，プレゼンテーション 20点，レポート 60点（個人レポート10点，進捗状況・計画等の報告10点，文章構成力・文章表現力・オリジナリティー40点）	
受講要件（履修条件）	全体の5分の4以上の出席を必要とする。	
備考（URL）		
学生へのメッセージ	本科目の位置づけ及び学習・教育目標については、教養教育学生便覧を参照すること。	





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140560001019	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(教育)		
編集担当教員	倉田 伸		
授業担当教員名(科目責任者)	倉田 伸		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	倉田 伸		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教]第2PC室		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業到達目標	①知的活動への動機づけを高める。② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業方法（学習指導法）	学生それぞれに研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表する。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは複数のに絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、プレゼンテーション形式で行う。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成し、教養ゼミナール研究を行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。		
	以下の内容をクラスごとに行う。クラスにより内容が前後することがある。シラバスに変更がある場合はクラスごとに配布する。		
	回	内容	
	1	自己紹介、教養ゼミナールの趣旨説明、教養ゼミナールの具体的進め方・計画の説明	
	2	各学生によるテーマの提示と説明、質疑応答、学生間の議論・討論によるテーマの絞り込み作業	
	3	図書館資料収集ガイダンスの受講	

授業内容	4	テーマの設定，グループ分け，グループ別による研究の打合せ・グループディスカッション，グループ間によるテーマ研究打合せ報告とディスカッション
	5	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション
	6	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション，発表資料の作成開始・レポートの作成開始
	7	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション，発表資料の作成・レポートの作成
	8	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション，発表資料の作成・レポートの作成
	9	中間発表 質疑応答
	10	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション，発表資料の作成・レポートの作成（中間発表による修正）
	11	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション，発表資料の提出・レポート素案の提出
	12	プレゼンテーション準備（発表練習）と質疑応答，グループディスカッション
	13	合同発表会によるプレゼンテーション，質疑応答，レポート最終素案の提出
	14	最終レポートの修正
	15	最終レポートの提出
	16	
キーワード	初年次教育，課題解決型学習，自己表現能力，コミュニケーション能力	
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ，必要があればその時，指示する。	
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッションへの積極的参加20点，プレゼンテーション 20点，レポート 60点（個人レポート10点，進捗状況・計画等の報告10点，文章構成力・文章表現力・オリジナリティー40点）	
受講要件（履修条件）	全体の5分の4以上の出席を必要とする。	
備考（URL）		
学生へのメッセージ	本科目の位置づけ及び学習・教育目標については、教養教育学生便覧を参照すること。	





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140560001020	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(教育)		
編集担当教員	瀬戸崎 典夫		
授業担当教員名(科目責任者)	瀬戸崎 典夫		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	瀬戸崎 典夫		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[全] 学部問い合わせのこと		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業到達目標	①知的活動への動機づけを高める。② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を育てる。③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を育てる。④学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業方法（学習指導法）	学生それぞれに研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表する。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、プレゼンテーション形式で行う。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成し、教養ゼミナール研究を行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。		
	以下の内容をクラスごとに行う。クラスにより内容が前後することがある。シラバスに変更がある場合はクラスごとに配布する。		
	回	内容	
	1	自己紹介、教養ゼミナールの趣旨説明、教養ゼミナールの具体的進め方・計画の説明	
	2	各学生によるテーマの提示と説明、質疑応答、学生間の議論・討論によるテーマの絞り込み作業	
	3	図書館資料収集ガイダンスの受講	

授業内容	4	テーマの設定，グループ分け，グループ別による研究の打合せ・グループディスカッション，グループ間によるテーマ研究打合せ報告とディスカッション
	5	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション
	6	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション，発表資料の作成開始・レポートの作成開始
	7	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション，発表資料の作成・レポートの作成
	8	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション，発表資料の作成・レポートの作成
	9	中間発表 質疑応答
	10	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション，発表資料の作成・レポートの作成（中間発表による修正）
	11	テーマ研究の進捗状況・経過報告，計画案報告・グループディスカッション・全体のディスカッション，発表資料の提出・レポート素案の提出
	12	プレゼンテーション準備（発表練習）と質疑応答，グループディスカッション
	13	合同発表会によるプレゼンテーション，質疑応答，レポート最終素案の提出
	14	最終レポートの修正
	15	最終レポートの提出
	16	
キーワード	初年次教育，課題解決型学習，自己表現能力，コミュニケーション能力	
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ，必要があればその時，指示する。	
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッションへの積極的参加20点，プレゼンテーション 20点，レポート 60点（個人レポート10点，進捗状況・計画等の報告10点，文章構成力・文章表現力・オリジナリティー40点）	
受講要件（履修条件）	全体の5分の4以上の出席を必要とする。	
備考（URL）		
学生へのメッセージ	本科目の位置づけ及び学習・教育目標については、教養教育学生便覧を参照すること。	





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木 4
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140560001021	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(経済)		
編集担当教員	大倉 真人		
授業担当教員名(科目責任者)	大倉 真人		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	大倉 真人		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[全] 学部問い合わせのこと		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業到達目標	① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を身につける。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を身につける。 ④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業方法（学習指導法）	・ 1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。 ・ ディスカッションなど双方向型の学習形態を中心とする。実地調査の組み込み等具体的な実施方法は各クラス担当教員が決める。		
授業内容	・ 週1コマ、15週で2単位とする。 ・ 自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して身につける。 ・ 各教員の指示に従い、課題についてのグループディスカッション、全体ディスカッション、グループによるテーマ研究、成果のプレゼンテーション・質疑応答、レポート作成などに		

	取り組む。 ・ 図書館資料収集ガイダンス，メディアステーションガイダンス，情報セキュリティに関する授業などが適宜組み込まれる（クラスにより異なる）。
キーワード	
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加，情報の収集状況・分析など)，プレゼンテーション(わかりやすい資料，話の構成，説得力など)，レポート(構成，文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による。)
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	



タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金 4
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140560001035	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(経済)		
編集担当教員	小山 久美子		
授業担当教員名(科目責任者)	小山 久美子		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	小山 久美子		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[全] 学部間い合わせのこと		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業到達目標	① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を身につける。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を身につける。 ④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業方法（学習指導法）	・ 1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。 ・ ディスカッションなど双方向型の学習形態を中心とする。実地調査の組み込み等具体的な実施方法は各クラス担当教員が決める。		
授業内容	・ 週1コマ、15週で2単位とする。 ・ 自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して身につける。 ・ 各教員の指示に従い、課題についてのグループディスカッション、全体ディスカッション、グループによるテーマ研究、成果のプレゼンテーション・質疑応答、レポート作成などに		

	取り組む。 ・ 図書館資料収集ガイダンス，メディアステーションガイダンス，情報セキュリティに関する授業などが適宜組み込まれる（クラスにより異なる）。
キーワード	
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加，情報の収集状況・分析など)，プレゼンテーション(わかりやすい資料，話の構成，説得力など)，レポート(構成，文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による。)
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木 4
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140560001023	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(経済)		
編集担当教員	式見 拓仙		
授業担当教員名(科目責任者)	式見 拓仙		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	式見 拓仙		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[全] 学部間い合わせのこと		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業到達目標	① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を身につける。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を身につける。 ④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業方法（学習指導法）	・ 1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。 ・ ディスカッションなど双方向型の学習形態を中心とする。実地調査の組み込み等具体的な実施方法は各クラス担当教員が決める。		
授業内容	・ 週1コマ、15週で2単位とする。 ・ 自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して身につける。 ・ 各教員の指示に従い、課題についてのグループディスカッション、全体ディスカッション、グループによるテーマ研究、成果のプレゼンテーション・質疑応答、レポート作成などに		

	取り組む。 ・ 図書館資料収集ガイダンス，メディアステーションガイダンス，情報セキュリティに関する授業などが適宜組み込まれる（クラスにより異なる）。
キーワード	
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加，情報の収集状況・分析など)，プレゼンテーション(わかりやすい資料，話の構成，説得力など)，レポート(構成，文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による。)
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木 4
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140560001024	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(経済)		
編集担当教員	岩田 安晴		
授業担当教員名(科目責任者)	岩田 安晴		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	岩田 安晴		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[全] 学部間い合わせのこと		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス	yiwata@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー	木曜日12:00-12:45（事前にメールで予約確認のこと）		
授業の概要及び位置づけ	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業到達目標	① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を身につける。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を身につける。 ④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業方法（学習指導法）	・ 1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。 ・ ディスカッションなど双方向型の学習形態を中心とする。実地調査の組み込み等具体的な実施方法は各クラス担当教員が決める。		
授業内容	・ 週1コマ、15週で2単位とする。 ・ 自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して身につける。 ・ 各教員の指示に従い、課題についてのグループディスカッション、全体ディスカッション、グループによるテーマ研究、成果のプレゼンテーション・質疑応答、レポート作成などに		

	取り組む。 ・ 図書館資料収集ガイダンス，メディアステーションガイダンス，情報セキュリティに関する授業などが適宜組み込まれる（クラスにより異なる）。
キーワード	
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加，情報の収集状況・分析など)，プレゼンテーション(わかりやすい資料，話の構成，説得力など)，レポート(構成，文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による。)
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	学習意欲を持って楽しんで取り組んでください。





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木 4
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140560001025	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(経済)		
編集担当教員	庵谷 治男		
授業担当教員名(科目責任者)	庵谷 治男		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	庵谷 治男		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[全] 学部間い合わせのこと		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業到達目標	① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を身につける。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を身につける。 ④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業方法（学習指導法）	・ 1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。 ・ ディスカッションなど双方向型の学習形態を中心とする。実地調査の組み込み等具体的な実施方法は各クラス担当教員が決める。		
授業内容	・ 週1コマ、15週で2単位とする。 ・ 自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して身につける。 ・ 各教員の指示に従い、課題についてのグループディスカッション、全体ディスカッション、グループによるテーマ研究、成果のプレゼンテーション・質疑応答、レポート作成などに		

	取り組む。 ・ 図書館資料収集ガイダンス，メディアステーションガイダンス，情報セキュリティに関する授業などが適宜組み込まれる（クラスにより異なる）。
キーワード	
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加，情報の収集状況・分析など)，プレゼンテーション(わかりやすい資料，話の構成，説得力など)，レポート(構成，文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による。)
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木 4
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140560001026	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(経済)		
編集担当教員	後藤 祐一		
授業担当教員名(科目責任者)	後藤 祐一		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	後藤 祐一		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[全] 学部間い合わせのこと		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業到達目標	① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を身につける。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を身につける。 ④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業方法（学習指導法）	・ 1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。 ・ ディスカッションなど双方向型の学習形態を中心とする。実地調査の組み込み等具体的な実施方法は各クラス担当教員が決める。		
授業内容	・ 週1コマ、15週で2単位とする。 ・ 自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して身につける。 ・ 各教員の指示に従い、課題についてのグループディスカッション、全体ディスカッション、グループによるテーマ研究、成果のプレゼンテーション・質疑応答、レポート作成などに		

	取り組む。 ・ 図書館資料収集ガイダンス，メディアステーションガイダンス，情報セキュリティに関する授業などが適宜組み込まれる（クラスにより異なる）。
キーワード	
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加，情報の収集状況・分析など)，プレゼンテーション(わかりやすい資料，話の構成，説得力など)，レポート(構成，文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による。)
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木 4
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140560001027	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(経済)		
編集担当教員	成田 真樹子		
授業担当教員名(科目責任者)	成田 真樹子		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	成田 真樹子		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[全] 学部間い合わせのこと		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業到達目標	① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を身につける。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を身につける。 ④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業方法（学習指導法）	・ 1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。 ・ ディスカッションなど双方向型の学習形態を中心とする。実地調査の組み込み等具体的な実施方法は各クラス担当教員が決める。		
授業内容	・ 週1コマ、15週で2単位とする。 ・ 自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して身につける。 ・ 各教員の指示に従い、課題についてのグループディスカッション、全体ディスカッション、グループによるテーマ研究、成果のプレゼンテーション・質疑応答、レポート作成などに		

	取り組む。 ・ 図書館資料収集ガイダンス，メディアステーションガイダンス，情報セキュリティに関する授業などが適宜組み込まれる（クラスにより異なる）。
キーワード	
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加，情報の収集状況・分析など)，プレゼンテーション(わかりやすい資料，話の構成，説得力など)，レポート(構成，文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による。)
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木 4
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140560001028	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(経済)		
編集担当教員	柴多 一雄		
授業担当教員名(科目責任者)	柴多 一雄		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	柴多 一雄		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[全] 学部間い合わせのこと		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業到達目標	① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を身につける。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を身につける。 ④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業方法（学習指導法）	・ 1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。 ・ ディスカッションなど双方向型の学習形態を中心とする。実地調査の組み込み等具体的な実施方法は各クラス担当教員が決める。		
授業内容	・ 週1コマ、15週で2単位とする。 ・ 自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して身につける。 ・ 各教員の指示に従い、課題についてのグループディスカッション、全体ディスカッション、グループによるテーマ研究、成果のプレゼンテーション・質疑応答、レポート作成などに		

	取り組む。 ・ 図書館資料収集ガイダンス，メディアステーションガイダンス，情報セキュリティに関する授業などが適宜組み込まれる（クラスにより異なる）。
キーワード	
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加，情報の収集状況・分析など)，プレゼンテーション(わかりやすい資料，話の構成，説得力など)，レポート(構成，文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による。)
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木 4
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140560001029	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(経済)		
編集担当教員	勝又 壮太郎		
授業担当教員名(科目責任者)	勝又 壮太郎		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	勝又 壮太郎		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[全] 学部間い合わせのこと		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業到達目標	① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を身につける。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を身につける。 ④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業方法（学習指導法）	・ 1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。 ・ ディスカッションなど双方向型の学習形態を中心とする。実地調査の組み込み等具体的な実施方法は各クラス担当教員が決める。		
授業内容	・ 週1コマ、15週で2単位とする。 ・ 自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して身につける。 ・ 各教員の指示に従い、課題についてのグループディスカッション、全体ディスカッション、グループによるテーマ研究、成果のプレゼンテーション・質疑応答、レポート作成などに		

	取り組む。 ・ 図書館資料収集ガイダンス，メディアステーションガイダンス，情報セキュリティに関する授業などが適宜組み込まれる（クラスにより異なる）。
キーワード	
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加，情報の収集状況・分析など)，プレゼンテーション(わかりやすい資料，話の構成，説得力など)，レポート(構成，文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による。)
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木 4
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140560001030	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(経済)		
編集担当教員	仲井 幹也		
授業担当教員名(科目責任者)	仲井 幹也		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	仲井 幹也		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[全] 学部間い合わせのこと		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業到達目標	① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を身につける。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を身につける。 ④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業方法（学習指導法）	・ 1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。 ・ ディスカッションなど双方向型の学習形態を中心とする。実地調査の組み込み等具体的な実施方法は各クラス担当教員が決める。		
授業内容	・ 週1コマ、15週で2単位とする。 ・ 自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して身につける。 ・ 各教員の指示に従い、課題についてのグループディスカッション、全体ディスカッション、グループによるテーマ研究、成果のプレゼンテーション・質疑応答、レポート作成などに		

	取り組む。 ・ 図書館資料収集ガイダンス，メディアステーションガイダンス，情報セキュリティに関する授業などが適宜組み込まれる（クラスにより異なる）。
キーワード	
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加，情報の収集状況・分析など)，プレゼンテーション(わかりやすい資料，話の構成，説得力など)，レポート(構成，文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による。)
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木 4
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140560001031	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(経済)		
編集担当教員	小野 哲		
授業担当教員名(科目責任者)	神薗 健次		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	神薗 健次		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[全] 学部間い合わせのこと		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業到達目標	① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を身につける。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を身につける。 ④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業方法（学習指導法）	・ 1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。 ・ ディスカッションなど双方向型の学習形態を中心とする。実地調査の組み込み等具体的な実施方法は各クラス担当教員が決める。		
授業内容	・ 週1コマ、15週で2単位とする。 ・ 自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して身につける。 ・ 各教員の指示に従い、課題についてのグループディスカッション、全体ディスカッション、グループによるテーマ研究、成果のプレゼンテーション・質疑応答、レポート作成などに		

	取り組む。 ・ 図書館資料収集ガイダンス，メディアステーションガイダンス，情報セキュリティに関する授業などが適宜組み込まれる（クラスにより異なる）。
キーワード	
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加，情報の収集状況・分析など)，プレゼンテーション(わかりやすい資料，話の構成，説得力など)，レポート(構成，文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による。)
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木 4
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140560001032	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(経済)		
編集担当教員	山口 純哉		
授業担当教員名(科目責任者)	山口 純哉		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	山口 純哉		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[全] 学部間い合わせのこと		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業到達目標	① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を身につける。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を身につける。 ④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業方法（学習指導法）	・ 1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。 ・ ディスカッションなど双方向型の学習形態を中心とする。実地調査の組み込み等具体的な実施方法は各クラス担当教員が決める。		
授業内容	・ 週1コマ、15週で2単位とする。 ・ 自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して身につける。 ・ 各教員の指示に従い、課題についてのグループディスカッション、全体ディスカッション、グループによるテーマ研究、成果のプレゼンテーション・質疑応答、レポート作成などに		

	取り組む。 ・ 図書館資料収集ガイダンス，メディアステーションガイダンス，情報セキュリティに関する授業などが適宜組み込まれる（クラスにより異なる）。
キーワード	
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加，情報の収集状況・分析など)，プレゼンテーション(わかりやすい資料，話の構成，説得力など)，レポート(構成，文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による。)
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木 4
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140560001033	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(経済)		
編集担当教員	神菌 健次		
授業担当教員名(科目責任者)	神菌 健次		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	神菌 健次		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[全] 学部間い合わせのこと		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業到達目標	① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を身につける。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を身につける。 ④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業方法（学習指導法）	・ 1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。 ・ ディスカッションなど双方向型の学習形態を中心とする。実地調査の組み込み等具体的な実施方法は各クラス担当教員が決める。		
授業内容	・ 週1コマ、15週で2単位とする。 ・ 自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して身につける。 ・ 各教員の指示に従い、課題についてのグループディスカッション、全体ディスカッション、グループによるテーマ研究、成果のプレゼンテーション・質疑応答、レポート作成などに		

	取り組む。 ・ 図書館資料収集ガイダンス，メディアステーションガイダンス，情報セキュリティに関する授業などが適宜組み込まれる（クラスにより異なる）。
キーワード	
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加，情報の収集状況・分析など)，プレゼンテーション(わかりやすい資料，話の構成，説得力など)，レポート(構成，文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による。)
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金 4
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140560001034	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(経済)		
編集担当教員	大倉 真人		
授業担当教員名(科目責任者)	大倉 真人		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	大倉 真人		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[全] 学部間い合わせのこと		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業到達目標	① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を身につける。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を身につける。 ④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業方法（学習指導法）	・ 1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。 ・ ディスカッションなど双方向型の学習形態を中心とする。実地調査の組み込み等具体的な実施方法は各クラス担当教員が決める。		
授業内容	・ 週1コマ、15週で2単位とする。 ・ 自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して身につける。 ・ 各教員の指示に従い、課題についてのグループディスカッション、全体ディスカッション、グループによるテーマ研究、成果のプレゼンテーション・質疑応答、レポート作成などに		

	取り組む。 ・ 図書館資料収集ガイダンス，メディアステーションガイダンス，情報セキュリティに関する授業などが適宜組み込まれる（クラスにより異なる）。
キーワード	
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加，情報の収集状況・分析など)，プレゼンテーション(わかりやすい資料，話の構成，説得力など)，レポート(構成，文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による。)
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金 4
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140560001035	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(経済)		
編集担当教員	小山 久美子		
授業担当教員名(科目責任者)	小山 久美子		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	小山 久美子		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[全] 学部間い合わせのこと		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業到達目標	① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を身につける。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を身につける。 ④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業方法（学習指導法）	・ 1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。 ・ ディスカッションなど双方向型の学習形態を中心とする。実地調査の組み込み等具体的な実施方法は各クラス担当教員が決める。		
授業内容	・ 週1コマ、15週で2単位とする。 ・ 自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して身につける。 ・ 各教員の指示に従い、課題についてのグループディスカッション、全体ディスカッション、グループによるテーマ研究、成果のプレゼンテーション・質疑応答、レポート作成などに		

	取り組む。 ・ 図書館資料収集ガイダンス，メディアステーションガイダンス，情報セキュリティに関する授業などが適宜組み込まれる（クラスにより異なる）。
キーワード	
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加，情報の収集状況・分析など)，プレゼンテーション(わかりやすい資料，話の構成，説得力など)，レポート(構成，文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による。)
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金 4
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140560001036	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(経済)		
編集担当教員	式見 拓仙		
授業担当教員名(科目責任者)	式見 拓仙		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	式見 拓仙		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[全] 学部間い合わせのこと		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業到達目標	① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を身につける。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を身につける。 ④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業方法（学習指導法）	・ 1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。 ・ ディスカッションなど双方向型の学習形態を中心とする。実地調査の組み込み等具体的な実施方法は各クラス担当教員が決める。		
授業内容	・ 週1コマ、15週で2単位とする。 ・ 自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して身につける。 ・ 各教員の指示に従い、課題についてのグループディスカッション、全体ディスカッション、グループによるテーマ研究、成果のプレゼンテーション・質疑応答、レポート作成などに		

	取り組む。 ・ 図書館資料収集ガイダンス，メディアステーションガイダンス，情報セキュリティに関する授業などが適宜組み込まれる（クラスにより異なる）。
キーワード	
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加，情報の収集状況・分析など)，プレゼンテーション(わかりやすい資料，話の構成，説得力など)，レポート(構成，文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による。)
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金 4
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140560001037	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(経済)		
編集担当教員	谷口 眞司		
授業担当教員名(科目責任者)	谷口 眞司		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	谷口 眞司		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[全] 学部間い合わせのこと		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業到達目標	① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を身につける。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を身につける。 ④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業方法（学習指導法）	・ 1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。 ・ ディスカッションなど双方向型の学習形態を中心とする。実地調査の組み込み等具体的な実施方法は各クラス担当教員が決める。		
授業内容	・ 週1コマ、15週で2単位とする。 ・ 自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して身につける。 ・ 各教員の指示に従い、課題についてのグループディスカッション、全体ディスカッション、グループによるテーマ研究、成果のプレゼンテーション・質疑応答、レポート作成などに		

	取り組む。 ・ 図書館資料収集ガイダンス，メディアステーションガイダンス，情報セキュリティに関する授業などが適宜組み込まれる（クラスにより異なる）。
キーワード	
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加，情報の収集状況・分析など)，プレゼンテーション(わかりやすい資料，話の構成，説得力など)，レポート(構成，文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による。)
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金 4
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140560001038	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(経済)		
編集担当教員	深浦 厚之		
授業担当教員名(科目責任者)	深浦 厚之		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	深浦 厚之		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[全] 学部問い合わせのこと		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業到達目標	① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を身につける。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を身につける。 ④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業方法（学習指導法）	・ 1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。 ・ ディスカッションなど双方向型の学習形態を中心とする。実地調査の組み込み等具体的な実施方法は各クラス担当教員が決める。		
授業内容	・ 週1コマ、15週で2単位とする。 ・ 自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して身につける。 ・ 各教員の指示に従い、課題についてのグループディスカッション、全体ディスカッション、グループによるテーマ研究、成果のプレゼンテーション・質疑応答、レポート作成などに		

	取り組む。 ・ 図書館資料収集ガイダンス，メディアステーションガイダンス，情報セキュリティに関する授業などが適宜組み込まれる（クラスにより異なる）。
キーワード	
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加，情報の収集状況・分析など)，プレゼンテーション(わかりやすい資料，話の構成，説得力など)，レポート(構成，文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による。)
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金 4
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140560001039	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(経済)		
編集担当教員	宇都宮 譲		
授業担当教員名(科目責任者)	宇都宮 譲		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	宇都宮 譲		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[全] 学部間い合わせのこと		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業到達目標	① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を身につける。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を身につける。 ④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業方法（学習指導法）	・ 1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。 ・ ディスカッションなど双方向型の学習形態を中心とする。実地調査の組み込み等具体的な実施方法は各クラス担当教員が決める。		
授業内容	・ 週1コマ、15週で2単位とする。 ・ 自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して身につける。 ・ 各教員の指示に従い、課題についてのグループディスカッション、全体ディスカッション、グループによるテーマ研究、成果のプレゼンテーション・質疑応答、レポート作成などに		

	取り組む。 ・ 図書館資料収集ガイダンス，メディアステーションガイダンス，情報セキュリティに関する授業などが適宜組み込まれる（クラスにより異なる）。
キーワード	
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加，情報の収集状況・分析など)，プレゼンテーション(わかりやすい資料，話の構成，説得力など)，レポート(構成，文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による。)
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金 4
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140560001040	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(経済)		
編集担当教員	式見 雅代		
授業担当教員名(科目責任者)	式見 雅代		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	式見 雅代		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[全] 学部間い合わせのこと		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業到達目標	① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を身につける。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を身につける。 ④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業方法（学習指導法）	・ 1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。 ・ ディスカッションなど双方向型の学習形態を中心とする。実地調査の組み込み等具体的な実施方法は各クラス担当教員が決める。		
授業内容	・ 週1コマ、15週で2単位とする。 ・ 自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して身につける。 ・ 各教員の指示に従い、課題についてのグループディスカッション、全体ディスカッション、グループによるテーマ研究、成果のプレゼンテーション・質疑応答、レポート作成などに		

	取り組む。 ・ 図書館資料収集ガイダンス，メディアステーションガイダンス，情報セキュリティに関する授業などが適宜組み込まれる（クラスにより異なる）。
キーワード	
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加，情報の収集状況・分析など)，プレゼンテーション(わかりやすい資料，話の構成，説得力など)，レポート(構成，文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による。)
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金 4
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140560001041	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(経済)		
編集担当教員	松本 睦樹		
授業担当教員名(科目責任者)	松本 睦樹		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	松本 睦樹		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[全] 学部間い合わせのこと		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業到達目標	① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を身につける。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を身につける。 ④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業方法（学習指導法）	・ 1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。 ・ ディスカッションなど双方向型の学習形態を中心とする。実地調査の組み込み等具体的な実施方法は各クラス担当教員が決める。		
授業内容	・ 週1コマ、15週で2単位とする。 ・ 自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して身につける。 ・ 各教員の指示に従い、課題についてのグループディスカッション、全体ディスカッション、グループによるテーマ研究、成果のプレゼンテーション・質疑応答、レポート作成などに		

	取り組む。 ・ 図書館資料収集ガイダンス，メディアステーションガイダンス，情報セキュリティに関する授業などが適宜組み込まれる（クラスにより異なる）。
キーワード	
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加，情報の収集状況・分析など)，プレゼンテーション(わかりやすい資料，話の構成，説得力など)，レポート(構成，文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による。)
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金 4
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140560001042	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(経済)		
編集担当教員	津留崎 和義		
授業担当教員名(科目責任者)	津留崎 和義		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	津留崎 和義		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[全] 学部間い合わせのこと		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業到達目標	① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を身につける。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を身につける。 ④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業方法（学習指導法）	・ 1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。 ・ ディスカッションなど双方向型の学習形態を中心とする。実地調査の組み込み等具体的な実施方法は各クラス担当教員が決める。		
授業内容	・ 週1コマ、15週で2単位とする。 ・ 自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して身につける。 ・ 各教員の指示に従い、課題についてのグループディスカッション、全体ディスカッション、グループによるテーマ研究、成果のプレゼンテーション・質疑応答、レポート作成などに		

	取り組む。 ・ 図書館資料収集ガイダンス，メディアステーションガイダンス，情報セキュリティに関する授業などが適宜組み込まれる（クラスにより異なる）。
キーワード	
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加，情報の収集状況・分析など)，プレゼンテーション(わかりやすい資料，話の構成，説得力など)，レポート(構成，文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による。)
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金 4
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140560001043	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(経済)		
編集担当教員	村田 嘉弘		
授業担当教員名(科目責任者)	村田 嘉弘		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	村田 嘉弘		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[全] 学部間い合わせのこと		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業到達目標	① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を身につける。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を身につける。 ④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業方法（学習指導法）	・ 1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。 ・ ディスカッションなど双方向型の学習形態を中心とする。実地調査の組み込み等具体的な実施方法は各クラス担当教員が決める。		
授業内容	・ 週1コマ、15週で2単位とする。 ・ 自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して身につける。 ・ 各教員の指示に従い、課題についてのグループディスカッション、全体ディスカッション、グループによるテーマ研究、成果のプレゼンテーション・質疑応答、レポート作成などに		

	取り組む。 ・ 図書館資料収集ガイダンス，メディアステーションガイダンス，情報セキュリティに関する授業などが適宜組み込まれる（クラスにより異なる）。
キーワード	
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加，情報の収集状況・分析など)，プレゼンテーション(わかりやすい資料，話の構成，説得力など)，レポート(構成，文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による。)
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金 4
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140560001044	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(経済)		
編集担当教員	土橋 力也		
授業担当教員名(科目責任者)	土橋 力也		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	土橋 力也		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[全] 学部問い合わせのこと		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業到達目標	① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を身につける。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を身につける。 ④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業方法（学習指導法）	・ 1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。 ・ ディスカッションなど双方向型の学習形態を中心とする。実地調査の組み込み等具体的な実施方法は各クラス担当教員が決める。		
授業内容	・ 週1コマ、15週で2単位とする。 ・ 自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して身につける。 ・ 各教員の指示に従い、課題についてのグループディスカッション、全体ディスカッション、グループによるテーマ研究、成果のプレゼンテーション・質疑応答、レポート作成などに		

	取り組む。 ・ 図書館資料収集ガイダンス，メディアステーションガイダンス，情報セキュリティに関する授業などが適宜組み込まれる（クラスにより異なる）。
キーワード	
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加，情報の収集状況・分析など)，プレゼンテーション(わかりやすい資料，話の構成，説得力など)，レポート(構成，文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による。)
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金 4
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140560001045	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(経済)		
編集担当教員	丸山 真純		
授業担当教員名(科目責任者)	丸山 真純		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	丸山 真純		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[全] 学部間い合わせのこと		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業到達目標	① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を身につける。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を身につける。 ④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業方法（学習指導法）	・ 1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。 ・ ディスカッションなど双方向型の学習形態を中心とする。実地調査の組み込み等具体的な実施方法は各クラス担当教員が決める。		
授業内容	・ 週1コマ、15週で2単位とする。 ・ 自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して身につける。 ・ 各教員の指示に従い、課題についてのグループディスカッション、全体ディスカッション、グループによるテーマ研究、成果のプレゼンテーション・質疑応答、レポート作成などに		

	取り組む。 ・ 図書館資料収集ガイダンス，メディアステーションガイダンス，情報セキュリティに関する授業などが適宜組み込まれる（クラスにより異なる）。
キーワード	
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加，情報の収集状況・分析など)，プレゼンテーション(わかりやすい資料，話の構成，説得力など)，レポート(構成，文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による。)
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金 4
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140560001046	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(経済)		
編集担当教員	張 笑男		
授業担当教員名(科目責任者)	張 笑男		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	張 笑男		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[全] 学部間い合わせのこと		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業到達目標	① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を身につける。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を身につける。 ④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業方法（学習指導法）	・ 1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。 ・ ディスカッションなど双方向型の学習形態を中心とする。実地調査の組み込み等具体的な実施方法は各クラス担当教員が決める。		
授業内容	・ 週1コマ、15週で2単位とする。 ・ 自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して身につける。 ・ 各教員の指示に従い、課題についてのグループディスカッション、全体ディスカッション、グループによるテーマ研究、成果のプレゼンテーション・質疑応答、レポート作成などに		

	取り組む。 ・ 図書館資料収集ガイダンス，メディアステーションガイダンス，情報セキュリティに関する授業などが適宜組み込まれる（クラスにより異なる）。
キーワード	
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加，情報の収集状況・分析など)，プレゼンテーション(わかりやすい資料，話の構成，説得力など)，レポート(構成，文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による。)
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金 4
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140560001047	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(経済)		
編集担当教員	林川 美由樹		
授業担当教員名(科目責任者)	林川 美由樹		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	林川 美由樹		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[全] 学部間い合わせのこと		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	知的活動への動機づけを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てることを具体的なねらいとしており、高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすことを目標とする。また、大学での学習の入り口として、学生と教員および学生相互のコミュニケーションづくりにも効果が期待される。これらを通じて、今後の大学での学習活動を円滑に進める。		
授業到達目標	① 知的活動への動機づけを高める。 ② 科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力を身につける。 ③ レポートと口頭によるプレゼンテーションとディスカッションを通じた適切な自己表現能力を身につける。 ④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業方法（学習指導法）	・ 1クラス10名程度の学生で構成し、原則として1名の教員が前期を通じて担当する。 ・ ディスカッションなど双方向型の学習形態を中心とする。実地調査の組み込み等具体的な実施方法は各クラス担当教員が決める。		
授業内容	・ 週1コマ、15週で2単位とする。 ・ 自主的に学習し、課題を発見し、解決するとはどのようなことかを、討論などの双方向型の学習形態を通して身につける。 ・ 各教員の指示に従い、課題についてのグループディスカッション、全体ディスカッション、グループによるテーマ研究、成果のプレゼンテーション・質疑応答、レポート作成などに		

	取り組む。 ・ 図書館資料収集ガイダンス，メディアステーションガイダンス，情報セキュリティに関する授業などが適宜組み込まれる（クラスにより異なる）。
キーワード	
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールに対する取り組み方・ディスカッション(教養ゼミナールへの積極的な参加，情報の収集状況・分析など)，プレゼンテーション(わかりやすい資料，話の構成，説得力など)，レポート(構成，文章表現など)により総合的に評価する。(詳細は各クラスの担当教員の指示による。)
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140560001048	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(環境科学部)		
編集担当教員	梅津 千恵子		
授業担当教員名(科目責任者)	梅津 千恵子		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	梅津 千恵子		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[環] フィールドリサーチ準備室		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	新入生を環境科学へいざなうとともに、知的活動への動機づけ、論理的思考とその表現方法の習得を目的とする。具体的には、新入生が初めて出会う環境科学という学問分野の概要を説明し、受講生自らが選択したテーマについて能動的グループ学習を通じ、人文社会科学的または自然科学的な思考方法、グループワークの進め方、実験・調査の計画法、文書やプレゼンテーションによる表現方法などについて学ぶ。高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能も果たす。また、カリキュラムと履修上の留意点等を再確認する。以上により、本学部での学習活動を円滑に進めることをねらいとする。		
授業到達目標	① 知的活動への動機づけを高める。② 科学的思考力と学習・実験の計画能力を育てる。③ 文書作成、プレゼンテーション、ディスカッションにより自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業方法（学習指導法）	受講生それぞれが環境科学分野で研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表させる。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画等について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、口頭発表させる。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成させ、教養セミナーを行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。		
	大学および学部ガイダンス，班別作業，テーマ決定，調査，プレゼンテーション，レポート作成		
	回	内容	
	1	担当教員と受講生の自己紹介、学部の教育研究活動の紹介	
	2	専門教育科目の履修ガイダンス	
	3	環境科学へのいざない（講義）	
	4	資料収集ガイダンスの受講	

授業内容	5	グループワーク、レポート作成、プレゼンテーション、ディスカッションの技法に関する講義
	6	取り組むテーマの選択、グループ分け、グループディスカッション
	7	テーマ研究の開始・グループディスカッション、計画案の報告
	8	グループディスカッション、進捗状況・経過報告
	9	中間発表会の実施、グループ間討論、方向性について再検討
	10	グループディスカッション、進捗状況・経過報告
	11	グループディスカッション、進捗状況・経過報告
	12	レポートおよびプレゼンテーションの準備と作成
	13	レポートおよびプレゼンテーションの準備と作成
	14	最終報告会の実施（プレゼンテーションと質疑応答）、レポートの提出
	15	総合討論会（講評、総括）
	16	
キーワード	人文社会科学的・自然科学的思考方法、学習・実験・調査の計画能力、コミュニケーション能力、自己表現能力	
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ、必要があれば随時指示する。	
成績評価の方法・基準等	教養セミナーに対する取り組み方、ディスカッションへの積極的参加 30％ プレゼンテーション 30％ レポート 40％	
受講要件（履修条件）		
備考（URL）		
学生へのメッセージ		





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201405600001049	科目番号	056000010
授業科目名	●教養セミナー(環境科学部)		
編集担当教員	福島 邦夫		
授業担当教員名(科目責任者)	福島 邦夫		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	福島 邦夫		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[環] フィールドリサーチ準備室		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	新入生を環境科学へいざなうとともに、知的活動への動機づけ、論理的思考とその表現方法の習得を目的とする。具体的には、新入生が初めて出会う環境科学という学問分野の概要を説明し、受講生自らが選択したテーマについて能動的グループ学習を通じ、人文社会科学的または自然科学的な思考方法、グループワークの進め方、実験・調査の計画法、文書やプレゼンテーションによる表現方法などについて学ぶ。高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能も果たす。また、カリキュラムと履修上の留意点等を再確認する。以上により、本学部での学習活動を円滑に進めることをねらいとする。		
授業到達目標	① 知的活動への動機づけを高める。② 科学的思考力と学習・実験の計画能力を育てる。③ 文書作成、プレゼンテーション、ディスカッションにより自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業方法（学習指導法）	受講生それぞれが環境科学分野で研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表させる。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画等について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、口頭発表させる。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成させ、教養セミナーを行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。		
	大学および学部ガイダンス，班別作業，テーマ決定，調査，プレゼンテーション，レポート作成		
	回	内容	
	1	担当教員と受講生の自己紹介、学部の教育研究活動の紹介	
	2	専門教育科目の履修ガイダンス	
	3	環境科学へのいざない（講義）	
	4	資料収集ガイダンスの受講	

授業内容	5	グループワーク、レポート作成、プレゼンテーション、ディスカッションの技法に関する講義
	6	取り組むテーマの選択、グループ分け、グループディスカッション
	7	テーマ研究の開始・グループディスカッション、計画案の報告
	8	グループディスカッション、進捗状況・経過報告
	9	中間発表会の実施、グループ間討論、方向性について再検討
	10	グループディスカッション、進捗状況・経過報告
	11	グループディスカッション、進捗状況・経過報告
	12	レポートおよびプレゼンテーションの準備と作成
	13	レポートおよびプレゼンテーションの準備と作成
	14	最終報告会の実施（プレゼンテーションと質疑応答）、レポートの提出
	15	総合討論会（講評、総括）
	16	
キーワード	人文社会科学的・自然科学的思考方法、学習・実験・調査の計画能力、コミュニケーション能力、自己表現能力	
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ、必要があれば随時指示する。	
成績評価の方法・基準等	教養セミナーに対する取り組み方、ディスカッションへの積極的参加 30％ プレゼンテーション 30％ レポート 40％	
受講要件（履修条件）		
備考（URL）		
学生へのメッセージ		





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140560001050	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(環境科学部)		
編集担当教員	保坂 稔		
授業担当教員名(科目責任者)	保坂 稔		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	保坂 稔		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[環] フィールドリサーチ解析室		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	新入生を環境科学へいざなうとともに、知的活動への動機づけ、論理的思考とその表現方法の習得を目的とする。具体的には、新入生が初めて出会う環境科学という学問分野の概要を説明し、受講生自らが選択したテーマについて能動的グループ学習を通じ、人文社会科学的または自然科学的な思考方法、グループワークの進め方、実験・調査の計画法、文書やプレゼンテーションによる表現方法などについて学ぶ。高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能も果たす。また、カリキュラムと履修上の留意点等を再確認する。以上により、本学部での学習活動を円滑に進めることをねらいとする。		
授業到達目標	① 知的活動への動機づけを高める。② 科学的思考力と学習・実験の計画能力を育てる。③ 文書作成、プレゼンテーション、ディスカッションにより自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業方法（学習指導法）	受講生それぞれが環境科学分野で研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表させる。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画等について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、口頭発表させる。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成させ、教養セミナーを行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。		
	大学および学部ガイダンス，班別作業，テーマ決定，調査，プレゼンテーション，レポート作成		
	回	内容	
	1	担当教員と受講生の自己紹介、学部の教育研究活動の紹介	
	2	専門教育科目の履修ガイダンス	
	3	環境科学へのいざない（講義）	
	4	資料収集ガイダンスの受講	

授業内容	5	グループワーク、レポート作成、プレゼンテーション、ディスカッションの技法に関する講義
	6	取り組むテーマの選択、グループ分け、グループディスカッション
	7	テーマ研究の開始・グループディスカッション、計画案の報告
	8	グループディスカッション、進捗状況・経過報告
	9	中間発表会の実施、グループ間討論、方向性について再検討
	10	グループディスカッション、進捗状況・経過報告
	11	グループディスカッション、進捗状況・経過報告
	12	レポートおよびプレゼンテーションの準備と作成
	13	レポートおよびプレゼンテーションの準備と作成
	14	最終報告会の実施（プレゼンテーションと質疑応答）、レポートの提出
	15	総合討論会（講評、総括）
	16	
キーワード	人文社会科学的・自然科学的思考方法、学習・実験・調査の計画能力、コミュニケーション能力、自己表現能力	
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ、必要が有れば随時指示する。	
成績評価の方法・基準等	教養セミナーに対する取り組み方、ディスカッションへの積極的参加 30％ プレゼンテーション 30％ レポート 40％	
受講要件（履修条件）		
備考（URL）		
学生へのメッセージ		





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140560001051	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(環境科学部)		
編集担当教員	吉田 謙太郎		
授業担当教員名(科目責任者)	吉田 謙太郎		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	吉田 謙太郎		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[環] 4 1 7 - 1		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	新入生を環境科学へいざなうとともに、知的活動への動機づけ、論理的思考とその表現方法の習得を目的とする。具体的には、新入生が初めて出会う環境科学という学問分野の概要を説明し、受講生自らが選択したテーマについて能動的グループ学習を通じ、人文社会科学的または自然科学的な思考方法、グループワークの進め方、実験・調査の計画法、文書やプレゼンテーションによる表現方法などについて学ぶ。高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能も果たす。また、カリキュラムと履修上の留意点等を再確認する。以上により、本学部での学習活動を円滑に進めることをねらいとする。		
授業到達目標	① 知的活動への動機づけを高める。② 科学的思考力と学習・実験の計画能力を育てる。③ 文書作成、プレゼンテーション、ディスカッションにより自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業方法（学習指導法）	受講生それぞれが環境科学分野で研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表させる。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画等について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、口頭発表させる。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成させ、教養セミナーを行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。		
	大学および学部ガイダンス，班別作業，テーマ決定，調査，プレゼンテーション，レポート作成		
	回	内容	
	1	担当教員と受講生の自己紹介、学部の教育研究活動の紹介	
	2	専門教育科目の履修ガイダンス	
	3	環境科学へのいざない（講義）	
	4	資料収集ガイダンスの受講	

授業内容	5	グループワーク、レポート作成、プレゼンテーション、ディスカッションの技法に関する講義
	6	取り組むテーマの選択、グループ分け、グループディスカッション
	7	テーマ研究の開始・グループディスカッション、計画案の報告
	8	グループディスカッション、進捗状況・経過報告
	9	中間発表会の実施、グループ間討論、方向性について再検討
	10	グループディスカッション、進捗状況・経過報告
	11	グループディスカッション、進捗状況・経過報告
	12	レポートおよびプレゼンテーションの準備と作成
	13	レポートおよびプレゼンテーションの準備と作成
	14	最終報告会の実施（プレゼンテーションと質疑応答）、レポートの提出
	15	総合討論会（講評、総括）
	16	
キーワード	人文社会科学的・自然科学的思考方法、学習・実験・調査の計画能力、コミュニケーション能力、自己表現能力	
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ、必要が有れば随時指示する。	
成績評価の方法・基準等	教養セミナーに対する取り組み方、ディスカッションへの積極的参加 30％ プレゼンテーション 30％ レポート 40％	
受講要件（履修条件）		
備考（URL）		
学生へのメッセージ		





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140560001052	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(環境科学部)		
編集担当教員	黒田 暁		
授業担当教員名(科目責任者)	黒田 暁		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	黒田 暁		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[環] フィールドリサーチ解析室		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	新入生を環境科学へいざなうとともに、知的活動への動機づけ、論理的思考とその表現方法の習得を目的とする。具体的には、新入生が初めて出会う環境科学という学問分野の概要を説明し、受講生自らが選択したテーマについて能動的グループ学習を通じ、人文社会科学的または自然科学的な思考方法、グループワークの進め方、実験・調査の計画法、文書やプレゼンテーションによる表現方法などについて学ぶ。高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能も果たす。また、カリキュラムと履修上の留意点等を再確認する。以上により、本学部での学習活動を円滑に進めることをねらいとする。		
授業到達目標	① 知的活動への動機づけを高める。② 科学的思考力と学習・実験の計画能力を育てる。③ 文書作成、プレゼンテーション、ディスカッションにより自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業方法（学習指導法）	受講生それぞれが環境科学分野で研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表させる。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画等について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、口頭発表させる。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成させ、教養セミナーを行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。		
	大学および学部ガイダンス，班別作業，テーマ決定，調査，プレゼンテーション，レポート作成		
	回	内容	
	1	担当教員と受講生の自己紹介、学部の教育研究活動の紹介	
	2	専門教育科目の履修ガイダンス	
	3	環境科学へのいざない（講義）	
	4	資料収集ガイダンスの受講	

授業内容	5	グループワーク、レポート作成、プレゼンテーション、ディスカッションの技法に関する講義
	6	取り組むテーマの選択、グループ分け、グループディスカッション
	7	テーマ研究の開始・グループディスカッション、計画案の報告
	8	グループディスカッション、進捗状況・経過報告
	9	中間発表会の実施、グループ間討論、方向性について再検討
	10	グループディスカッション、進捗状況・経過報告
	11	グループディスカッション、進捗状況・経過報告
	12	レポートおよびプレゼンテーションの準備と作成
	13	レポートおよびプレゼンテーションの準備と作成
	14	最終報告会の実施（プレゼンテーションと質疑応答）、レポートの提出
	15	総合討論会（講評、総括）
	16	
キーワード	人文社会科学的・自然科学的思考方法、学習・実験・調査の計画能力、コミュニケーション能力、自己表現能力	
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ、必要が有れば随時指示する。	
成績評価の方法・基準等	教養セミナーに対する取り組み方、ディスカッションへの積極的参加 30％ プレゼンテーション 30％ レポート 40％	
受講要件（履修条件）		
備考（URL）		
学生へのメッセージ		





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140560001053	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(環境科学部)		
編集担当教員	小林 寛		
授業担当教員名(科目責任者)	小林 寛		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	小林 寛		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[環] 4 3 7		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	新入生を環境科学へいざなうとともに、知的活動への動機づけ、論理的思考とその表現方法の習得を目的とする。具体的には、新入生が初めて出会う環境科学という学問分野の概要を説明し、受講生自らが選択したテーマについて能動的グループ学習を通じ、人文社会科学的または自然科学的な思考方法、グループワークの進め方、実験・調査の計画法、文書やプレゼンテーションによる表現方法などについて学ぶ。高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能も果たす。また、カリキュラムと履修上の留意点等を再確認する。以上により、本学部での学習活動を円滑に進めることをねらいとする。		
授業到達目標	① 知的活動への動機づけを高める。② 科学的思考力と学習・実験の計画能力を育てる。③ 文書作成、プレゼンテーション、ディスカッションにより自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業方法（学習指導法）	受講生それぞれが環境科学分野で研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表させる。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画等について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、口頭発表させる。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成させ、教養セミナーを行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。		
	大学および学部ガイダンス，班別作業，テーマ決定，調査，プレゼンテーション，レポート作成		
	回	内容	
	1	担当教員と受講生の自己紹介、学部の教育研究活動の紹介	
	2	専門教育科目の履修ガイダンス	
	3	環境科学へのいざない（講義）	
	4	資料収集ガイダンスの受講	

授業内容	5	グループワーク、レポート作成、プレゼンテーション、ディスカッションの技法に関する講義
	6	取り組むテーマの選択、グループ分け、グループディスカッション
	7	テーマ研究の開始・グループディスカッション、計画案の報告
	8	グループディスカッション、進捗状況・経過報告
	9	中間発表会の実施、グループ間討論、方向性について再検討
	10	グループディスカッション、進捗状況・経過報告
	11	グループディスカッション、進捗状況・経過報告
	12	レポートおよびプレゼンテーションの準備と作成
	13	レポートおよびプレゼンテーションの準備と作成
	14	最終報告会の実施（プレゼンテーションと質疑応答）、レポートの提出
	15	総合討論会（講評、総括）
	16	
キーワード	人文社会科学的・自然科学的思考方法、学習・実験・調査の計画能力、コミュニケーション能力、自己表現能力	
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ、必要が有れば随時指示する。	
成績評価の方法・基準等	教養セミナーに対する取り組み方、ディスカッションへの積極的参加 30％ プレゼンテーション 30％ レポート 40％	
受講要件（履修条件）		
備考（URL）		
学生へのメッセージ		





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140560001054	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(環境科学部)		
編集担当教員	堀江 哲也		
授業担当教員名(科目責任者)	堀江 哲也		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	堀江 哲也		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[環] 4 1 1 - 2		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	新入生を環境科学へいざなうとともに、知的活動への動機づけ、論理的思考とその表現方法の習得を目的とする。具体的には、新入生が初めて出会う環境科学という学問分野の概要を説明し、受講生自らが選択したテーマについて能動的グループ学習を通じ、人文社会科学的または自然科学的な思考方法、グループワークの進め方、実験・調査の計画法、文書やプレゼンテーションによる表現方法などについて学ぶ。高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能も果たす。また、カリキュラムと履修上の留意点等を再確認する。以上により、本学部での学習活動を円滑に進めることをねらいとする。		
授業到達目標	① 知的活動への動機づけを高める。② 科学的思考力と学習・実験の計画能力を育てる。③ 文書作成、プレゼンテーション、ディスカッションにより自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業方法（学習指導法）	受講生それぞれが環境科学分野で研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表させる。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画等について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、口頭発表させる。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成させ、教養セミナーを行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。		
	大学および学部ガイダンス，班別作業，テーマ決定，調査，プレゼンテーション，レポート作成		
	回	内容	
	1	担当教員と受講生の自己紹介、学部の教育研究活動の紹介	
	2	専門教育科目の履修ガイダンス	
	3	環境科学へのいざない（講義）	
	4	資料収集ガイダンスの受講	

授業内容	5	グループワーク、レポート作成、プレゼンテーション、ディスカッションの技法に関する講義
	6	取り組むテーマの選択、グループ分け、グループディスカッション
	7	テーマ研究の開始・グループディスカッション、計画案の報告
	8	グループディスカッション、進捗状況・経過報告
	9	中間発表会の実施、グループ間討論、方向性について再検討
	10	グループディスカッション、進捗状況・経過報告
	11	グループディスカッション、進捗状況・経過報告
	12	レポートおよびプレゼンテーションの準備と作成
	13	レポートおよびプレゼンテーションの準備と作成
	14	最終報告会の実施（プレゼンテーションと質疑応答）、レポートの提出
	15	総合討論会（講評、総括）
	16	
キーワード	人文社会科学的・自然科学的思考方法、学習・実験・調査の計画能力、コミュニケーション能力、自己表現能力	
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ、必要が有れば随時指示する。	
成績評価の方法・基準等	教養セミナーに対する取り組み方、ディスカッションへの積極的参加 30％ プレゼンテーション 30％ レポート 40％	
受講要件（履修条件）		
備考（URL）		
学生へのメッセージ		





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140560001055	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(環境科学部)		
編集担当教員	井口 恵一朗		
授業担当教員名(科目責任者)	井口 恵一朗		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	井口 恵一朗		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[環] 3 4 1		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	新入生を環境科学へいざなうとともに、知的活動への動機づけ、論理的思考とその表現方法の習得を目的とする。具体的には、新入生が初めて出会う環境科学という学問分野の概要を説明し、受講生自らが選択したテーマについて能動的グループ学習を通じ、人文社会科学的または自然科学的な思考方法、グループワークの進め方、実験・調査の計画法、文書やプレゼンテーションによる表現方法などについて学ぶ。高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能も果たす。また、カリキュラムと履修上の留意点等を再確認する。以上により、本学部での学習活動を円滑に進めることをねらいとする。		
授業到達目標	① 知的活動への動機づけを高める。② 科学的思考力と学習・実験の計画能力を育てる。③ 文書作成、プレゼンテーション、ディスカッションにより自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業方法（学習指導法）	受講生それぞれが環境科学分野で研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表させる。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画等について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、口頭発表させる。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成させ、教養セミナーを行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。		
	大学および学部ガイダンス，班別作業，テーマ決定，調査，プレゼンテーション，レポート作成		
	回	内容	
	1	担当教員と受講生の自己紹介、学部の教育研究活動の紹介	
	2	専門教育科目の履修ガイダンス	
	3	環境科学へのいざない（講義）	
	4	資料収集ガイダンスの受講	

授業内容	5	グループワーク、レポート作成、プレゼンテーション、ディスカッションの技法に関する講義
	6	取り組むテーマの選択、グループ分け、グループディスカッション
	7	テーマ研究の開始・グループディスカッション、計画案の報告
	8	グループディスカッション、進捗状況・経過報告
	9	中間発表会の実施、グループ間討論、方向性について再検討
	10	グループディスカッション、進捗状況・経過報告
	11	グループディスカッション、進捗状況・経過報告
	12	レポートおよびプレゼンテーションの準備と作成
	13	レポートおよびプレゼンテーションの準備と作成
	14	最終報告会の実施（プレゼンテーションと質疑応答）、レポートの提出
	15	総合討論会（講評、総括）
	16	
キーワード	人文社会科学的・自然科学的思考方法、学習・実験・調査の計画能力、コミュニケーション能力、自己表現能力	
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ、必要があれば随時指示する。	
成績評価の方法・基準等	教養セミナーに対する取り組み方、ディスカッションへの積極的参加 30％ プレゼンテーション 30％ レポート 40％	
受講要件（履修条件）		
備考（URL）		
学生へのメッセージ		





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140560001056	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(環境科学部)		
編集担当教員	岡田 二郎		
授業担当教員名(科目責任者)	岡田 二郎		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	岡田 二郎		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[環] 3 4 2		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	新入生を環境科学へいざなうとともに、知的活動への動機づけ、論理的思考とその表現方法の習得を目的とする。具体的には、新入生が初めて出会う環境科学という学問分野の概要を説明し、受講生自らが選択したテーマについて能動的グループ学習を通じ、人文社会科学的または自然科学的な思考方法、グループワークの進め方、実験・調査の計画法、文書やプレゼンテーションによる表現方法などについて学ぶ。高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能も果たす。また、カリキュラムと履修上の留意点等を再確認する。以上により、本学部での学習活動を円滑に進めることをねらいとする。		
授業到達目標	① 知的活動への動機づけを高める。② 科学的思考力と学習・実験の計画能力を育てる。③ 文書作成、プレゼンテーション、ディスカッションにより自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業方法（学習指導法）	受講生それぞれが環境科学分野で研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表させる。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画等について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、口頭発表させる。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成させ、教養セミナーを行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。		
	大学および学部ガイダンス，班別作業，テーマ決定，調査，プレゼンテーション，レポート作成		
	回	内容	
	1	担当教員と受講生の自己紹介、学部の教育研究活動の紹介	
	2	専門教育科目の履修ガイダンス	
	3	環境科学へのいざない（講義）	
	4	資料収集ガイダンスの受講	

授業内容	5	グループワーク、レポート作成、プレゼンテーション、ディスカッションの技法に関する講義
	6	取り組むテーマの選択、グループ分け、グループディスカッション
	7	テーマ研究の開始・グループディスカッション、計画案の報告
	8	グループディスカッション、進捗状況・経過報告
	9	中間発表会の実施、グループ間討論、方向性について再検討
	10	グループディスカッション、進捗状況・経過報告
	11	グループディスカッション、進捗状況・経過報告
	12	レポートおよびプレゼンテーションの準備と作成
	13	レポートおよびプレゼンテーションの準備と作成
	14	最終報告会の実施（プレゼンテーションと質疑応答）、レポートの提出
	15	総合討論会（講評、総括）
	16	
キーワード	人文社会科学的・自然科学的思考方法、学習・実験・調査の計画能力、コミュニケーション能力、自己表現能力	
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ、必要が有れば随時指示する。	
成績評価の方法・基準等	教養セミナーに対する取り組み方、ディスカッションへの積極的参加 30％ プレゼンテーション 30％ レポート 40％	
受講要件（履修条件）		
備考（URL）		
学生へのメッセージ		





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140560001057	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(環境科学部)		
編集担当教員	西山 雅也		
授業担当教員名(科目責任者)	西山 雅也		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	西山 雅也		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-14		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	新入生を環境科学へいざなうとともに、知的活動への動機づけ、論理的思考とその表現方法の習得を目的とする。具体的には、新入生が初めて出会う環境科学という学問分野の概要を説明し、受講生自らが選択したテーマについて能動的グループ学習を通じ、人文社会科学的または自然科学的な思考方法、グループワークの進め方、実験・調査の計画法、文書やプレゼンテーションによる表現方法などについて学ぶ。高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能も果たす。また、カリキュラムと履修上の留意点等を再確認する。以上により、本学部での学習活動を円滑に進めることをねらいとする。		
授業到達目標	① 知的活動への動機づけを高める。② 科学的思考力と学習・実験の計画能力を育てる。③ 文書作成、プレゼンテーション、ディスカッションにより自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業方法（学習指導法）	受講生それぞれが環境科学分野で研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表させる。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画等について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、口頭発表させる。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成させ、教養セミナーを行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。		
	大学および学部ガイダンス，班別作業，テーマ決定，調査，プレゼンテーション，レポート作成		
	回	内容	
	1	担当教員と受講生の自己紹介、学部の教育研究活動の紹介	
	2	専門教育科目の履修ガイダンス	
	3	環境科学へのいざない（講義）	
	4	資料収集ガイダンスの受講	

授業内容	5	グループワーク、レポート作成、プレゼンテーション、ディスカッションの技法に関する講義
	6	取り組むテーマの選択、グループ分け、グループディスカッション
	7	テーマ研究の開始・グループディスカッション、計画案の報告
	8	グループディスカッション、進捗状況・経過報告
	9	中間発表会の実施、グループ間討論、方向性について再検討
	10	グループディスカッション、進捗状況・経過報告
	11	グループディスカッション、進捗状況・経過報告
	12	レポートおよびプレゼンテーションの準備と作成
	13	レポートおよびプレゼンテーションの準備と作成
	14	最終報告会の実施（プレゼンテーションと質疑応答）、レポートの提出
	15	総合討論会（講評、総括）
	16	
キーワード	人文社会科学的・自然科学的思考方法、学習・実験・調査の計画能力、コミュニケーション能力、自己表現能力	
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ、必要があれば随時指示する。	
成績評価の方法・基準等	教養セミナーに対する取り組み方、ディスカッションへの積極的参加 30％ プレゼンテーション 30％ レポート 40％	
受講要件（履修条件）		
備考（URL）		
学生へのメッセージ		





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201405600001058	科目番号	056000010
授業科目名	●教養セミナー(環境科学部)		
編集担当教員	宮西 隆幸		
授業担当教員名(科目責任者)	宮西 隆幸		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	宮西 隆幸		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[環] 2 4 2		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	新入生を環境科学へいざなうとともに、知的活動への動機づけ、論理的思考とその表現方法の習得を目的とする。具体的には、新入生が初めて出会う環境科学という学問分野の概要を説明し、受講生自らが選択したテーマについて能動的グループ学習を通じ、人文社会科学的または自然科学的な思考方法、グループワークの進め方、実験・調査の計画法、文書やプレゼンテーションによる表現方法などについて学ぶ。高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能も果たす。また、カリキュラムと履修上の留意点等を再確認する。以上により、本学部での学習活動を円滑に進めることをねらいとする。		
授業到達目標	① 知的活動への動機づけを高める。② 科学的思考力と学習・実験の計画能力を育てる。③ 文書作成、プレゼンテーション、ディスカッションにより自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業方法（学習指導法）	受講生それぞれが環境科学分野で研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表させる。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画等について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、口頭発表させる。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成させ、教養セミナーを行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。		
	大学および学部ガイダンス，班別作業，テーマ決定，調査，プレゼンテーション，レポート作成		
	回	内容	
	1	担当教員と受講生の自己紹介、学部の教育研究活動の紹介	
	2	専門教育科目の履修ガイダンス	
	3	環境科学へのいざない（講義）	
	4	資料収集ガイダンスの受講	

授業内容	5	グループワーク、レポート作成、プレゼンテーション、ディスカッションの技法に関する講義
	6	取り組むテーマの選択、グループ分け、グループディスカッション
	7	テーマ研究の開始・グループディスカッション、計画案の報告
	8	グループディスカッション、進捗状況・経過報告
	9	中間発表会の実施、グループ間討論、方向性について再検討
	10	グループディスカッション、進捗状況・経過報告
	11	グループディスカッション、進捗状況・経過報告
	12	レポートおよびプレゼンテーションの準備と作成
	13	レポートおよびプレゼンテーションの準備と作成
	14	最終報告会の実施（プレゼンテーションと質疑応答）、レポートの提出
	15	総合討論会（講評、総括）
	16	
キーワード	人文社会科学的・自然科学的思考方法、学習・実験・調査の計画能力、コミュニケーション能力、自己表現能力	
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ、必要があれば随時指示する。	
成績評価の方法・基準等	教養セミナーに対する取り組み方、ディスカッションへの積極的参加 30％ プレゼンテーション 30％ レポート 40％	
受講要件（履修条件）		
備考（URL）		
学生へのメッセージ		





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140560001059	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(環境科学部)		
編集担当教員	武藤 鉄司		
授業担当教員名(科目責任者)	武藤 鉄司		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	武藤 鉄司		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[環] 2 2 9 - 3		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	新入生を環境科学へいざなうとともに、知的活動への動機づけ、論理的思考とその表現方法の習得を目的とする。具体的には、新入生が初めて出会う環境科学という学問分野の概要を説明し、受講生自らが選択したテーマについて能動的グループ学習を通じ、人文社会科学的または自然科学的な思考方法、グループワークの進め方、実験・調査の計画法、文書やプレゼンテーションによる表現方法などについて学ぶ。高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能も果たす。また、カリキュラムと履修上の留意点等を再確認する。以上により、本学部での学習活動を円滑に進めることをねらいとする。		
授業到達目標	① 知的活動への動機づけを高める。② 科学的思考力と学習・実験の計画能力を育てる。③ 文書作成、プレゼンテーション、ディスカッションにより自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業方法（学習指導法）	受講生それぞれが環境科学分野で研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表させる。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画等について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、口頭発表させる。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成させ、教養セミナーを行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。		
	大学および学部ガイダンス，班別作業，テーマ決定，調査，プレゼンテーション，レポート作成		
	回	内容	
	1	担当教員と受講生の自己紹介、学部の教育研究活動の紹介	
	2	専門教育科目の履修ガイダンス	
	3	環境科学へのいざない（講義）	
	4	資料収集ガイダンスの受講	

授業内容	5	グループワーク、レポート作成、プレゼンテーション、ディスカッションの技法に関する講義
	6	取り組むテーマの選択、グループ分け、グループディスカッション
	7	テーマ研究の開始・グループディスカッション、計画案の報告
	8	グループディスカッション、進捗状況・経過報告
	9	中間発表会の実施、グループ間討論、方向性について再検討
	10	グループディスカッション、進捗状況・経過報告
	11	グループディスカッション、進捗状況・経過報告
	12	レポートおよびプレゼンテーションの準備と作成
	13	レポートおよびプレゼンテーションの準備と作成
	14	最終報告会の実施（プレゼンテーションと質疑応答）、レポートの提出
	15	総合討論会（講評、総括）
	16	
キーワード	人文社会科学的・自然科学的思考方法、学習・実験・調査の計画能力、コミュニケーション能力、自己表現能力	
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ、必要が有れば随時指示する。	
成績評価の方法・基準等	教養セミナーに対する取り組み方、ディスカッションへの積極的参加 30％ プレゼンテーション 30％ レポート 40％	
受講要件（履修条件）		
備考（URL）		
学生へのメッセージ		





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201405600001060	科目番号	056000010
授業科目名	●教養セミナー(環境科学部)		
編集担当教員	杉山 和一		
授業担当教員名(科目責任者)	杉山 和一		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	杉山 和一		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[環] 3 4 2		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	新入生を環境科学へいざなうとともに、知的活動への動機づけ、論理的思考とその表現方法の習得を目的とする。具体的には、新入生が初めて出会う環境科学という学問分野の概要を説明し、受講生自らが選択したテーマについて能動的グループ学習を通じ、人文社会科学的または自然科学的な思考方法、グループワークの進め方、実験・調査の計画法、文書やプレゼンテーションによる表現方法などについて学ぶ。高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能も果たす。また、カリキュラムと履修上の留意点等を再確認する。以上により、本学部での学習活動を円滑に進めることをねらいとする。		
授業到達目標	① 知的活動への動機づけを高める。② 科学的思考力と学習・実験の計画能力を育てる。③ 文書作成、プレゼンテーション、ディスカッションにより自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業方法（学習指導法）	受講生それぞれが環境科学分野で研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表させる。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画等について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、口頭発表させる。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成させ、教養セミナーを行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。		
	大学および学部ガイダンス，班別作業，テーマ決定，調査，プレゼンテーション，レポート作成		
	回	内容	
	1	担当教員と受講生の自己紹介、学部の教育研究活動の紹介	
	2	専門教育科目の履修ガイダンス	
	3	環境科学へのいざない（講義）	
	4	資料収集ガイダンスの受講	

授業内容	5	グループワーク、レポート作成、プレゼンテーション、ディスカッションの技法に関する講義
	6	取り組むテーマの選択、グループ分け、グループディスカッション
	7	テーマ研究の開始・グループディスカッション、計画案の報告
	8	グループディスカッション、進捗状況・経過報告
	9	中間発表会の実施、グループ間討論、方向性について再検討
	10	グループディスカッション、進捗状況・経過報告
	11	グループディスカッション、進捗状況・経過報告
	12	レポートおよびプレゼンテーションの準備と作成
	13	レポートおよびプレゼンテーションの準備と作成
	14	最終報告会の実施（プレゼンテーションと質疑応答）、レポートの提出
	15	総合討論会（講評、総括）
	16	
キーワード	人文社会科学的・自然科学的思考方法、学習・実験・調査の計画能力、コミュニケーション能力、自己表現能力	
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ、必要が有れば随時指示する。	
成績評価の方法・基準等	教養セミナーに対する取り組み方、ディスカッションへの積極的参加 30％ プレゼンテーション 30％ レポート 40％	
受講要件（履修条件）		
備考（URL）		
学生へのメッセージ		





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140560001061	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(環境科学部)		
編集担当教員	仲山 英樹		
授業担当教員名(科目責任者)	仲山 英樹		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	仲山 英樹		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[環] 3 4 1		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	新入生を環境科学へいざなうとともに、知的活動への動機づけ、論理的思考とその表現方法の習得を目的とする。具体的には、新入生が初めて出会う環境科学という学問分野の概要を説明し、受講生自らが選択したテーマについて能動的グループ学習を通じ、人文社会科学的または自然科学的な思考方法、グループワークの進め方、実験・調査の計画法、文書やプレゼンテーションによる表現方法などについて学ぶ。高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能も果たす。また、カリキュラムと履修上の留意点等を再確認する。以上により、本学部での学習活動を円滑に進めることをねらいとする。		
授業到達目標	① 知的活動への動機づけを高める。② 科学的思考力と学習・実験の計画能力を育てる。③ 文書作成、プレゼンテーション、ディスカッションにより自己表現能力を育てる。④ 学生と教員及び学生相互のコミュニケーションを図り、ものの見方、考え方の多様性を涵養する。		
授業方法（学習指導法）	受講生それぞれが環境科学分野で研究したいテーマを、目的、方法、成果の予測を含めて考えさせ、口頭で発表させる。全員との話し合いでテーマを1つ若しくは複数に絞り、グループに分けてそれぞれのテーマについて調査研究を行う。毎週、各グループでテーマの進捗状況、今後の展開方法、計画等について話し合い、その検討結果を発表する。各グループ別に、中間報告ならびに最終報告を、口頭発表させる。質疑応答の結果を踏まえて、報告レポート集を作成、提出する。また、各学生が分担した部分についての個人レポートも作成させ、教養セミナーを行うに当たっての課題探求能力・問題解決能力について評価する。		
	大学および学部ガイダンス，班別作業，テーマ決定，調査，プレゼンテーション，レポート作成		
	回	内容	
	1	担当教員と受講生の自己紹介、学部の教育研究活動の紹介	
	2	専門教育科目の履修ガイダンス	
	3	環境科学へのいざない（講義）	
	4	資料収集ガイダンスの受講	

授業内容	5	グループワーク、レポート作成、プレゼンテーション、ディスカッションの技法に関する講義
	6	取り組むテーマの選択、グループ分け、グループディスカッション
	7	テーマ研究の開始・グループディスカッション、計画案の報告
	8	グループディスカッション、進捗状況・経過報告
	9	中間発表会の実施、グループ間討論、方向性について再検討
	10	グループディスカッション、進捗状況・経過報告
	11	グループディスカッション、進捗状況・経過報告
	12	レポートおよびプレゼンテーションの準備と作成
	13	レポートおよびプレゼンテーションの準備と作成
	14	最終報告会の実施（プレゼンテーションと質疑応答）、レポートの提出
	15	総合討論会（講評、総括）
	16	
キーワード	人文社会科学的・自然科学的思考方法、学習・実験・調査の計画能力、コミュニケーション能力、自己表現能力	
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ、必要があれば随時指示する。	
成績評価の方法・基準等	教養セミナーに対する取り組み方、ディスカッションへの積極的参加 30％ プレゼンテーション 30％ レポート 40％	
受講要件（履修条件）		
備考（URL）		
学生へのメッセージ		





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140560001062	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(工学部)		
編集担当教員	桃木 悟		
授業担当教員名(科目責任者)	桃木 悟		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	桃木 悟		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[工] 2		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	高校までの受動的学習から大学での能動的学習に順応し、自主的に知的活動に取り組み、指導教官やグループメンバーとのディスカッションを通じて工学・科学に関する論理的思考力と倫理観を身につけると共に、口頭発表やレポート作成を通じて技術者（研究者）としての基礎的素養を身につけることをねらいとする。		
授業到達目標	1) 自主的に課題探求ができる。 2) 論理的な思考ができる。 3) ディスカッションを通じてコミュニケーションができる。 4) わかりやすい口頭発表とレポート作成ができる。		
授業方法（学習指導法）	1) 30クラスで実施する。実質13～14名のクラス編成となる。 2) クラス分けは、コース混在型とする。 3) 講義内容は基本シラバスを参考にするが、担当教官の裁量で決める。ただし、第1回目のガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介、第2回目の図書館ガイダンス、および第14回目のプレゼンテーション大会は必ず行う。 4) 調査課題は、“工学”、“科学”に関係するものとする。 5) 調査課題を行うグループは、3名以上を基本とする。		
	回	内容	
	1	ガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介	
	2	文献・資料の探し方、図書館ガイダンス	
	3	個人発表Ⅰ（発表5分＋質問1分）、発表指導	
	4	個人発表Ⅱ（発表5分＋質問1分）、発表指導	
	5	個人発表Ⅲ（発表5分＋質問1分）、発表指導、グループ分け（3～7名一組）	

授業内容	6	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション
	7	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション
	8	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション
	9	プレゼンテーションに関する指導
	10	プレゼンテーションに関する指導
	11	プレゼンテーション資料の作成
	12	プレゼンテーションの練習
	13	プレゼンテーション大会予選（各クラスから1チームを選出）
	14	プレゼンテーション大会決勝（各クラスから選ばれた15チームによる決勝）
	15	レポート作成に関する指導
	16	
キーワード	能動的学習，理論的思考力，倫理観，プレゼンテーション能力	
教科書・教材・参考書	適宜配布	
成績評価の方法・基準等	・自主学習の取り組み 30%（課題探求のための計画の妥当性，予習など） ・ディスカッションへの積極的参加 30% （発言しているか，コミュニケーションがとれているかなど） ・プレゼンテーション 20% （ストーリー性はあるか，話し方は適切か，図表が適切に配置されているか，図表は適切に引用されているかなど） ・レポート 20% （レポートの体裁となっているか，文脈は正しいかなど）	
受講要件（履修条件）		
備考（URL）		
学生へのメッセージ		





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140560001063	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(工学部)		
編集担当教員	才本 明秀		
授業担当教員名(科目責任者)	才本 明秀		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	才本 明秀		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[工] 1		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	高校までの受動的学習から大学での能動的学習に順応し、自主的に知的活動に取り組み、指導教官やグループメンバーとのディスカッションを通じて工学・科学に関する論理的思考力と倫理観を身につけると共に、口頭発表やレポート作成を通じて技術者（研究者）としての基礎的素養を身につけることをねらいとする。		
授業到達目標	1) 自主的に課題探求ができる。 2) 論理的な思考ができる。 3) ディスカッションを通じてコミュニケーションができる。 4) わかりやすい口頭発表とレポート作成ができる。		
授業方法（学習指導法）	1) 30クラスで実施する。実質13～14名のクラス編成となる。 2) クラス分けは、コース混在型とする。 3) 講義内容は基本シラバスを参考にすが、担当教官の裁量で決める。ただし、第1回目のガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介、第2回目の図書館ガイダンス、および第14回目のプレゼンテーション大会は必ず行う。 4) 調査課題は、“工学”、“科学”に関係するものとする。 5) 調査課題を行うグループは、3名以上を基本とする。		
	回	内容	
	1	ガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介	
	2	文献・資料の探し方、図書館ガイダンス	
	3	個人発表Ⅰ（発表5分＋質問1分）、発表指導	
	4	個人発表Ⅱ（発表5分＋質問1分）、発表指導	
	5	個人発表Ⅲ（発表5分＋質問1分）、発表指導、グループ分け（3～7名一組）	

授業内容	6	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション
	7	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション
	8	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション
	9	プレゼンテーションに関する指導
	10	プレゼンテーションに関する指導
	11	プレゼンテーション資料の作成
	12	プレゼンテーションの練習
	13	プレゼンテーション大会予選（各クラスから1チームを選出）
	14	プレゼンテーション大会決勝（各クラスから選ばれた15チームによる決勝）
	15	レポート作成に関する指導
	16	
キーワード	能動的学習，理論的思考力，倫理観，プレゼンテーション能力	
教科書・教材・参考書	適宜配布	
成績評価の方法・基準等	・自主学習の取り組み 30%（課題探求のための計画の妥当性，予習など） ・ディスカッションへの積極的参加 30% （発言しているか，コミュニケーションがとれているかなど） ・プレゼンテーション 20% （ストーリー性はあるか，話し方は適切か，図表が適切に配置されているか，図表は適切に引用されているかなど） ・レポート 20% （レポートの体裁となっているか，文脈は正しいかなど）	
受講要件（履修条件）		
備考（URL）		
学生へのメッセージ		





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140560001064	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(工学部)		
編集担当教員	奥村 哲也		
授業担当教員名(科目責任者)	奥村 哲也		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	奥村 哲也		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[工] 6		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	高校までの受動的学習から大学での能動的学習に順応し、自主的に知的活動に取り組み、指導教官やグループメンバーとのディスカッションを通じて工学・科学に関する論理的思考力と倫理観を身につけると共に、口頭発表やレポート作成を通じて技術者（研究者）としての基礎的素養を身につけることをねらいとする。		
授業到達目標	1) 自主的に課題探求ができる。 2) 論理的な思考ができる。 3) ディスカッションを通じてコミュニケーションができる。 4) わかりやすい口頭発表とレポート作成ができる。		
授業方法（学習指導法）	1) 30クラスで実施する。実質13～14名のクラス編成となる。 2) クラス分けは、コース混在型とする。 3) 講義内容は基本シラバスを参考にするが、担当教官の裁量で決める。ただし、第1回目のガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介、第2回目の図書館ガイダンス、および第14回目のプレゼンテーション大会は必ず行う。 4) 調査課題は、“工学”、“科学”に関係するものとする。 5) 調査課題を行うグループは、3名以上を基本とする。		
	回	内容	
	1	ガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介	
	2	文献・資料の探し方、図書館ガイダンス	
	3	個人発表Ⅰ（発表5分＋質問1分）、発表指導	
	4	個人発表Ⅱ（発表5分＋質問1分）、発表指導	
	5	個人発表Ⅲ（発表5分＋質問1分）、発表指導、グループ分け（3～7名一組）	

授業内容	6	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション
	7	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション
	8	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション
	9	プレゼンテーションに関する指導
	10	プレゼンテーションに関する指導
	11	プレゼンテーション資料の作成
	12	プレゼンテーションの練習
	13	プレゼンテーション大会予選（各クラスから1チームを選出）
	14	プレゼンテーション大会決勝（各クラスから選ばれた15チームによる決勝）
	15	レポート作成に関する指導
	16	
キーワード	能動的学習，理論的思考力，倫理観，プレゼンテーション能力	
教科書・教材・参考書	適宜配布	
成績評価の方法・基準等	・自主学習の取り組み 30%（課題探求のための計画の妥当性，予習など） ・ディスカッションへの積極的参加 30% （発言しているか，コミュニケーションがとれているかなど） ・プレゼンテーション 20% （ストーリー性はあるか，話し方は適切か，図表が適切に配置されているか，図表は適切に引用されているかなど） ・レポート 20% （レポートの体裁となっているか，文脈は正しいかなど）	
受講要件（履修条件）		
備考（URL）		
学生へのメッセージ		





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140560001065	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(工学部)		
編集担当教員	小山 敦弘		
授業担当教員名(科目責任者)	小山 敦弘		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	小山 敦弘		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[工] 4		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	高校までの受動的学習から大学での能動的学習に順応し、自主的に知的活動に取り組み、指導教官やグループメンバーとのディスカッションを通じて工学・科学に関する論理的思考力と倫理観を身につけると共に、口頭発表やレポート作成を通じて技術者（研究者）としての基礎的素養を身につけることをねらいとする。		
授業到達目標	1) 自主的に課題探求ができる。 2) 論理的な思考ができる。 3) ディスカッションを通じてコミュニケーションができる。 4) わかりやすい口頭発表とレポート作成ができる。		
授業方法（学習指導法）	1) 30クラスで実施する。実質13～14名のクラス編成となる。 2) クラス分けは、コース混在型とする。 3) 講義内容は基本シラバスを参考にするが、担当教官の裁量で決める。ただし、第1回目のガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介、第2回目の図書館ガイダンス、および第14回目のプレゼンテーション大会は必ず行う。 4) 調査課題は、“工学”、“科学”に関係するものとする。 5) 調査課題を行うグループは、3名以上を基本とする。		
	回	内容	
	1	ガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介	
	2	文献・資料の探し方、図書館ガイダンス	
	3	個人発表Ⅰ（発表5分＋質問1分）、発表指導	
	4	個人発表Ⅱ（発表5分＋質問1分）、発表指導	
	5	個人発表Ⅲ（発表5分＋質問1分）、発表指導、グループ分け（3～7名一組）	

授業内容	6	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション
	7	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション
	8	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション
	9	プレゼンテーションに関する指導
	10	プレゼンテーションに関する指導
	11	プレゼンテーション資料の作成
	12	プレゼンテーションの練習
	13	プレゼンテーション大会予選（各クラスから1チームを選出）
	14	プレゼンテーション大会決勝（各クラスから選ばれた15チームによる決勝）
	15	レポート作成に関する指導
	16	
キーワード	能動的学習，理論的思考力，倫理観，プレゼンテーション能力	
教科書・教材・参考書	適宜配布	
成績評価の方法・基準等	・自主学習の取り組み 30%（課題探求のための計画の妥当性，予習など） ・ディスカッションへの積極的参加 30% （発言しているか，コミュニケーションがとれているかなど） ・プレゼンテーション 20% （ストーリー性はあるか，話し方は適切か，図表が適切に配置されているか，図表は適切に引用されているかなど） ・レポート 20% （レポートの体裁となっているか，文脈は正しいかなど）	
受講要件（履修条件）		
備考（URL）		
学生へのメッセージ		





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140560001066	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(工学部)		
編集担当教員	下本 陽一		
授業担当教員名(科目責任者)	下本 陽一		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	下本 陽一		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[工] 3		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	高校までの受動的学習から大学での能動的学習に順応し、自主的に知的活動に取り組み、指導教官やグループメンバーとのディスカッションを通じて工学・科学に関する論理的思考力と倫理観を身につけると共に、口頭発表やレポート作成を通じて技術者（研究者）としての基礎的素養を身につけることをねらいとする。		
授業到達目標	1) 自主的に課題探求ができる。 2) 論理的な思考ができる。 3) ディスカッションを通じてコミュニケーションができる。 4) わかりやすい口頭発表とレポート作成ができる。		
授業方法（学習指導法）	1) 30クラスで実施する。実質13～14名のクラス編成となる。 2) クラス分けは、コース混在型とする。 3) 講義内容は基本シラバスを参考にするが、担当教官の裁量で決める。ただし、第1回目のガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介、第2回目の図書館ガイダンス、および第14回目のプレゼンテーション大会は必ず行う。 4) 調査課題は、“工学”、“科学”に関係するものとする。 5) 調査課題を行うグループは、3名以上を基本とする。		
	回	内容	
	1	ガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介	
	2	文献・資料の探し方、図書館ガイダンス	
	3	個人発表Ⅰ（発表5分＋質問1分）、発表指導	
	4	個人発表Ⅱ（発表5分＋質問1分）、発表指導	
	5	個人発表Ⅲ（発表5分＋質問1分）、発表指導、グループ分け（3～7名一組）	

授業内容	6	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション
	7	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション
	8	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション
	9	プレゼンテーションに関する指導
	10	プレゼンテーションに関する指導
	11	プレゼンテーション資料の作成
	12	プレゼンテーションの練習
	13	プレゼンテーション大会予選（各クラスから1チームを選出）
	14	プレゼンテーション大会決勝（各クラスから選ばれた15チームによる決勝）
	15	レポート作成に関する指導
	16	
キーワード	能動的学習，理論的思考力，倫理観，プレゼンテーション能力	
教科書・教材・参考書	適宜配布	
成績評価の方法・基準等	・自主学習の取り組み 30%（課題探求のための計画の妥当性，予習など） ・ディスカッションへの積極的参加 30% （発言しているか，コミュニケーションがとれているかなど） ・プレゼンテーション 20% （ストーリー性はあるか，話し方は適切か，図表が適切に配置されているか，図表は適切に引用されているかなど） ・レポート 20% （レポートの体裁となっているか，文脈は正しいかなど）	
受講要件（履修条件）		
備考（URL）		
学生へのメッセージ		





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140560001067	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(工学部)		
編集担当教員	高瀬 徹		
授業担当教員名(科目責任者)	高瀬 徹		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	高瀬 徹		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[工] 5		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	高校までの受動的学習から大学での能動的学習に順応し、自主的に知的活動に取り組み、指導教官やグループメンバーとのディスカッションを通じて工学・科学に関する論理的思考力と倫理観を身につけると共に、口頭発表やレポート作成を通じて技術者（研究者）としての基礎的素養を身につけることをねらいとする。		
授業到達目標	1) 自主的に課題探求ができる。 2) 論理的な思考ができる。 3) ディスカッションを通じてコミュニケーションができる。 4) わかりやすい口頭発表とレポート作成ができる。		
授業方法（学習指導法）	1) 30クラスで実施する。実質13～14名のクラス編成となる。 2) クラス分けは、コース混在型とする。 3) 講義内容は基本シラバスを参考にするが、担当教官の裁量で決める。ただし、第1回目のガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介、第2回目の図書館ガイダンス、および第14回目のプレゼンテーション大会は必ず行う。 4) 調査課題は、“工学”、“科学”に関係するものとする。 5) 調査課題を行うグループは、3名以上を基本とする。		
	回	内容	
	1	ガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介	
	2	文献・資料の探し方、図書館ガイダンス	
	3	個人発表Ⅰ（発表5分＋質問1分）、発表指導	
	4	個人発表Ⅱ（発表5分＋質問1分）、発表指導	
	5	個人発表Ⅲ（発表5分＋質問1分）、発表指導、グループ分け（3～7名一組）	

授業内容	6	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション
	7	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション
	8	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション
	9	プレゼンテーションに関する指導
	10	プレゼンテーションに関する指導
	11	プレゼンテーション資料の作成
	12	プレゼンテーションの練習
	13	プレゼンテーション大会予選（各クラスから1チームを選出）
	14	プレゼンテーション大会決勝（各クラスから選ばれた15チームによる決勝）
	15	レポート作成に関する指導
	16	
キーワード	能動的学習，理論的思考力，倫理観，プレゼンテーション能力	
教科書・教材・参考書	適宜配布	
成績評価の方法・基準等	・自主学習の取り組み 30%（課題探求のための計画の妥当性，予習など） ・ディスカッションへの積極的参加 30% （発言しているか，コミュニケーションがとれているかなど） ・プレゼンテーション 20% （ストーリー性はあるか，話し方は適切か，図表が適切に配置されているか，図表は適切に引用されているかなど） ・レポート 20% （レポートの体裁となっているか，文脈は正しいかなど）	
受講要件（履修条件）		
備考（URL）		
学生へのメッセージ		





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140560001068	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(工学部)		
編集担当教員	山口 朝彦		
授業担当教員名(科目責任者)	山口 朝彦		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	山口 朝彦		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[工] 7		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	高校までの受動的学習から大学での能動的学習に順応し、自主的に知的活動に取り組み、指導教官やグループメンバーとのディスカッションを通じて工学・科学に関する論理的思考力と倫理観を身につけると共に、口頭発表やレポート作成を通じて技術者（研究者）としての基礎的素養を身につけることをねらいとする。		
授業到達目標	1) 自主的に課題探求ができる。 2) 論理的な思考ができる。 3) ディスカッションを通じてコミュニケーションができる。 4) わかりやすい口頭発表とレポート作成ができる。		
授業方法（学習指導法）	1) 30クラスで実施する。実質13～14名のクラス編成となる。 2) クラス分けは、コース混在型とする。 3) 講義内容は基本シラバスを参考にするが、担当教官の裁量で決める。ただし、第1回目のガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介、第2回目の図書館ガイダンス、および第14回目のプレゼンテーション大会は必ず行う。 4) 調査課題は、“工学”、“科学”に関係するものとする。 5) 調査課題を行うグループは、3名以上を基本とする。		
	回	内容	
	1	ガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介	
	2	文献・資料の探し方、図書館ガイダンス	
	3	個人発表Ⅰ（発表5分＋質問1分）、発表指導	
	4	個人発表Ⅱ（発表5分＋質問1分）、発表指導	
	5	個人発表Ⅲ（発表5分＋質問1分）、発表指導、グループ分け（3～7名一組）	

授業内容	6	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション
	7	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション
	8	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション
	9	プレゼンテーションに関する指導
	10	プレゼンテーションに関する指導
	11	プレゼンテーション資料の作成
	12	プレゼンテーションの練習
	13	プレゼンテーション大会予選（各クラスから1チームを選出）
	14	プレゼンテーション大会決勝（各クラスから選ばれた15チームによる決勝）
	15	レポート作成に関する指導
	16	
キーワード	能動的学習，理論的思考力，倫理観，プレゼンテーション能力	
教科書・教材・参考書	適宜配布	
成績評価の方法・基準等	・自主学習の取り組み 30%（課題探求のための計画の妥当性，予習など） ・ディスカッションへの積極的参加 30% （発言しているか，コミュニケーションがとれているかなど） ・プレゼンテーション 20% （ストーリー性はあるか，話し方は適切か，図表が適切に配置されているか，図表は適切に引用されているかなど） ・レポート 20% （レポートの体裁となっているか，文脈は正しいかなど）	
受講要件（履修条件）		
備考（URL）		
学生へのメッセージ		





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140560001069	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(工学部)		
編集担当教員	坂口 大作		
授業担当教員名(科目責任者)	坂口 大作		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	坂口 大作		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[工] 5		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	高校までの受動的学習から大学での能動的学習に順応し、自主的に知的活動に取り組み、指導教官やグループメンバーとのディスカッションを通じて工学・科学に関する論理的思考力と倫理観を身につけると共に、口頭発表やレポート作成を通じて技術者（研究者）としての基礎的素養を身につけることをねらいとする。		
授業到達目標	1) 自主的に課題探求ができる。 2) 論理的な思考ができる。 3) ディスカッションを通じてコミュニケーションができる。 4) わかりやすい口頭発表とレポート作成ができる。		
授業方法（学習指導法）	1) 30クラスで実施する。実質13～14名のクラス編成となる。 2) クラス分けは、コース混在型とする。 3) 講義内容は基本シラバスを参考にするが、担当教官の裁量で決める。ただし、第1回目のガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介、第2回目の図書館ガイダンス、および第14回目のプレゼンテーション大会は必ず行う。 4) 調査課題は、“工学”、“科学”に関係するものとする。 5) 調査課題を行うグループは、3名以上を基本とする。		
	回	内容	
	1	ガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介	
	2	文献・資料の探し方、図書館ガイダンス	
	3	個人発表Ⅰ（発表5分＋質問1分）、発表指導	
	4	個人発表Ⅱ（発表5分＋質問1分）、発表指導	
	5	個人発表Ⅲ（発表5分＋質問1分）、発表指導、グループ分け（3～7名一組）	

授業内容	6	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション
	7	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション
	8	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション
	9	プレゼンテーションに関する指導
	10	プレゼンテーションに関する指導
	11	プレゼンテーション資料の作成
	12	プレゼンテーションの練習
	13	プレゼンテーション大会予選（各クラスから1チームを選出）
	14	プレゼンテーション大会決勝（各クラスから選ばれた15チームによる決勝）
	15	レポート作成に関する指導
	16	
キーワード	能動的学習，理論的思考力，倫理観，プレゼンテーション能力	
教科書・教材・参考書	適宜配布	
成績評価の方法・基準等	・自主学習の取り組み 30%（課題探求のための計画の妥当性，予習など） ・ディスカッションへの積極的参加 30% （発言しているか，コミュニケーションがとれているかなど） ・プレゼンテーション 20% （ストーリー性はあるか，話し方は適切か，図表が適切に配置されているか，図表は適切に引用されているかなど） ・レポート 20% （レポートの体裁となっているか，文脈は正しいかなど）	
受講要件（履修条件）		
備考（URL）		
学生へのメッセージ		





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140560001070	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(工学部)		
編集担当教員	黒川 不二雄		
授業担当教員名(科目責任者)	黒川 不二雄		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	黒川 不二雄		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[工] 2 3		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	高校までの受動的学習から大学での能動的学習に順応し、自主的に知的活動に取り組み、指導教官やグループメンバーとのディスカッションを通じて工学・科学に関する論理的思考力と倫理観を身につけると共に、口頭発表やレポート作成を通じて技術者（研究者）としての基礎的素養を身につけることをねらいとする。		
授業到達目標	1) 自主的に課題探求ができる。 2) 論理的な思考ができる。 3) ディスカッションを通じてコミュニケーションができる。 4) わかりやすい口頭発表とレポート作成ができる。		
授業方法（学習指導法）	1) 30クラスで実施する。実質13～14名のクラス編成となる。 2) クラス分けは、コース混在型とする。 3) 講義内容は基本シラバスを参考にするが、担当教官の裁量で決める。ただし、第1回目のガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介、第2回目の図書館ガイダンス、および第14回目のプレゼンテーション大会は必ず行う。 4) 調査課題は、“工学”、“科学”に関係するものとする。 5) 調査課題を行うグループは、3名以上を基本とする。		
	回	内容	
	1	ガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介	
	2	文献・資料の探し方、図書館ガイダンス	
	3	個人発表Ⅰ（発表5分＋質問1分）、発表指導	
	4	個人発表Ⅱ（発表5分＋質問1分）、発表指導	
	5	個人発表Ⅲ（発表5分＋質問1分）、発表指導、グループ分け（3～7名一組）	

授業内容	6	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション
	7	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション
	8	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション
	9	プレゼンテーションに関する指導
	10	プレゼンテーションに関する指導
	11	プレゼンテーション資料の作成
	12	プレゼンテーションの練習
	13	プレゼンテーション大会予選（各クラスから1チームを選出）
	14	プレゼンテーション大会決勝（各クラスから選ばれた15チームによる決勝）
	15	レポート作成に関する指導
	16	
キーワード	能動的学習，理論的思考力，倫理観，プレゼンテーション能力	
教科書・教材・参考書	適宜配布	
成績評価の方法・基準等	・自主学習の取り組み 30%（課題探求のための計画の妥当性，予習など） ・ディスカッションへの積極的参加 30% （発言しているか，コミュニケーションがとれているかなど） ・プレゼンテーション 20% （ストーリー性はあるか，話し方は適切か，図表が適切に配置されているか，図表は適切に引用されているかなど） ・レポート 20% （レポートの体裁となっているか，文脈は正しいかなど）	
受講要件（履修条件）		
備考（URL）		
学生へのメッセージ		





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140560001071	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(工学部)		
編集担当教員	田口 光雄		
授業担当教員名(科目責任者)	田口 光雄		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	田口 光雄		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[全] 学部間い合わせのこと		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	高校までの受動的学習から大学での能動的学習に順応し、自主的に知的活動に取り組み、指導教官やグループメンバーとのディスカッションを通じて工学・科学に関する論理的思考力と倫理観を身につけると共に、口頭発表やレポート作成を通じて技術者（研究者）としての基礎的素養を身につけることをねらいとする。		
授業到達目標	1) 自主的に課題探求ができる。 2) 論理的な思考ができる。 3) ディスカッションを通じてコミュニケーションができる。 4) わかりやすい口頭発表とレポート作成ができる。		
授業方法（学習指導法）	1) 30クラスで実施する。実質13～14名のクラス編成となる。 2) クラス分けは、コース混在型とする。 3) 講義内容は基本シラバスを参考にするが、担当教官の裁量で決める。ただし、第1回目のガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介、第2回目の図書館ガイダンス、および第14回目のプレゼンテーション大会は必ず行う。 4) 調査課題は、“工学”、“科学”に関係するものとする。 5) 調査課題を行うグループは、3名以上を基本とする。		
	回	内容	
	1	ガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介	
	2	文献・資料の探し方、図書館ガイダンス	
	3	個人発表Ⅰ（発表5分＋質問1分）、発表指導	
	4	個人発表Ⅱ（発表5分＋質問1分）、発表指導	
	5	個人発表Ⅲ（発表5分＋質問1分）、発表指導、グループ分け（3～7名一組）	

授業内容	6	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション
	7	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション
	8	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション
	9	プレゼンテーションに関する指導
	10	プレゼンテーションに関する指導
	11	プレゼンテーション資料の作成
	12	プレゼンテーションの練習
	13	プレゼンテーション大会予選（各クラスから1チームを選出）
	14	プレゼンテーション大会決勝（各クラスから選ばれた15チームによる決勝）
	15	レポート作成に関する指導
	16	
キーワード	能動的学習，理論的思考力，倫理観，プレゼンテーション能力	
教科書・教材・参考書	適宜配布	
成績評価の方法・基準等	・自主学習の取り組み 30%（課題探求のための計画の妥当性，予習など） ・ディスカッションへの積極的参加 30% （発言しているか，コミュニケーションがとれているかなど） ・プレゼンテーション 20% （ストーリー性はあるか，話し方は適切か，図表が適切に配置されているか，図表は適切に引用されているかなど） ・レポート 20% （レポートの体裁となっているか，文脈は正しいかなど）	
受講要件（履修条件）		
備考（URL）		
学生へのメッセージ		





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140560001072	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(工学部)		
編集担当教員	竹中 隆		
授業担当教員名(科目責任者)	竹中 隆		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	竹中 隆		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[工] 2 3		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	高校までの受動的学習から大学での能動的学習に順応し、自主的に知的活動に取り組み、指導教官やグループメンバーとのディスカッションを通じて工学・科学に関する論理的思考力と倫理観を身につけると共に、口頭発表やレポート作成を通じて技術者（研究者）としての基礎的素養を身につけることをねらいとする。		
授業到達目標	1) 自主的に課題探求ができる。 2) 論理的な思考ができる。 3) ディスカッションを通じてコミュニケーションができる。 4) わかりやすい口頭発表とレポート作成ができる。		
授業方法（学習指導法）	1) 30クラスで実施する。実質13～14名のクラス編成となる。 2) クラス分けは、コース混在型とする。 3) 講義内容は基本シラバスを参考にするが、担当教官の裁量で決める。ただし、第1回目のガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介、第2回目の図書館ガイダンス、および第14回目のプレゼンテーション大会は必ず行う。 4) 調査課題は、“工学”、“科学”に関係するものとする。 5) 調査課題を行うグループは、3名以上を基本とする。		
	回	内容	
	1	ガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介	
	2	文献・資料の探し方、図書館ガイダンス	
	3	個人発表Ⅰ（発表5分＋質問1分）、発表指導	
	4	個人発表Ⅱ（発表5分＋質問1分）、発表指導	
	5	個人発表Ⅲ（発表5分＋質問1分）、発表指導、グループ分け（3～7名一組）	

授業内容	6	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション
	7	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション
	8	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション
	9	プレゼンテーションに関する指導
	10	プレゼンテーションに関する指導
	11	プレゼンテーション資料の作成
	12	プレゼンテーションの練習
	13	プレゼンテーション大会予選（各クラスから1チームを選出）
	14	プレゼンテーション大会決勝（各クラスから選ばれた15チームによる決勝）
	15	レポート作成に関する指導
	16	
キーワード	能動的学習，理論的思考力，倫理観，プレゼンテーション能力	
教科書・教材・参考書	適宜配布	
成績評価の方法・基準等	・自主学習の取り組み 30%（課題探求のための計画の妥当性，予習など） ・ディスカッションへの積極的参加 30% （発言しているか，コミュニケーションがとれているかなど） ・プレゼンテーション 20% （ストーリー性はあるか，話し方は適切か，図表が適切に配置されているか，図表は適切に引用されているかなど） ・レポート 20% （レポートの体裁となっているか，文脈は正しいかなど）	
受講要件（履修条件）		
備考（URL）		
学生へのメッセージ		





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140560001073	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(工学部)		
編集担当教員	小栗 清		
授業担当教員名(科目責任者)	小栗 清		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	小栗 清		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[工] 2 2		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	高校までの受動的学習から大学での能動的学習に順応し、自主的に知的活動に取り組み、指導教官やグループメンバーとのディスカッションを通じて工学・科学に関する論理的思考力と倫理観を身につけると共に、口頭発表やレポート作成を通じて技術者（研究者）としての基礎的素養を身につけることをねらいとする。		
授業到達目標	1) 自主的に課題探求ができる。 2) 論理的な思考ができる。 3) ディスカッションを通じてコミュニケーションができる。 4) わかりやすい口頭発表とレポート作成ができる。		
授業方法（学習指導法）	1) 30クラスで実施する。実質13～14名のクラス編成となる。 2) クラス分けは、コース混在型とする。 3) 講義内容は基本シラバスを参考にするが、担当教官の裁量で決める。ただし、第1回目のガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介、第2回目の図書館ガイダンス、および第14回目のプレゼンテーション大会は必ず行う。 4) 調査課題は、“工学”、“科学”に関係するものとする。 5) 調査課題を行うグループは、3名以上を基本とする。		
	回	内容	
	1	ガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介	
	2	文献・資料の探し方、図書館ガイダンス	
	3	個人発表Ⅰ（発表5分＋質問1分）、発表指導	
	4	個人発表Ⅱ（発表5分＋質問1分）、発表指導	
	5	個人発表Ⅲ（発表5分＋質問1分）、発表指導、グループ分け（3～7名一組）	

授業内容	6	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション
	7	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション
	8	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション
	9	プレゼンテーションに関する指導
	10	プレゼンテーションに関する指導
	11	プレゼンテーション資料の作成
	12	プレゼンテーションの練習
	13	プレゼンテーション大会予選（各クラスから1チームを選出）
	14	プレゼンテーション大会決勝（各クラスから選ばれた15チームによる決勝）
	15	レポート作成に関する指導
	16	
キーワード	能動的学習，理論的思考力，倫理観，プレゼンテーション能力	
教科書・教材・参考書	適宜配布	
成績評価の方法・基準等	・自主学習の取り組み 30%（課題探求のための計画の妥当性，予習など） ・ディスカッションへの積極的参加 30% （発言しているか，コミュニケーションがとれているかなど） ・プレゼンテーション 20% （ストーリー性はあるか，話し方は適切か，図表が適切に配置されているか，図表は適切に引用されているかなど） ・レポート 20% （レポートの体裁となっているか，文脈は正しいかなど）	
受講要件（履修条件）		
備考（URL）		
学生へのメッセージ		





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140560001074	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(工学部)		
編集担当教員	喜安 千弥		
授業担当教員名(科目責任者)	喜安 千弥		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	喜安 千弥		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[工] 2 4		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	高校までの受動的学習から大学での能動的学習に順応し、自主的に知的活動に取り組み、指導教官やグループメンバーとのディスカッションを通じて工学・科学に関する論理的思考力と倫理観を身につけると共に、口頭発表やレポート作成を通じて技術者（研究者）としての基礎的素養を身につけることをねらいとする。		
授業到達目標	1) 自主的に課題探求ができる。 2) 論理的な思考ができる。 3) ディスカッションを通じてコミュニケーションができる。 4) わかりやすい口頭発表とレポート作成ができる。		
授業方法（学習指導法）	1) 30クラスで実施する。実質13～14名のクラス編成となる。 2) クラス分けは、コース混在型とする。 3) 講義内容は基本シラバスを参考にするが、担当教官の裁量で決める。ただし、第1回目のガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介、第2回目の図書館ガイダンス、および第14回目のプレゼンテーション大会は必ず行う。 4) 調査課題は、“工学”、“科学”に関係するものとする。 5) 調査課題を行うグループは、3名以上を基本とする。		
	回	内容	
	1	ガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介	
	2	文献・資料の探し方、図書館ガイダンス	
	3	個人発表Ⅰ（発表5分＋質問1分）、発表指導	
	4	個人発表Ⅱ（発表5分＋質問1分）、発表指導	
	5	個人発表Ⅲ（発表5分＋質問1分）、発表指導、グループ分け（3～7名一組）	

授業内容	6	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション
	7	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション
	8	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション
	9	プレゼンテーションに関する指導
	10	プレゼンテーションに関する指導
	11	プレゼンテーション資料の作成
	12	プレゼンテーションの練習
	13	プレゼンテーション大会予選（各クラスから1チームを選出）
	14	プレゼンテーション大会決勝（各クラスから選ばれた15チームによる決勝）
	15	レポート作成に関する指導
	16	
キーワード	能動的学習，理論的思考力，倫理観，プレゼンテーション能力	
教科書・教材・参考書	適宜配布	
成績評価の方法・基準等	・自主学習の取り組み 30%（課題探求のための計画の妥当性，予習など） ・ディスカッションへの積極的参加 30% （発言しているか，コミュニケーションがとれているかなど） ・プレゼンテーション 20% （ストーリー性はあるか，話し方は適切か，図表が適切に配置されているか，図表は適切に引用されているかなど） ・レポート 20% （レポートの体裁となっているか，文脈は正しいかなど）	
受講要件（履修条件）		
備考（URL）		
学生へのメッセージ		





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140560001075	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(工学部)		
編集担当教員	末吉 豊		
授業担当教員名(科目責任者)	末吉 豊		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	末吉 豊		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[総]総研108		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	高校までの受動的学習から大学での能動的学習に順応し、自主的に知的活動に取り組み、指導教官やグループメンバーとのディスカッションを通じて工学・科学に関する論理的思考力と倫理観を身につけると共に、口頭発表やレポート作成を通じて技術者（研究者）としての基礎的素養を身につけることをねらいとする。		
授業到達目標	1) 自主的に課題探求ができる。 2) 論理的な思考ができる。 3) ディスカッションを通じてコミュニケーションができる。 4) わかりやすい口頭発表とレポート作成ができる。		
授業方法（学習指導法）	1) 30クラスで実施する。実質13～14名のクラス編成となる。 2) クラス分けは、コース混在型とする。 3) 講義内容は基本シラバスを参考にするが、担当教官の裁量で決める。ただし、第1回目のガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介、第2回目の図書館ガイダンス、および第14回目のプレゼンテーション大会は必ず行う。 4) 調査課題は、“工学”、“科学”に関係するものとする。 5) 調査課題を行うグループは、3名以上を基本とする。		
	回	内容	
	1	ガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介	
	2	文献・資料の探し方、図書館ガイダンス	
	3	個人発表Ⅰ（発表5分＋質問1分）、発表指導	
	4	個人発表Ⅱ（発表5分＋質問1分）、発表指導	
	5	個人発表Ⅲ（発表5分＋質問1分）、発表指導、グループ分け（3～7名一組）	

授業内容	6	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション
	7	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション
	8	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション
	9	プレゼンテーションに関する指導
	10	プレゼンテーションに関する指導
	11	プレゼンテーション資料の作成
	12	プレゼンテーションの練習
	13	プレゼンテーション大会予選（各クラスから1チームを選出）
	14	プレゼンテーション大会決勝（各クラスから選ばれた15チームによる決勝）
	15	レポート作成に関する指導
	16	
キーワード	能動的学習，理論的思考力，倫理観，プレゼンテーション能力	
教科書・教材・参考書	適宜配布	
成績評価の方法・基準等	・自主学習の取り組み 30%（課題探求のための計画の妥当性，予習など） ・ディスカッションへの積極的参加 30% （発言しているか，コミュニケーションがとれているかなど） ・プレゼンテーション 20% （ストーリー性はあるか，話し方は適切か，図表が適切に配置されているか，図表は適切に引用されているかなど） ・レポート 20% （レポートの体裁となっているか，文脈は正しいかなど）	
受講要件（履修条件）		
備考（URL）		
学生へのメッセージ		





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140560001076	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(工学部)		
編集担当教員	森山 雅雄		
授業担当教員名(科目責任者)	森山 雅雄		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	森山 雅雄		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[工] 1 2		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	高校までの受動的学習から大学での能動的学習に順応し、自主的に知的活動に取り組み、指導教官やグループメンバーとのディスカッションを通じて工学・科学に関する論理的思考力と倫理観を身につけると共に、口頭発表やレポート作成を通じて技術者（研究者）としての基礎的素養を身につけることをねらいとする。		
授業到達目標	1) 自主的に課題探求ができる。 2) 論理的な思考ができる。 3) ディスカッションを通じてコミュニケーションができる。 4) わかりやすい口頭発表とレポート作成ができる。		
授業方法（学習指導法）	1) 30クラスで実施する。実質13～14名のクラス編成となる。 2) クラス分けは、コース混在型とする。 3) 講義内容は基本シラバスを参考にするが、担当教官の裁量で決める。ただし、第1回目のガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介、第2回目の図書館ガイダンス、および第14回目のプレゼンテーション大会は必ず行う。 4) 調査課題は、“工学”、“科学”に関係するものとする。 5) 調査課題を行うグループは、3名以上を基本とする。		
	回	内容	
	1	ガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介	
	2	文献・資料の探し方、図書館ガイダンス	
	3	個人発表Ⅰ（発表5分＋質問1分）、発表指導	
	4	個人発表Ⅱ（発表5分＋質問1分）、発表指導	
	5	個人発表Ⅲ（発表5分＋質問1分）、発表指導、グループ分け（3～7名一組）	

授業内容	6	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション
	7	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション
	8	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション
	9	プレゼンテーションに関する指導
	10	プレゼンテーションに関する指導
	11	プレゼンテーション資料の作成
	12	プレゼンテーションの練習
	13	プレゼンテーション大会予選（各クラスから1チームを選出）
	14	プレゼンテーション大会決勝（各クラスから選ばれた15チームによる決勝）
	15	レポート作成に関する指導
	16	
キーワード	能動的学習，理論的思考力，倫理観，プレゼンテーション能力	
教科書・教材・参考書	適宜配布	
成績評価の方法・基準等	・自主学習の取り組み 30%（課題探求のための計画の妥当性，予習など） ・ディスカッションへの積極的参加 30% （発言しているか，コミュニケーションがとれているかなど） ・プレゼンテーション 20% （ストーリー性はあるか，話し方は適切か，図表が適切に配置されているか，図表は適切に引用されているかなど） ・レポート 20% （レポートの体裁となっているか，文脈は正しいかなど）	
受講要件（履修条件）		
備考（URL）		
学生へのメッセージ		





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140560001077	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(工学部)		
編集担当教員	柴田 裕一郎		
授業担当教員名(科目責任者)	柴田 裕一郎		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	柴田 裕一郎		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[工] 情報演習室		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	高校までの受動的学習から大学での能動的学習に順応し、自主的に知的活動に取り組み、指導教官やグループメンバーとのディスカッションを通じて工学・科学に関する論理的思考力と倫理観を身につけると共に、口頭発表やレポート作成を通じて技術者（研究者）としての基礎的素養を身につけることをねらいとする。		
授業到達目標	1) 自主的に課題探求ができる。 2) 論理的な思考ができる。 3) ディスカッションを通じてコミュニケーションができる。 4) わかりやすい口頭発表とレポート作成ができる。		
授業方法（学習指導法）	1) 30クラスで実施する。実質13～14名のクラス編成となる。 2) クラス分けは、コース混在型とする。 3) 講義内容は基本シラバスを参考にするが、担当教官の裁量で決める。ただし、第1回目のガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介、第2回目の図書館ガイダンス、および第14回目のプレゼンテーション大会は必ず行う。 4) 調査課題は、“工学”、“科学”に関係するものとする。 5) 調査課題を行うグループは、3名以上を基本とする。		
	回	内容	
	1	ガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介	
	2	文献・資料の探し方、図書館ガイダンス	
	3	個人発表Ⅰ（発表5分＋質問1分）、発表指導	
	4	個人発表Ⅱ（発表5分＋質問1分）、発表指導	
	5	個人発表Ⅲ（発表5分＋質問1分）、発表指導、グループ分け（3～7名一組）	

授業内容	6	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション
	7	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション
	8	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション
	9	プレゼンテーションに関する指導
	10	プレゼンテーションに関する指導
	11	プレゼンテーション資料の作成
	12	プレゼンテーションの練習
	13	プレゼンテーション大会予選（各クラスから1チームを選出）
	14	プレゼンテーション大会決勝（各クラスから選ばれた15チームによる決勝）
	15	レポート作成に関する指導
	16	
キーワード	能動的学習，理論的思考力，倫理観，プレゼンテーション能力	
教科書・教材・参考書	適宜配布	
成績評価の方法・基準等	・自主学習の取り組み 30%（課題探求のための計画の妥当性，予習など） ・ディスカッションへの積極的参加 30% （発言しているか，コミュニケーションがとれているかなど） ・プレゼンテーション 20% （ストーリー性はあるか，話し方は適切か，図表が適切に配置されているか，図表は適切に引用されているかなど） ・レポート 20% （レポートの体裁となっているか，文脈は正しいかなど）	
受講要件（履修条件）		
備考（URL）		
学生へのメッセージ		





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140560001078	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(工学部)		
編集担当教員	藤村 誠		
授業担当教員名(科目責任者)	藤村 誠		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	藤村 誠		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[工] 2 1		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	高校までの受動的学習から大学での能動的学習に順応し、自主的に知的活動に取り組み、指導教官やグループメンバーとのディスカッションを通じて工学・科学に関する論理的思考力と倫理観を身につけると共に、口頭発表やレポート作成を通じて技術者（研究者）としての基礎的素養を身につけることをねらいとする。		
授業到達目標	1) 自主的に課題探求ができる。 2) 論理的な思考ができる。 3) ディスカッションを通じてコミュニケーションができる。 4) わかりやすい口頭発表とレポート作成ができる。		
授業方法（学習指導法）	1) 30クラスで実施する。実質13～14名のクラス編成となる。 2) クラス分けは、コース混在型とする。 3) 講義内容は基本シラバスを参考にするが、担当教官の裁量で決める。ただし、第1回目のガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介、第2回目の図書館ガイダンス、および第14回目のプレゼンテーション大会は必ず行う。 4) 調査課題は、“工学”、“科学”に関係するものとする。 5) 調査課題を行うグループは、3名以上を基本とする。		
	回	内容	
	1	ガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介	
	2	文献・資料の探し方、図書館ガイダンス	
	3	個人発表Ⅰ（発表5分＋質問1分）、発表指導	
	4	個人発表Ⅱ（発表5分＋質問1分）、発表指導	
	5	個人発表Ⅲ（発表5分＋質問1分）、発表指導、グループ分け（3～7名一組）	

授業内容	6	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション
	7	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション
	8	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション
	9	プレゼンテーションに関する指導
	10	プレゼンテーションに関する指導
	11	プレゼンテーション資料の作成
	12	プレゼンテーションの練習
	13	プレゼンテーション大会予選（各クラスから1チームを選出）
	14	プレゼンテーション大会決勝（各クラスから選ばれた15チームによる決勝）
	15	レポート作成に関する指導
	16	
キーワード	能動的学習，理論的思考力，倫理観，プレゼンテーション能力	
教科書・教材・参考書	適宜配布	
成績評価の方法・基準等	・自主学習の取り組み 30%（課題探求のための計画の妥当性，予習など） ・ディスカッションへの積極的参加 30% （発言しているか，コミュニケーションがとれているかなど） ・プレゼンテーション 20% （ストーリー性はあるか，話し方は適切か，図表が適切に配置されているか，図表は適切に引用されているかなど） ・レポート 20% （レポートの体裁となっているか，文脈は正しいかなど）	
受講要件（履修条件）		
備考（URL）		
学生へのメッセージ		





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140560001079	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(工学部)		
編集担当教員	森田 千尋		
授業担当教員名(科目責任者)	森田 千尋		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	森田 千尋		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[工] 物理実験室		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	高校までの受動的学習から大学での能動的学習に順応し、自主的に知的活動に取り組み、指導教官やグループメンバーとのディスカッションを通じて工学・科学に関する論理的思考力と倫理観を身につけると共に、口頭発表やレポート作成を通じて技術者（研究者）としての基礎的素養を身につけることをねらいとする。		
授業到達目標	1) 自主的に課題探求ができる。 2) 論理的な思考ができる。 3) ディスカッションを通じてコミュニケーションができる。 4) わかりやすい口頭発表とレポート作成ができる。		
授業方法（学習指導法）	1) 30クラスで実施する。実質13～14名のクラス編成となる。 2) クラス分けは、コース混在型とする。 3) 講義内容は基本シラバスを参考にするが、担当教官の裁量で決める。ただし、第1回目のガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介、第2回目の図書館ガイダンス、および第14回目のプレゼンテーション大会は必ず行う。 4) 調査課題は、“工学”、“科学”に関係するものとする。 5) 調査課題を行うグループは、3名以上を基本とする。		
	回	内容	
	1	ガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介	
	2	文献・資料の探し方、図書館ガイダンス	
	3	個人発表Ⅰ（発表5分＋質問1分）、発表指導	
	4	個人発表Ⅱ（発表5分＋質問1分）、発表指導	
	5	個人発表Ⅲ（発表5分＋質問1分）、発表指導、グループ分け（3～7名一組）	

授業内容	6	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション
	7	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション
	8	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション
	9	プレゼンテーションに関する指導
	10	プレゼンテーションに関する指導
	11	プレゼンテーション資料の作成
	12	プレゼンテーションの練習
	13	プレゼンテーション大会予選（各クラスから1チームを選出）
	14	プレゼンテーション大会決勝（各クラスから選ばれた15チームによる決勝）
	15	レポート作成に関する指導
	16	
キーワード	能動的学習，理論的思考力，倫理観，プレゼンテーション能力	
教科書・教材・参考書	適宜配布	
成績評価の方法・基準等	・自主学習の取り組み 30%（課題探求のための計画の妥当性，予習など） ・ディスカッションへの積極的参加 30% （発言しているか，コミュニケーションがとれているかなど） ・プレゼンテーション 20% （ストーリー性はあるか，話し方は適切か，図表が適切に配置されているか，図表は適切に引用されているかなど） ・レポート 20% （レポートの体裁となっているか，文脈は正しいかなど）	
受講要件（履修条件）		
備考（URL）		
学生へのメッセージ		





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140560001080	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(工学部)		
編集担当教員	蓼原 真一		
授業担当教員名(科目責任者)	蓼原 真一		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	蓼原 真一		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[工] 8		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	高校までの受動的学習から大学での能動的学習に順応し、自主的に知的活動に取り組み、指導教官やグループメンバーとのディスカッションを通じて工学・科学に関する論理的思考力と倫理観を身につけると共に、口頭発表やレポート作成を通じて技術者（研究者）としての基礎的素養を身につけることをねらいとする。		
授業到達目標	1) 自主的に課題探求ができる。 2) 論理的な思考ができる。 3) ディスカッションを通じてコミュニケーションができる。 4) わかりやすい口頭発表とレポート作成ができる。		
授業方法（学習指導法）	1) 30クラスで実施する。実質13～14名のクラス編成となる。 2) クラス分けは、コース混在型とする。 3) 講義内容は基本シラバスを参考にするが、担当教官の裁量で決める。ただし、第1回目のガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介、第2回目の図書館ガイダンス、および第14回目のプレゼンテーション大会は必ず行う。 4) 調査課題は、“工学”、“科学”に関係するものとする。 5) 調査課題を行うグループは、3名以上を基本とする。		
	回	内容	
	1	ガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介	
	2	文献・資料の探し方、図書館ガイダンス	
	3	個人発表Ⅰ（発表5分＋質問1分）、発表指導	
	4	個人発表Ⅱ（発表5分＋質問1分）、発表指導	
	5	個人発表Ⅲ（発表5分＋質問1分）、発表指導、グループ分け（3～7名一組）	

授業内容	6	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション
	7	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション
	8	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション
	9	プレゼンテーションに関する指導
	10	プレゼンテーションに関する指導
	11	プレゼンテーション資料の作成
	12	プレゼンテーションの練習
	13	プレゼンテーション大会予選（各クラスから1チームを選出）
	14	プレゼンテーション大会決勝（各クラスから選ばれた15チームによる決勝）
	15	レポート作成に関する指導
	16	
キーワード	能動的学習，理論的思考力，倫理観，プレゼンテーション能力	
教科書・教材・参考書	適宜配布	
成績評価の方法・基準等	・自主学習の取り組み 30%（課題探求のための計画の妥当性，予習など） ・ディスカッションへの積極的参加 30% （発言しているか，コミュニケーションがとれているかなど） ・プレゼンテーション 20% （ストーリー性はあるか，話し方は適切か，図表が適切に配置されているか，図表は適切に引用されているかなど） ・レポート 20% （レポートの体裁となっているか，文脈は正しいかなど）	
受講要件（履修条件）		
備考（URL）		
学生へのメッセージ		





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140560001081	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(工学部)		
編集担当教員	勝田 順一		
授業担当教員名(科目責任者)	勝田 順一		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	勝田 順一		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[工] 8		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	高校までの受動的学習から大学での能動的学習に順応し、自主的に知的活動に取り組み、指導教官やグループメンバーとのディスカッションを通じて工学・科学に関する論理的思考力と倫理観を身につけると共に、口頭発表やレポート作成を通じて技術者（研究者）としての基礎的素養を身につけることをねらいとする。		
授業到達目標	1) 自主的に課題探求ができる。 2) 論理的な思考ができる。 3) ディスカッションを通じてコミュニケーションができる。 4) わかりやすい口頭発表とレポート作成ができる。		
授業方法（学習指導法）	1) 30クラスで実施する。実質13～14名のクラス編成となる。 2) クラス分けは、コース混在型とする。 3) 講義内容は基本シラバスを参考にするが、担当教官の裁量で決める。ただし、第1回目のガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介、第2回目の図書館ガイダンス、および第14回目のプレゼンテーション大会は必ず行う。 4) 調査課題は、“工学”、“科学”に関係するものとする。 5) 調査課題を行うグループは、3名以上を基本とする。		
	回	内容	
	1	ガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介	
	2	文献・資料の探し方、図書館ガイダンス	
	3	個人発表Ⅰ（発表5分＋質問1分）、発表指導	
	4	個人発表Ⅱ（発表5分＋質問1分）、発表指導	
	5	個人発表Ⅲ（発表5分＋質問1分）、発表指導、グループ分け（3～7名一組）	

授業内容	6	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション
	7	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション
	8	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション
	9	プレゼンテーションに関する指導
	10	プレゼンテーションに関する指導
	11	プレゼンテーション資料の作成
	12	プレゼンテーションの練習
	13	プレゼンテーション大会予選（各クラスから1チームを選出）
	14	プレゼンテーション大会決勝（各クラスから選ばれた15チームによる決勝）
	15	レポート作成に関する指導
	16	
キーワード	能動的学習，理論的思考力，倫理観，プレゼンテーション能力	
教科書・教材・参考書	適宜配布	
成績評価の方法・基準等	・自主学習の取り組み 30%（課題探求のための計画の妥当性，予習など） ・ディスカッションへの積極的参加 30% （発言しているか，コミュニケーションがとれているかなど） ・プレゼンテーション 20% （ストーリー性はあるか，話し方は適切か，図表が適切に配置されているか，図表は適切に引用されているかなど） ・レポート 20% （レポートの体裁となっているか，文脈は正しいかなど）	
受講要件（履修条件）		
備考（URL）		
学生へのメッセージ		





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140560001082	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(工学部)		
編集担当教員	蔣 宇静		
授業担当教員名(科目責任者)	蔣 宇静		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	蔣 宇静		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[工] セミナー室 2		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	高校までの受動的学習から大学での能動的学習に順応し、自主的に知的活動に取り組み、指導教官やグループメンバーとのディスカッションを通じて工学・科学に関する論理的思考力と倫理観を身につけると共に、口頭発表やレポート作成を通じて技術者（研究者）としての基礎的素養を身につけることをねらいとする。		
授業到達目標	1) 自主的に課題探求ができる。 2) 論理的な思考ができる。 3) ディスカッションを通じてコミュニケーションができる。 4) わかりやすい口頭発表とレポート作成ができる。		
授業方法（学習指導法）	1) 30クラスで実施する。実質13～14名のクラス編成となる。 2) クラス分けは、コース混在型とする。 3) 講義内容は基本シラバスを参考にするが、担当教官の裁量で決める。ただし、第1回目のガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介、第2回目の図書館ガイダンス、および第14回目のプレゼンテーション大会は必ず行う。 4) 調査課題は、“工学”、“科学”に関係するものとする。 5) 調査課題を行うグループは、3名以上を基本とする。		
	回	内容	
	1	ガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介	
	2	文献・資料の探し方、図書館ガイダンス	
	3	個人発表Ⅰ（発表5分＋質問1分）、発表指導	
	4	個人発表Ⅱ（発表5分＋質問1分）、発表指導	
	5	個人発表Ⅲ（発表5分＋質問1分）、発表指導、グループ分け（3～7名一組）	

授業内容	6	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション
	7	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション
	8	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション
	9	プレゼンテーションに関する指導
	10	プレゼンテーションに関する指導
	11	プレゼンテーション資料の作成
	12	プレゼンテーションの練習
	13	プレゼンテーション大会予選（各クラスから1チームを選出）
	14	プレゼンテーション大会決勝（各クラスから選ばれた15チームによる決勝）
	15	レポート作成に関する指導
	16	
キーワード	能動的学習，理論的思考力，倫理観，プレゼンテーション能力	
教科書・教材・参考書	適宜配布	
成績評価の方法・基準等	・自主学習の取り組み 30%（課題探求のための計画の妥当性，予習など） ・ディスカッションへの積極的参加 30% （発言しているか，コミュニケーションがとれているかなど） ・プレゼンテーション 20% （ストーリー性はあるか，話し方は適切か，図表が適切に配置されているか，図表は適切に引用されているかなど） ・レポート 20% （レポートの体裁となっているか，文脈は正しいかなど）	
受講要件（履修条件）		
備考（URL）		
学生へのメッセージ		





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140560001083	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(工学部)		
編集担当教員	埴田 彰秀		
授業担当教員名(科目責任者)	埴田 彰秀		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	埴田 彰秀		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[工] 9		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	高校までの受動的学習から大学での能動的学習に順応し、自主的に知的活動に取り組み、指導教官やグループメンバーとのディスカッションを通じて工学・科学に関する論理的思考力と倫理観を身につけると共に、口頭発表やレポート作成を通じて技術者（研究者）としての基礎的素養を身につけることをねらいとする。		
授業到達目標	1) 自主的に課題探求ができる。 2) 論理的な思考ができる。 3) ディスカッションを通じてコミュニケーションができる。 4) わかりやすい口頭発表とレポート作成ができる。		
授業方法（学習指導法）	1) 30クラスで実施する。実質13～14名のクラス編成となる。 2) クラス分けは、コース混在型とする。 3) 講義内容は基本シラバスを参考にするが、担当教官の裁量で決める。ただし、第1回目のガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介、第2回目の図書館ガイダンス、および第14回目のプレゼンテーション大会は必ず行う。 4) 調査課題は、“工学”、“科学”に関係するものとする。 5) 調査課題を行うグループは、3名以上を基本とする。		
	回	内容	
	1	ガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介	
	2	文献・資料の探し方、図書館ガイダンス	
	3	個人発表Ⅰ（発表5分＋質問1分）、発表指導	
	4	個人発表Ⅱ（発表5分＋質問1分）、発表指導	
	5	個人発表Ⅲ（発表5分＋質問1分）、発表指導、グループ分け（3～7名一組）	

授業内容	6	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション
	7	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション
	8	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション
	9	プレゼンテーションに関する指導
	10	プレゼンテーションに関する指導
	11	プレゼンテーション資料の作成
	12	プレゼンテーションの練習
	13	プレゼンテーション大会予選（各クラスから1チームを選出）
	14	プレゼンテーション大会決勝（各クラスから選ばれた15チームによる決勝）
	15	レポート作成に関する指導
	16	
キーワード	能動的学習，理論的思考力，倫理観，プレゼンテーション能力	
教科書・教材・参考書	適宜配布	
成績評価の方法・基準等	・自主学習の取り組み 30%（課題探求のための計画の妥当性，予習など） ・ディスカッションへの積極的参加 30% （発言しているか，コミュニケーションがとれているかなど） ・プレゼンテーション 20% （ストーリー性はあるか，話し方は適切か，図表が適切に配置されているか，図表は適切に引用されているかなど） ・レポート 20% （レポートの体裁となっているか，文脈は正しいかなど）	
受講要件（履修条件）		
備考（URL）		
学生へのメッセージ		





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140560001084	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(工学部)		
編集担当教員	奥松 俊博		
授業担当教員名(科目責任者)	奥松 俊博		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	奥松 俊博		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[工] セミナー室 1		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	高校までの受動的学習から大学での能動的学習に順応し、自主的に知的活動に取り組み、指導教官やグループメンバーとのディスカッションを通じて工学・科学に関する論理的思考力と倫理観を身につけると共に、口頭発表やレポート作成を通じて技術者（研究者）としての基礎的素養を身につけることをねらいとする。		
授業到達目標	1) 自主的に課題探求ができる。 2) 論理的な思考ができる。 3) ディスカッションを通じてコミュニケーションができる。 4) わかりやすい口頭発表とレポート作成ができる。		
授業方法（学習指導法）	1) 30クラスで実施する。実質13～14名のクラス編成となる。 2) クラス分けは、コース混在型とする。 3) 講義内容は基本シラバスを参考にするが、担当教官の裁量で決める。ただし、第1回目のガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介、第2回目の図書館ガイダンス、および第14回目のプレゼンテーション大会は必ず行う。 4) 調査課題は、“工学”、“科学”に関係するものとする。 5) 調査課題を行うグループは、3名以上を基本とする。		
	回	内容	
	1	ガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介	
	2	文献・資料の探し方、図書館ガイダンス	
	3	個人発表Ⅰ（発表5分＋質問1分）、発表指導	
	4	個人発表Ⅱ（発表5分＋質問1分）、発表指導	
	5	個人発表Ⅲ（発表5分＋質問1分）、発表指導、グループ分け（3～7名一組）	

授業内容	6	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション
	7	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション
	8	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション
	9	プレゼンテーションに関する指導
	10	プレゼンテーションに関する指導
	11	プレゼンテーション資料の作成
	12	プレゼンテーションの練習
	13	プレゼンテーション大会予選（各クラスから1チームを選出）
	14	プレゼンテーション大会決勝（各クラスから選ばれた15チームによる決勝）
	15	レポート作成に関する指導
	16	
キーワード	能動的学習，理論的思考力，倫理観，プレゼンテーション能力	
教科書・教材・参考書	適宜配布	
成績評価の方法・基準等	・自主学習の取り組み 30%（課題探求のための計画の妥当性，予習など） ・ディスカッションへの積極的参加 30% （発言しているか，コミュニケーションがとれているかなど） ・プレゼンテーション 20% （ストーリー性はあるか，話し方は適切か，図表が適切に配置されているか，図表は適切に引用されているかなど） ・レポート 20% （レポートの体裁となっているか，文脈は正しいかなど）	
受講要件（履修条件）		
備考（URL）		
学生へのメッセージ		





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140560001085	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(工学部)		
編集担当教員	香川 明男		
授業担当教員名(科目責任者)	香川 明男		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	香川 明男		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[総]総研207		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	高校までの受動的学習から大学での能動的学習に順応し、自主的に知的活動に取り組み、指導教官やグループメンバーとのディスカッションを通じて工学・科学に関する論理的思考力と倫理観を身につけると共に、口頭発表やレポート作成を通じて技術者（研究者）としての基礎的素養を身につけることをねらいとする。		
授業到達目標	1) 自主的に課題探求ができる。 2) 論理的な思考ができる。 3) ディスカッションを通じてコミュニケーションができる。 4) わかりやすい口頭発表とレポート作成ができる。		
授業方法（学習指導法）	1) 30クラスで実施する。実質13～14名のクラス編成となる。 2) クラス分けは、コース混在型とする。 3) 講義内容は基本シラバスを参考にするが、担当教官の裁量で決める。ただし、第1回目のガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介、第2回目の図書館ガイダンス、および第14回目のプレゼンテーション大会は必ず行う。 4) 調査課題は、“工学”、“科学”に関係するものとする。 5) 調査課題を行うグループは、3名以上を基本とする。		
	回	内容	
	1	ガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介	
	2	文献・資料の探し方、図書館ガイダンス	
	3	個人発表Ⅰ（発表5分＋質問1分）、発表指導	
	4	個人発表Ⅱ（発表5分＋質問1分）、発表指導	
	5	個人発表Ⅲ（発表5分＋質問1分）、発表指導、グループ分け（3～7名一組）	

授業内容	6	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション
	7	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション
	8	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション
	9	プレゼンテーションに関する指導
	10	プレゼンテーションに関する指導
	11	プレゼンテーション資料の作成
	12	プレゼンテーションの練習
	13	プレゼンテーション大会予選（各クラスから1チームを選出）
	14	プレゼンテーション大会決勝（各クラスから選ばれた15チームによる決勝）
	15	レポート作成に関する指導
	16	
キーワード	能動的学習，理論的思考力，倫理観，プレゼンテーション能力	
教科書・教材・参考書	適宜配布	
成績評価の方法・基準等	・自主学習の取り組み 30%（課題探求のための計画の妥当性，予習など） ・ディスカッションへの積極的参加 30% （発言しているか，コミュニケーションがとれているかなど） ・プレゼンテーション 20% （ストーリー性はあるか，話し方は適切か，図表が適切に配置されているか，図表は適切に引用されているかなど） ・レポート 20% （レポートの体裁となっているか，文脈は正しいかなど）	
受講要件（履修条件）		
備考（URL）		
学生へのメッセージ		





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140560001086	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(工学部)		
編集担当教員	木村 正成		
授業担当教員名(科目責任者)	木村 正成		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	木村 正成		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[工] 化学実験室		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	高校までの受動的学習から大学での能動的学習に順応し、自主的に知的活動に取り組み、指導教官やグループメンバーとのディスカッションを通じて工学・科学に関する論理的思考力と倫理観を身につけると共に、口頭発表やレポート作成を通じて技術者（研究者）としての基礎的素養を身につけることをねらいとする。		
授業到達目標	1) 自主的に課題探求ができる。 2) 論理的な思考ができる。 3) ディスカッションを通じてコミュニケーションができる。 4) わかりやすい口頭発表とレポート作成ができる。		
授業方法（学習指導法）	1) 30クラスで実施する。実質13～14名のクラス編成となる。 2) クラス分けは、コース混在型とする。 3) 講義内容は基本シラバスを参考にするが、担当教官の裁量で決める。ただし、第1回目のガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介、第2回目の図書館ガイダンス、および第14回目のプレゼンテーション大会は必ず行う。 4) 調査課題は、“工学”、“科学”に関係するものとする。 5) 調査課題を行うグループは、3名以上を基本とする。		
	回	内容	
	1	ガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介	
	2	文献・資料の探し方、図書館ガイダンス	
	3	個人発表Ⅰ（発表5分＋質問1分）、発表指導	
	4	個人発表Ⅱ（発表5分＋質問1分）、発表指導	
	5	個人発表Ⅲ（発表5分＋質問1分）、発表指導、グループ分け（3～7名一組）	

授業内容	6	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション
	7	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション
	8	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション
	9	プレゼンテーションに関する指導
	10	プレゼンテーションに関する指導
	11	プレゼンテーション資料の作成
	12	プレゼンテーションの練習
	13	プレゼンテーション大会予選（各クラスから1チームを選出）
	14	プレゼンテーション大会決勝（各クラスから選ばれた15チームによる決勝）
	15	レポート作成に関する指導
	16	
キーワード	能動的学習，理論的思考力，倫理観，プレゼンテーション能力	
教科書・教材・参考書	適宜配布	
成績評価の方法・基準等	・自主学習の取り組み 30%（課題探求のための計画の妥当性，予習など） ・ディスカッションへの積極的参加 30% （発言しているか，コミュニケーションがとれているかなど） ・プレゼンテーション 20% （ストーリー性はあるか，話し方は適切か，図表が適切に配置されているか，図表は適切に引用されているかなど） ・レポート 20% （レポートの体裁となっているか，文脈は正しいかなど）	
受講要件（履修条件）		
備考（URL）		
学生へのメッセージ		





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140560001087	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(工学部)		
編集担当教員	相樂 隆正		
授業担当教員名(科目責任者)	相樂 隆正		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	相樂 隆正		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[総]総研大講義室		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	高校までの受動的学習から大学での能動的学習に順応し、自主的に知的活動に取り組み、指導教官やグループメンバーとのディスカッションを通じて工学・科学に関する論理的思考力と倫理観を身につけると共に、口頭発表やレポート作成を通じて技術者（研究者）としての基礎的素養を身につけることをねらいとする。		
授業到達目標	1) 自主的に課題探求ができる。 2) 論理的な思考ができる。 3) ディスカッションを通じてコミュニケーションができる。 4) わかりやすい口頭発表とレポート作成ができる。		
授業方法（学習指導法）	1) 30クラスで実施する。実質13～14名のクラス編成となる。 2) クラス分けは、コース混在型とする。 3) 講義内容は基本シラバスを参考にするが、担当教官の裁量で決める。ただし、第1回目のガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介、第2回目の図書館ガイダンス、および第14回目のプレゼンテーション大会は必ず行う。 4) 調査課題は、“工学”、“科学”に関係するものとする。 5) 調査課題を行うグループは、3名以上を基本とする。		
	回	内容	
	1	ガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介	
	2	文献・資料の探し方、図書館ガイダンス	
	3	個人発表Ⅰ（発表5分＋質問1分）、発表指導	
	4	個人発表Ⅱ（発表5分＋質問1分）、発表指導	
	5	個人発表Ⅲ（発表5分＋質問1分）、発表指導、グループ分け（3～7名一組）	

授業内容	6	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション
	7	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション
	8	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション
	9	プレゼンテーションに関する指導
	10	プレゼンテーションに関する指導
	11	プレゼンテーション資料の作成
	12	プレゼンテーションの練習
	13	プレゼンテーション大会予選（各クラスから1チームを選出）
	14	プレゼンテーション大会決勝（各クラスから選ばれた15チームによる決勝）
	15	レポート作成に関する指導
	16	
キーワード	能動的学習，理論的思考力，倫理観，プレゼンテーション能力	
教科書・教材・参考書	適宜配布	
成績評価の方法・基準等	・自主学習の取り組み 30%（課題探求のための計画の妥当性，予習など） ・ディスカッションへの積極的参加 30% （発言しているか，コミュニケーションがとれているかなど） ・プレゼンテーション 20% （ストーリー性はあるか，話し方は適切か，図表が適切に配置されているか，図表は適切に引用されているかなど） ・レポート 20% （レポートの体裁となっているか，文脈は正しいかなど）	
受講要件（履修条件）		
備考（URL）		
学生へのメッセージ		





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140560001088	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(工学部)		
編集担当教員	清水 康博		
授業担当教員名(科目責任者)	清水 康博		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	清水 康博		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[総]総研多目的ホール		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	高校までの受動的学習から大学での能動的学習に順応し、自主的に知的活動に取り組み、指導教官やグループメンバーとのディスカッションを通じて工学・科学に関する論理的思考力と倫理観を身につけると共に、口頭発表やレポート作成を通じて技術者（研究者）としての基礎的素養を身につけることをねらいとする。		
授業到達目標	1) 自主的に課題探求ができる。 2) 論理的な思考ができる。 3) ディスカッションを通じてコミュニケーションができる。 4) わかりやすい口頭発表とレポート作成ができる。		
授業方法（学習指導法）	1) 30クラスで実施する。実質13～14名のクラス編成となる。 2) クラス分けは、コース混在型とする。 3) 講義内容は基本シラバスを参考にするが、担当教官の裁量で決める。ただし、第1回目のガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介、第2回目の図書館ガイダンス、および第14回目のプレゼンテーション大会は必ず行う。 4) 調査課題は、“工学”、“科学”に関係するものとする。 5) 調査課題を行うグループは、3名以上を基本とする。		
	回	内容	
	1	ガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介	
	2	文献・資料の探し方、図書館ガイダンス	
	3	個人発表Ⅰ（発表5分＋質問1分）、発表指導	
	4	個人発表Ⅱ（発表5分＋質問1分）、発表指導	
	5	個人発表Ⅲ（発表5分＋質問1分）、発表指導、グループ分け（3～7名一組）	

授業内容	6	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション
	7	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション
	8	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション
	9	プレゼンテーションに関する指導
	10	プレゼンテーションに関する指導
	11	プレゼンテーション資料の作成
	12	プレゼンテーションの練習
	13	プレゼンテーション大会予選（各クラスから1チームを選出）
	14	プレゼンテーション大会決勝（各クラスから選ばれた15チームによる決勝）
	15	レポート作成に関する指導
	16	
キーワード	能動的学習，理論的思考力，倫理観，プレゼンテーション能力	
教科書・教材・参考書	適宜配布	
成績評価の方法・基準等	・自主学習の取り組み 30%（課題探求のための計画の妥当性，予習など） ・ディスカッションへの積極的参加 30% （発言しているか，コミュニケーションがとれているかなど） ・プレゼンテーション 20% （ストーリー性はあるか，話し方は適切か，図表が適切に配置されているか，図表は適切に引用されているかなど） ・レポート 20% （レポートの体裁となっているか，文脈は正しいかなど）	
受講要件（履修条件）		
備考（URL）		
学生へのメッセージ		





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140560001089	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(工学部)		
編集担当教員	田邊 秀二		
授業担当教員名(科目責任者)	田邊 秀二		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	田邊 秀二		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[総]総研208		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	高校までの受動的学習から大学での能動的学習に順応し、自主的に知的活動に取り組み、指導教官やグループメンバーとのディスカッションを通じて工学・科学に関する論理的思考力と倫理観を身につけると共に、口頭発表やレポート作成を通じて技術者（研究者）としての基礎的素養を身につけることをねらいとする。		
授業到達目標	1) 自主的に課題探求ができる。 2) 論理的な思考ができる。 3) ディスカッションを通じてコミュニケーションができる。 4) わかりやすい口頭発表とレポート作成ができる。		
授業方法（学習指導法）	1) 30クラスで実施する。実質13～14名のクラス編成となる。 2) クラス分けは、コース混在型とする。 3) 講義内容は基本シラバスを参考にするが、担当教官の裁量で決める。ただし、第1回目のガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介、第2回目の図書館ガイダンス、および第14回目のプレゼンテーション大会は必ず行う。 4) 調査課題は、“工学”、“科学”に関係するものとする。 5) 調査課題を行うグループは、3名以上を基本とする。		
	回	内容	
	1	ガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介	
	2	文献・資料の探し方、図書館ガイダンス	
	3	個人発表Ⅰ（発表5分＋質問1分）、発表指導	
	4	個人発表Ⅱ（発表5分＋質問1分）、発表指導	
	5	個人発表Ⅲ（発表5分＋質問1分）、発表指導、グループ分け（3～7名一組）	

授業内容	6	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション
	7	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション
	8	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション
	9	プレゼンテーションに関する指導
	10	プレゼンテーションに関する指導
	11	プレゼンテーション資料の作成
	12	プレゼンテーションの練習
	13	プレゼンテーション大会予選（各クラスから1チームを選出）
	14	プレゼンテーション大会決勝（各クラスから選ばれた15チームによる決勝）
	15	レポート作成に関する指導
	16	
キーワード	能動的学習，理論的思考力，倫理観，プレゼンテーション能力	
教科書・教材・参考書	適宜配布	
成績評価の方法・基準等	・自主学習の取り組み 30%（課題探求のための計画の妥当性，予習など） ・ディスカッションへの積極的参加 30% （発言しているか，コミュニケーションがとれているかなど） ・プレゼンテーション 20% （ストーリー性はあるか，話し方は適切か，図表が適切に配置されているか，図表は適切に引用されているかなど） ・レポート 20% （レポートの体裁となっているか，文脈は正しいかなど）	
受講要件（履修条件）		
備考（URL）		
学生へのメッセージ		





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	木 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140560001090	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(工学部)		
編集担当教員	近藤 慎一郎		
授業担当教員名(科目責任者)	近藤 慎一郎		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	近藤 慎一郎		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[総]総研208		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	高校までの受動的学習から大学での能動的学習に順応し、自主的に知的活動に取り組み、指導教官やグループメンバーとのディスカッションを通じて工学・科学に関する論理的思考力と倫理観を身につけると共に、口頭発表やレポート作成を通じて技術者（研究者）としての基礎的素養を身につけることをねらいとする。		
授業到達目標	1) 自主的に課題探求ができる。 2) 論理的な思考ができる。 3) ディスカッションを通じてコミュニケーションができる。 4) わかりやすい口頭発表とレポート作成ができる。		
授業方法（学習指導法）	1) 30クラスで実施する。実質13～14名のクラス編成となる。 2) クラス分けは、コース混在型とする。 3) 講義内容は基本シラバスを参考にするが、担当教官の裁量で決める。ただし、第1回目のガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介、第2回目の図書館ガイダンス、および第14回目のプレゼンテーション大会は必ず行う。 4) 調査課題は、“工学”、“科学”に関係するものとする。 5) 調査課題を行うグループは、3名以上を基本とする。		
	回	内容	
	1	ガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介	
	2	文献・資料の探し方、図書館ガイダンス	
	3	個人発表Ⅰ（発表5分＋質問1分）、発表指導	
	4	個人発表Ⅱ（発表5分＋質問1分）、発表指導	
	5	個人発表Ⅲ（発表5分＋質問1分）、発表指導、グループ分け（3～7名一組）	

授業内容	6	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション
	7	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション
	8	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション
	9	プレゼンテーションに関する指導
	10	プレゼンテーションに関する指導
	11	プレゼンテーション資料の作成
	12	プレゼンテーションの練習
	13	プレゼンテーション大会予選（各クラスから1チームを選出）
	14	プレゼンテーション大会決勝（各クラスから選ばれた15チームによる決勝）
	15	レポート作成に関する指導
	16	
キーワード	能動的学習，理論的思考力，倫理観，プレゼンテーション能力	
教科書・教材・参考書	適宜配布	
成績評価の方法・基準等	・自主学習の取り組み 30%（課題探求のための計画の妥当性，予習など） ・ディスカッションへの積極的参加 30% （発言しているか，コミュニケーションがとれているかなど） ・プレゼンテーション 20% （ストーリー性はあるか，話し方は適切か，図表が適切に配置されているか，図表は適切に引用されているかなど） ・レポート 20% （レポートの体裁となっているか，文脈は正しいかなど）	
受講要件（履修条件）		
備考（URL）		
学生へのメッセージ		





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140560001091	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(工学部)		
編集担当教員	郷田 秀一郎		
授業担当教員名(科目責任者)	郷田 秀一郎		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	郷田 秀一郎		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[工] 4		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	高校までの受動的学習から大学での能動的学習に順応し、自主的に知的活動に取り組み、指導教官やグループメンバーとのディスカッションを通じて工学・科学に関する論理的思考力と倫理観を身につけると共に、口頭発表やレポート作成を通じて技術者（研究者）としての基礎的素養を身につけることをねらいとする。		
授業到達目標	1) 自主的に課題探求ができる。 2) 論理的な思考ができる。 3) ディスカッションを通じてコミュニケーションができる。 4) わかりやすい口頭発表とレポート作成ができる。		
授業方法（学習指導法）	1) 30クラスで実施する。実質13～14名のクラス編成となる。 2) クラス分けは、コース混在型とする。 3) 講義内容は基本シラバスを参考にすが、担当教官の裁量で決める。ただし、第1回目のガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介、第2回目の図書館ガイダンス、および第14回目のプレゼンテーション大会は必ず行う。 4) 調査課題は、“工学”、“科学”に関係するものとする。 5) 調査課題を行うグループは、3名以上を基本とする。		
	回	内容	
	1	ガイダンス、シラバスと成績評価基準の説明、自己紹介	
	2	文献・資料の探し方、図書館ガイダンス	
	3	個人発表Ⅰ（発表5分＋質問1分）、発表指導	
	4	個人発表Ⅱ（発表5分＋質問1分）、発表指導	
	5	個人発表Ⅲ（発表5分＋質問1分）、発表指導、グループ分け（3～7名一組）	

授業内容	6	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション
	7	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション
	8	グループ研究テーマに関する調査，資料収集およびグループディスカッション
	9	プレゼンテーションに関する指導
	10	プレゼンテーションに関する指導
	11	プレゼンテーション資料の作成
	12	プレゼンテーションの練習
	13	プレゼンテーション大会予選（各クラスから1チームを選出）
	14	プレゼンテーション大会決勝（各クラスから選ばれた15チームによる決勝）
	15	レポート作成に関する指導
	16	
キーワード	能動的学習，理論的思考力，倫理観，プレゼンテーション能力	
教科書・教材・参考書	適宜配布	
成績評価の方法・基準等	・自主学習の取り組み 30%（課題探求のための計画の妥当性，予習など） ・ディスカッションへの積極的参加 30% （発言しているか，コミュニケーションがとれているかなど） ・プレゼンテーション 20% （ストーリー性はあるか，話し方は適切か，図表が適切に配置されているか，図表は適切に引用されているかなど） ・レポート 20% （レポートの体裁となっているか，文脈は正しいかなど）	
受講要件（履修条件）		
備考（URL）		
学生へのメッセージ		





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140560001092	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(水産学部)		
編集担当教員	平坂 勝也		
授業担当教員名(科目責任者)	平坂 勝也		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	平坂 勝也		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	大講義室		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	知的活動の動機付けを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てる。		
授業到達目標	高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすこと、また、本学部での学習の入り口として、学生と教員及び学生相互のコミュニケーションづくりの効果も期待する。		
授業方法（学習指導法）	1 クラス10名程度の水産学部生で構成し、1名の学部教員が前期を通じて担当する。尚、学習スキルを高めるための講義は大学教育イノベーションセンター教員、資料収集ガイダンスは附属図書館職員が主担当。		
	学生が自主的に学習をすすめることが出来るよう、討論、実習、実地調査など体験的双方向的学習形態をとるが、具体的な実施方法については、担当教員が決める。また、教養ゼミナールのテーマは、大学教育のオリエンテーション機能を持つこと、大学での学習の入り口として、学生と教員及び学生相互のコミュニケーションづくりを重視する。		
	回	内容	
	1	ガイダンス：モジュール科目による教養教育、アクティブラーニング、教員紹介	
	2	監事講演「世界で大きく活躍するグローバル人材になろう（仮）」（担当：福島監事）	
	3	担当教員との懇談・方針説明・レポート作成の基礎	
	4	レポートの作成と提出	
	5	情報リテラシー（1）：情報を冷静に扱う（担当：高橋正克教授（大学教育イノベーションセンター））	
	6	情報リテラシー（2）：客観的な分析、引用、盗作・盗用（担当：高橋正克教授（大学教育イノベーションセンター））	
	7	資料の収集ガイダンス（附属図書館）	

授業内容	8	アクティブラーニングで学ぶコツ（担当：山地弘起教授（大学教育イノベーションセンター））
	9	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	10	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	11	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	12	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	13	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	14	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	15	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	16	
キーワード	プレゼンテーション, 自己表現力, コミュニケーション, 情報・資料収集	
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ、必要があればその都度指示する。	
成績評価の方法・基準等	授業開始時に詳細は説明するが、教養ゼミナールに対する取り組み方やディスカッションへの積極的参加、プレゼンテーション、レポート等により評価する。	
受講要件（履修条件）		
備考（URL）		
学生へのメッセージ	進捗状況によって、授業内容、講義室等の変更もありうるので、必ず掲示板を確認すること。	





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140560001093	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(水産学部)		
編集担当教員	吉田 朝美		
授業担当教員名(科目責任者)	吉田 朝美		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	吉田 朝美		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養B棟]B-15		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	知的活動の動機付けを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てる。		
授業到達目標	高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすこと、また、本学部での学習の入り口として、学生と教員及び学生相互のコミュニケーションづくりの効果も期待する。		
授業方法（学習指導法）	1 クラス10名程度の水産学部生で構成し、1名の学部教員が前期を通じて担当する。尚、学習スキルを高めるための講義は大学教育イノベーションセンター教員、資料収集ガイダンスは附属図書館職員が主担当。		
	学生が自主的に学習をすすめることが出来るよう、討論、実習、実地調査など体験的双方向的学習形態をとるが、具体的な実施方法については、担当教員が決める。また、教養ゼミナールのテーマは、大学教育のオリエンテーション機能を持つこと、大学での学習の入り口として、学生と教員及び学生相互のコミュニケーションづくりを重視する。		
	回	内容	
	1	ガイダンス：モジュール科目による教養教育、アクティブラーニング、教員紹介	
	2	監事講演「世界で大きく活躍するグローバル人材になろう（仮）」（担当：福島監事）	
	3	担当教員との懇談・方針説明・レポート作成の基礎	
	4	レポートの作成と提出	
	5	情報リテラシー（１）：情報を冷静に扱う（担当：高橋正克教授（大学教育イノベーションセンター））	
	6	情報リテラシー（２）：客観的な分析、引用、盗作・盗用（担当：高橋正克教授（大学教育イノベーションセンター））	
	7	資料の収集ガイダンス（附属図書館）	

授業内容	8	アクティブラーニングで学ぶコツ（担当：山地弘起教授（大学教育イノベーションセンター））
	9	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	10	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	11	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	12	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	13	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	14	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	15	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	16	
キーワード	プレゼンテーション, 自己表現力, コミュニケーション, 情報・資料収集	
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ、必要があればその都度指示する。	
成績評価の方法・基準等	授業開始時に詳細は説明するが、教養ゼミナールに対する取り組み方やディスカッションへの積極的参加、プレゼンテーション、レポート等により評価する。	
受講要件（履修条件）		
備考（URL）		
学生へのメッセージ	進捗状況によって、授業内容、講義室等の変更もありうるので、必ず掲示板を確認すること。	





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140560001094	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(水産学部)		
編集担当教員	山田 明德		
授業担当教員名(科目責任者)	山田 明德		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	山田 明德		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[水] 1		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	知的活動の動機付けを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てる。		
授業到達目標	高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすこと、また、本学部での学習の入り口として、学生と教員及び学生相互のコミュニケーションづくりの効果も期待する。		
授業方法（学習指導法）	1 クラス10名程度の水産学部生で構成し、1名の学部教員が前期を通じて担当する。尚、学習スキルを高めるための講義は大学教育イノベーションセンター教員、資料収集ガイダンスは附属図書館職員が主担当。		
	学生が自主的に学習をすすめることが出来るよう、討論、実習、実地調査など体験的双方向的学習形態をとるが、具体的な実施方法については、担当教員が決める。また、教養ゼミナールのテーマは、大学教育のオリエンテーション機能を持つこと、大学での学習の入り口として、学生と教員及び学生相互のコミュニケーションづくりを重視する。		
	回	内容	
	1	ガイダンス：モジュール科目による教養教育、アクティブラーニング、教員紹介	
	2	監事講演「世界で大きく活躍するグローバル人材になろう（仮）」（担当：福島監事）	
	3	担当教員との懇談・方針説明・レポート作成の基礎	
	4	レポートの作成と提出	
	5	情報リテラシー（１）：情報を冷静に扱う（担当：高橋正克教授（大学教育イノベーションセンター））	
	6	情報リテラシー（２）：客観的な分析、引用、盗作・盗用（担当：高橋正克教授（大学教育イノベーションセンター））	
	7	資料の収集ガイダンス（附属図書館）	

授業内容	8	アクティブラーニングで学ぶコツ（担当：山地弘起教授（大学教育イノベーションセンター））
	9	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	10	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	11	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	12	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	13	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	14	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	15	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	16	
キーワード	プレゼンテーション, 自己表現力, コミュニケーション, 情報・資料収集	
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ、必要があればその都度指示する。	
成績評価の方法・基準等	授業開始時に詳細は説明するが、教養ゼミナールに対する取り組み方やディスカッションへの積極的参加、プレゼンテーション、レポート等により評価する。	
受講要件（履修条件）		
備考（URL）		
学生へのメッセージ	進捗状況によって、授業内容、講義室等の変更もありうるので、必ず掲示板を確認すること。	





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140560001095	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(水産学部)		
編集担当教員	北村 等		
授業担当教員名(科目責任者)	北村 等		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	北村 等		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[全] 学部間い合わせのこと		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	知的活動の動機付けを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てる。		
授業到達目標	高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすこと、また、本学部での学習の入り口として、学生と教員及び学生相互のコミュニケーションづくりの効果も期待する。		
授業方法（学習指導法）	1 クラス10名程度の水産学部生で構成し、1名の学部教員が前期を通じて担当する。尚、学習スキルを高めるための講義は大学教育イノベーションセンター教員、資料収集ガイダンスは附属図書館職員が主担当。		
	学生が自主的に学習をすすめることが出来るよう、討論、実習、実地調査など体験的双方向的学習形態をとるが、具体的な実施方法については、担当教員が決める。また、教養ゼミナールのテーマは、大学教育のオリエンテーション機能を持つこと、大学での学習の入り口として、学生と教員及び学生相互のコミュニケーションづくりを重視する。		
	回	内容	
	1	ガイダンス：モジュール科目による教養教育、アクティブラーニング、教員紹介	
	2	監事講演「世界で大きく活躍するグローバル人材になろう（仮）」（担当：福島監事）	
	3	担当教員との懇談・方針説明・レポート作成の基礎	
	4	レポートの作成と提出	
	5	情報リテラシー（１）：情報を冷静に扱う（担当：高橋正克教授（大学教育イノベーションセンター））	
	6	情報リテラシー（２）：客観的な分析、引用、盗作・盗用（担当：高橋正克教授（大学教育イノベーションセンター））	
	7	資料の収集ガイダンス（附属図書館）	

授業内容	8	アクティブラーニングで学ぶコツ（担当：山地弘起教授（大学教育イノベーションセンター））
	9	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	10	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	11	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	12	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	13	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	14	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	15	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	16	
キーワード	プレゼンテーション, 自己表現力, コミュニケーション, 情報・資料収集	
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ、必要があればその都度指示する。	
成績評価の方法・基準等	授業開始時に詳細は説明するが、教養ゼミナールに対する取り組み方やディスカッションへの積極的参加、プレゼンテーション、レポート等により評価する。	
受講要件（履修条件）		
備考（URL）		
学生へのメッセージ	進捗状況によって、授業内容、講義室等の変更もありうるので、必ず掲示板を確認すること。	





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140560001096	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(水産学部)		
編集担当教員	橘 勝康		
授業担当教員名(科目責任者)	橘 勝康		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	橘 勝康		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[全] 学部問い合わせのこと		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	知的活動の動機付けを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てる。		
授業到達目標	高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすこと、また、本学部での学習の入り口として、学生と教員及び学生相互のコミュニケーションづくりの効果も期待する。		
授業方法（学習指導法）	1 クラス10名程度の水産学部生で構成し、1名の学部教員が前期を通じて担当する。尚、学習スキルを高めるための講義は大学教育イノベーションセンター教員、資料収集ガイダンスは附属図書館職員が主担当。		
	学生が自主的に学習をすすめることが出来るよう、討論、実習、実地調査など体験的双方向的学習形態をとるが、具体的な実施方法については、担当教員が決める。また、教養ゼミナールのテーマは、大学教育のオリエンテーション機能を持つこと、大学での学習の入り口として、学生と教員及び学生相互のコミュニケーションづくりを重視する。		
	回	内容	
	1	ガイダンス：モジュール科目による教養教育、アクティブラーニング、教員紹介	
	2	監事講演「世界で大きく活躍するグローバル人材になろう（仮）」（担当：福島監事）	
	3	担当教員との懇談・方針説明・レポート作成の基礎	
	4	レポートの作成と提出	
	5	情報リテラシー（1）：情報を冷静に扱う（担当：高橋正克教授（大学教育イノベーションセンター））	
	6	情報リテラシー（2）：客観的な分析、引用、盗作・盗用（担当：高橋正克教授（大学教育イノベーションセンター））	
	7	資料の収集ガイダンス（附属図書館）	

授業内容	8	アクティブラーニングで学ぶコツ（担当：山地弘起教授（大学教育イノベーションセンター））
	9	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	10	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	11	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	12	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	13	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	14	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	15	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	16	
キーワード	プレゼンテーション, 自己表現力, コミュニケーション, 情報・資料収集	
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ、必要があればその都度指示する。	
成績評価の方法・基準等	授業開始時に詳細は説明するが、教養ゼミナールに対する取り組み方やディスカッションへの積極的参加、プレゼンテーション、レポート等により評価する。	
受講要件（履修条件）		
備考（URL）		
学生へのメッセージ	進捗状況によって、授業内容、講義室等の変更もありうるので、必ず掲示板を確認すること。	





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140560001097	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(水産学部)		
編集担当教員	山口 恭弘		
授業担当教員名(科目責任者)	山口 恭弘		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	山口 恭弘		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[水] 1		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	知的活動の動機付けを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てる。		
授業到達目標	高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすこと、また、本学部での学習の入り口として、学生と教員及び学生相互のコミュニケーションづくりの効果も期待する。		
授業方法（学習指導法）	1 クラス10名程度の水産学部生で構成し、1名の学部教員が前期を通じて担当する。尚、学習スキルを高めるための講義は大学教育イノベーションセンター教員、資料収集ガイダンスは附属図書館職員が主担当。		
	学生が自主的に学習をすすめることが出来るよう、討論、実習、実地調査など体験的双方向的学習形態をとるが、具体的な実施方法については、担当教員が決める。また、教養ゼミナールのテーマは、大学教育のオリエンテーション機能を持つこと、大学での学習の入り口として、学生と教員及び学生相互のコミュニケーションづくりを重視する。		
	回	内容	
	1	ガイダンス：モジュール科目による教養教育、アクティブラーニング、教員紹介	
	2	監事講演「世界で大きく活躍するグローバル人材になろう（仮）」（担当：福島監事）	
	3	担当教員との懇談・方針説明・レポート作成の基礎	
	4	レポートの作成と提出	
	5	情報リテラシー（１）：情報を冷静に扱う（担当：高橋正克教授（大学教育イノベーションセンター））	
	6	情報リテラシー（２）：客観的な分析、引用、盗作・盗用（担当：高橋正克教授（大学教育イノベーションセンター））	
	7	資料の収集ガイダンス（附属図書館）	

授業内容	8	アクティブラーニングで学ぶコツ（担当：山地弘起教授（大学教育イノベーションセンター））
	9	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	10	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	11	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	12	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	13	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	14	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	15	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	16	
キーワード	プレゼンテーション, 自己表現力, コミュニケーション, 情報・資料収集	
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ、必要があればその都度指示する。	
成績評価の方法・基準等	授業開始時に詳細は説明するが、教養ゼミナールに対する取り組み方やディスカッションへの積極的参加、プレゼンテーション、レポート等により評価する。	
受講要件（履修条件）		
備考（URL）		
学生へのメッセージ	進捗状況によって、授業内容、講義室等の変更もありうるので、必ず掲示板を確認すること。	





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140560001098	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(水産学部)		
編集担当教員	萩原 篤志		
授業担当教員名(科目責任者)	萩原 篤志		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	萩原 篤志		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[水] 2		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	知的活動の動機付けを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てる。		
授業到達目標	高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすこと、また、本学部での学習の入り口として、学生と教員及び学生相互のコミュニケーションづくりの効果も期待する。		
授業方法（学習指導法）	1 クラス10名程度の水産学部生で構成し、1名の学部教員が前期を通じて担当する。尚、学習スキルを高めるための講義は大学教育イノベーションセンター教員、資料収集ガイダンスは附属図書館職員が主担当。		
	学生が自主的に学習をすすめることが出来るよう、討論、実習、実地調査など体験的双方向的学習形態をとるが、具体的な実施方法については、担当教員が決める。また、教養ゼミナールのテーマは、大学教育のオリエンテーション機能を持つこと、大学での学習の入り口として、学生と教員及び学生相互のコミュニケーションづくりを重視する。		
	回	内容	
	1	ガイダンス：モジュール科目による教養教育、アクティブラーニング、教員紹介	
	2	監事講演「世界で大きく活躍するグローバル人材になろう（仮）」（担当：福島監事）	
	3	担当教員との懇談・方針説明・レポート作成の基礎	
	4	レポートの作成と提出	
	5	情報リテラシー（１）：情報を冷静に扱う（担当：高橋正克教授（大学教育イノベーションセンター））	
	6	情報リテラシー（２）：客観的な分析、引用、盗作・盗用（担当：高橋正克教授（大学教育イノベーションセンター））	
	7	資料の収集ガイダンス（附属図書館）	

授業内容	8	アクティブラーニングで学ぶコツ（担当：山地弘起教授（大学教育イノベーションセンター））
	9	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	10	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	11	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	12	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	13	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	14	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	15	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	16	
キーワード	プレゼンテーション, 自己表現力, コミュニケーション, 情報・資料収集	
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ、必要があればその都度指示する。	
成績評価の方法・基準等	授業開始時に詳細は説明するが、教養ゼミナールに対する取り組み方やディスカッションへの積極的参加、プレゼンテーション、レポート等により評価する。	
受講要件（履修条件）		
備考（URL）		
学生へのメッセージ	進捗状況によって、授業内容、講義室等の変更もありうるので、必ず掲示板を確認すること。	





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	20140560001099	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(水産学部)		
編集担当教員	鈴木 利一		
授業担当教員名(科目責任者)	鈴木 利一		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	鈴木 利一		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[水] 3		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	知的活動の動機付けを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てる。		
授業到達目標	高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすこと、また、本学部での学習の入り口として、学生と教員及び学生相互のコミュニケーションづくりの効果も期待する。		
授業方法（学習指導法）	1 クラス10名程度の水産学部生で構成し、1名の学部教員が前期を通じて担当する。尚、学習スキルを高めるための講義は大学教育イノベーションセンター教員、資料収集ガイダンスは附属図書館職員が主担当。		
	学生が自主的に学習をすすめることが出来るよう、討論、実習、実地調査など体験的双方向的学習形態をとるが、具体的な実施方法については、担当教員が決める。また、教養ゼミナールのテーマは、大学教育のオリエンテーション機能を持つこと、大学での学習の入り口として、学生と教員及び学生相互のコミュニケーションづくりを重視する。		
	回	内容	
	1	ガイダンス：モジュール科目による教養教育、アクティブラーニング、教員紹介	
	2	監事講演「世界で大きく活躍するグローバル人材になろう（仮）」（担当：福島監事）	
	3	担当教員との懇談・方針説明・レポート作成の基礎	
	4	レポートの作成と提出	
	5	情報リテラシー（１）：情報を冷静に扱う（担当：高橋正克教授（大学教育イノベーションセンター））	
	6	情報リテラシー（２）：客観的な分析、引用、盗作・盗用（担当：高橋正克教授（大学教育イノベーションセンター））	
	7	資料の収集ガイダンス（附属図書館）	

授業内容	8	アクティブラーニングで学ぶコツ（担当：山地弘起教授（大学教育イノベーションセンター））
	9	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	10	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	11	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	12	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	13	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	14	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	15	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	16	
キーワード	プレゼンテーション, 自己表現力, コミュニケーション, 情報・資料収集	
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ、必要があればその都度指示する。	
成績評価の方法・基準等	授業開始時に詳細は説明するが、教養ゼミナールに対する取り組み方やディスカッションへの積極的参加、プレゼンテーション、レポート等により評価する。	
受講要件（履修条件）		
備考（URL）		
学生へのメッセージ	進捗状況によって、授業内容、講義室等の変更もありうるので、必ず掲示板を確認すること。	





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201405600010A0	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(水産学部)		
編集担当教員	市川 寿		
授業担当教員名(科目責任者)	市川 寿		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	市川 寿		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[全] 学部問い合わせのこと		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	知的活動の動機付けを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てる。		
授業到達目標	高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすこと、また、本学部での学習の入り口として、学生と教員及び学生相互のコミュニケーションづくりの効果も期待する。		
授業方法（学習指導法）	1 クラス10名程度の水産学部生で構成し、1名の学部教員が前期を通じて担当する。尚、学習スキルを高めるための講義は大学教育イノベーションセンター教員、資料収集ガイダンスは附属図書館職員が主担当。		
	学生が自主的に学習をすすめることが出来るよう、討論、実習、実地調査など体験的双方向的学習形態をとるが、具体的な実施方法については、担当教員が決める。また、教養ゼミナールのテーマは、大学教育のオリエンテーション機能を持つこと、大学での学習の入り口として、学生と教員及び学生相互のコミュニケーションづくりを重視する。		
	回	内容	
	1	ガイダンス：モジュール科目による教養教育、アクティブラーニング、教員紹介	
	2	監事講演「世界で大きく活躍するグローバル人材になろう（仮）」（担当：福島監事）	
	3	担当教員との懇談・方針説明・レポート作成の基礎	
	4	レポートの作成と提出	
	5	情報リテラシー（１）：情報を冷静に扱う（担当：高橋正克教授（大学教育イノベーションセンター））	
	6	情報リテラシー（２）：客観的な分析、引用、盗作・盗用（担当：高橋正克教授（大学教育イノベーションセンター））	
	7	資料の収集ガイダンス（附属図書館）	

授業内容	8	アクティブラーニングで学ぶコツ（担当：山地弘起教授（大学教育イノベーションセンター））
	9	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	10	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	11	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	12	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	13	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	14	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	15	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	16	
キーワード	プレゼンテーション, 自己表現力, コミュニケーション, 情報・資料収集	
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ、必要があればその都度指示する。	
成績評価の方法・基準等	授業開始時に詳細は説明するが、教養ゼミナールに対する取り組み方やディスカッションへの積極的参加、プレゼンテーション、レポート等により評価する。	
受講要件（履修条件）		
備考（URL）		
学生へのメッセージ	進捗状況によって、授業内容、講義室等の変更もありうるので、必ず掲示板を確認すること。	





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201405600010A1	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(水産学部)		
編集担当教員	阪倉 良孝		
授業担当教員名(科目責任者)	阪倉 良孝		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	阪倉 良孝		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[水]ゼミ室		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	知的活動の動機付けを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てる。		
授業到達目標	高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすこと、また、本学部での学習の入り口として、学生と教員及び学生相互のコミュニケーションづくりの効果も期待する。		
授業方法（学習指導法）	1 クラス10名程度の水産学部生で構成し、1名の学部教員が前期を通じて担当する。尚、学習スキルを高めるための講義は大学教育イノベーションセンター教員、資料収集ガイダンスは附属図書館職員が主担当。		
	学生が自主的に学習をすすめることが出来るよう、討論、実習、実地調査など体験的双方向的学習形態をとるが、具体的な実施方法については、担当教員が決める。また、教養ゼミナールのテーマは、大学教育のオリエンテーション機能を持つこと、大学での学習の入り口として、学生と教員及び学生相互のコミュニケーションづくりを重視する。		
	回	内容	
	1	ガイダンス：モジュール科目による教養教育、アクティブラーニング、教員紹介	
	2	監事講演「世界で大きく活躍するグローバル人材になろう（仮）」（担当：福島監事）	
	3	担当教員との懇談・方針説明・レポート作成の基礎	
	4	レポートの作成と提出	
	5	情報リテラシー（１）：情報を冷静に扱う（担当：高橋正克教授（大学教育イノベーションセンター））	
	6	情報リテラシー（２）：客観的な分析、引用、盗作・盗用（担当：高橋正克教授（大学教育イノベーションセンター））	
	7	資料の収集ガイダンス（附属図書館）	

授業内容	8	アクティブラーニングで学ぶコツ（担当：山地弘起教授（大学教育イノベーションセンター））
	9	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	10	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	11	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	12	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	13	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	14	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	15	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	16	
キーワード	プレゼンテーション, 自己表現力, コミュニケーション, 情報・資料収集	
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ、必要があればその都度指示する。	
成績評価の方法・基準等	授業開始時に詳細は説明するが、教養ゼミナールに対する取り組み方やディスカッションへの積極的参加、プレゼンテーション、レポート等により評価する。	
受講要件（履修条件）		
備考（URL）		
学生へのメッセージ	進捗状況によって、授業内容、講義室等の変更もありうるので、必ず掲示板を確認すること。	





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201405600010A2	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(水産学部)		
編集担当教員	武田 重信		
授業担当教員名(科目責任者)	武田 重信		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	武田 重信		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[水]ゼミ室		
対象学生（クラス等）			
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	知的活動の動機付けを高め、科学的な思考方法と学習・実験のデザイン能力、レポートや口頭でのプレゼンテーション、ディスカッションを通じて適切な自己表現能力を育てる。		
授業到達目標	高校までの教師主導型学習から、大学における自主的学習へのオリエンテーション機能を果たすこと、また、本学部での学習の入り口として、学生と教員及び学生相互のコミュニケーションづくりの効果も期待する。		
授業方法（学習指導法）	1 クラス10名程度の水産学部生で構成し、1名の学部教員が前期を通じて担当する。尚、学習スキルを高めるための講義は大学教育イノベーションセンター教員、資料収集ガイダンスは附属図書館職員が主担当。		
	学生が自主的に学習をすすめることが出来るよう、討論、実習、実地調査など体験的双方向的学習形態をとるが、具体的な実施方法については、担当教員が決める。また、教養ゼミナールのテーマは、大学教育のオリエンテーション機能を持つこと、大学での学習の入り口として、学生と教員及び学生相互のコミュニケーションづくりを重視する。		
	回	内容	
	1	ガイダンス：モジュール科目による教養教育、アクティブラーニング、教員紹介	
	2	監事講演「世界で大きく活躍するグローバル人材になろう（仮）」（担当：福島監事）	
	3	担当教員との懇談・方針説明・レポート作成の基礎	
	4	レポートの作成と提出	
	5	情報リテラシー（１）：情報を冷静に扱う（担当：高橋正克教授（大学教育イノベーションセンター））	
	6	情報リテラシー（２）：客観的な分析、引用、盗作・盗用（担当：高橋正克教授（大学教育イノベーションセンター））	
	7	資料の収集ガイダンス（附属図書館）	

授業内容	8	アクティブラーニングで学ぶコツ（担当：山地弘起教授（大学教育イノベーションセンター））
	9	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	10	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	11	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	12	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	13	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	14	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	15	クラス別課題学習（資料収集及び調査、中間発表、追加調査、調査を纏めるための検討、プレゼンテーションの方法についての検討、発表の準備、最終発表会 反省と総括等を含む）
	16	
キーワード	プレゼンテーション, 自己表現力, コミュニケーション, 情報・資料収集	
教科書・教材・参考書	授業の進行に合わせ、必要があればその都度指示する。	
成績評価の方法・基準等	授業開始時に詳細は説明するが、教養ゼミナールに対する取り組み方やディスカッションへの積極的参加、プレゼンテーション、レポート等により評価する。	
受講要件（履修条件）		
備考（URL）		
学生へのメッセージ	進捗状況によって、授業内容、講義室等の変更もありうるので、必ず掲示板を確認すること。	





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201405600010A3	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(歯学部)		
編集担当教員	宮崎 敏博		
授業担当教員名(科目責任者)	宮崎 敏博		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	宮崎 敏博,森石 武史		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[全] 学部間い合わせのこと		
対象学生（クラス等）	医・保・歯・薬1年,単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	医学科・保健学科・歯学科・薬学科・薬科学科混成グループによる多職種連携学習を行う。あるテーマについて共同で学習する。同じ場で互いに学び、互いを学び、互いから学ぶとともに相互理解を深める。		
授業到達目標	1) 大学生として自主的な学習能力を習得し、知的活動への動機づけを高める。 2) 科学的な思考能力や立案能力を涵養する。 3) 学習テーマの課題遂行を通して、問題抽出・解決能力や情報収集、ディスカッション、プレゼンテーション、レポートなどの基本的学習技能を習得する。 4) 医療に携わる者として必要なコミュニケーション能力とともに良好な人間関係を築くために必要なマナーを習得する。 5) ものの見方や考え方の多様性を理解し、リーダーシップ、フォロワーシップを発揮できる。 6) 医療関係諸職種の役割、機能について理解する。		
授業方法（学習指導法）	ある課題に関し、医学・歯学・薬学の混成メンバーによるグループワークを行い、最終的にプレゼンテーション、レポート作成をおこなう。 フィールドワークも含め、文教あるいは坂本キャンパスを中心に授業を行う。		
授業内容	15回の授業を通じて、医療系の話題を中心に、グループワーク（立案・情報収集等）、グループディスカッション、プレゼンテーション、レポート作成、発表会等を行う。ほか、図書館利用ガイダンスも適宜行う。第1回目には自己紹介、教養セミナーの趣旨説明、教養セミナーの具体的な進め方・計画の説明を行う。また、第15回目には各曜日のすべての班合同で総括発表会を実施する。各曜日の授業日程は次のとおり。 ○月曜日 第1回 4月 7日 第2回 4月14日 第3回 4月21日 第4回 4月28日 第5回 5月12日 第6回 5月19日 第7回 5月26日 第8回 6月 2日 第9回 6月 9日 第10回 6月16日 第11回 6月23日 第12回 6月30日 第13回 7月 7日 第14回 7月14日 第15回		

	7月28日 ○火曜日 第1回 4月 8日 第2回 4月15日 第3回 4月22日 第4回 5月13日 第5回 5月20日 第6回 5月27日 第7回 6月 3日 第8回 6月10日 第9回 6月17日 第10回 6月24日 第11回 7月 1日 第12回 7月 8日 第13回 7月15日 第14回 7月22日 第15回 7月29日
キーワード	
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールへの取り組み方、授業への参加度、発表、提出された学習資料により総合的に評価する。
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	多職種連携学習により相互理解を深めながら、科学的思考・学習能力を高めましょう！





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201405600010A5	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(歯学部)		
編集担当教員	岡田 幸雄		
授業担当教員名(科目責任者)	岡田 幸雄		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	岡田 幸雄		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[全] 学部間い合わせのこと		
対象学生（クラス等）	医・保・歯・薬1年,単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	医学科・保健学科・歯学科・薬学科・薬科学科混成グループによる多職種連携学習を行う。あるテーマについて共同で学習する。同じ場で互いに学び、互いを学び、互いから学ぶとともに相互理解を深める。		
授業到達目標	1) 大学生として自主的な学習能力を習得し、知的活動への動機づけを高める。 2) 科学的な思考能力や立案能力を涵養する。 3) 学習テーマの課題遂行を通して、問題抽出・解決能力や情報収集、ディスカッション、プレゼンテーション、レポートなどの基本的学習技能を習得する。 4) 医療に携わる者として必要なコミュニケーション能力とともに良好な人間関係を築くために必要なマナーを習得する。 5) ものの見方や考え方の多様性を理解し、リーダーシップ、フォロワーシップを発揮できる。 6) 医療関係諸職種の役割、機能について理解する。		
授業方法（学習指導法）	ある課題に関し、医学・歯学・薬学の混成メンバーによるグループワークを行い、最終的にプレゼンテーション、レポート作成をおこなう。 フィールドワークも含め、文教あるいは坂本キャンパスを中心に授業を行う。		
授業内容	15回の授業を通じて、医療系の話題を中心に、グループワーク（立案・情報収集等）、グループディスカッション、プレゼンテーション、レポート作成、発表会等を行う。ほか、図書館利用ガイダンスも適宜行う。第1回目には自己紹介、教養セミナーの趣旨説明、教養セミナーの具体的な進め方・計画の説明を行う。また、第15回目には各曜日のすべての班合同で総括発表会を実施する。各曜日の授業日程は次のとおり。 ○月曜日 第1回 4月 7日 第2回 4月14日 第3回 4月21日 第4回 4月28日 第5回 5月12日 第6回 5月19日 第7回 5月26日 第8回 6月 2日 第9回 6月 9日 第10回 6月16日 第11回 6月23日 第12回 6月30日 第13回 7月 7日 第14回 7月14日 第15回		

	7月28日 ○火曜日 第1回 4月 8日 第2回 4月15日 第3回 4月22日 第4回 5月13日 第5回 5月20日 第6回 5月27日 第7回 6月 3日 第8回 6月10日 第9回 6月17日 第10回 6月24日 第11回 7月 1日 第12回 7月 8日 第13回 7月15日 第14回 7月22日 第15回 7月29日
キーワード	
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールへの取り組み方、授業への参加度、発表、提出された学習資料により総合的に評価する。
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	多職種連携学習により相互理解を深めながら、科学的思考・学習能力を高めましょう！





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201405600010A6	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(歯学部)		
編集担当教員	綿本 隆生		
授業担当教員名(科目責任者)	綿本 隆生		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	綿本 隆生		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[全] 学部間い合わせのこと		
対象学生（クラス等）	医・保・歯・薬1年,単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	医学科・保健学科・歯学科・薬学科・薬科学科混成グループによる多職種連携学習を行う。あるテーマについて共同で学習する。同じ場で互いに学び、互いを学び、互いから学ぶとともに相互理解を深める。		
授業到達目標	1) 大学生として自主的な学習能力を習得し、知的活動への動機づけを高める。 2) 科学的な思考能力や立案能力を涵養する。 3) 学習テーマの課題遂行を通して、問題抽出・解決能力や情報収集、ディスカッション、プレゼンテーション、レポートなどの基本的学習技能を習得する。 4) 医療に携わる者として必要なコミュニケーション能力とともに良好な人間関係を築くために必要なマナーを習得する。 5) ものの見方や考え方の多様性を理解し、リーダーシップ、フォロワーシップを発揮できる。 6) 医療関係諸職種の役割、機能について理解する。		
授業方法（学習指導法）	ある課題に関し、医学・歯学・薬学の混成メンバーによるグループワークを行い、最終的にプレゼンテーション、レポート作成をおこなう。 フィールドワークも含め、文教あるいは坂本キャンパスを中心に授業を行う。		
授業内容	15回の授業を通じて、医療系の話題を中心に、グループワーク（立案・情報収集等）、グループディスカッション、プレゼンテーション、レポート作成、発表会等を行う。ほか、図書館利用ガイダンスも適宜行う。第1回目には自己紹介、教養セミナーの趣旨説明、教養セミナーの具体的な進め方・計画の説明を行う。また、第15回目には各曜日のすべての班合同で総括発表会を実施する。各曜日の授業日程は次のとおり。 ○月曜日 第1回 4月 7日 第2回 4月14日 第3回 4月21日 第4回 4月28日 第5回 5月12日 第6回 5月19日 第7回 5月26日 第8回 6月 2日 第9回 6月 9日 第10回 6月16日 第11回 6月23日 第12回 6月30日 第13回 7月 7日 第14回 7月14日 第15回		

	7月28日 ○火曜日 第1回 4月 8日 第2回 4月15日 第3回 4月22日 第4回 5月13日 第5回 5月20日 第6回 5月27日 第7回 6月 3日 第8回 6月10日 第9回 6月17日 第10回 6月24日 第11回 7月 1日 第12回 7月 8日 第13回 7月15日 第14回 7月22日 第15回 7月29日
キーワード	
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールへの取り組み方、授業への参加度、発表、提出された学習資料により総合的に評価する。
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	多職種連携学習により相互理解を深めながら、科学的思考・学習能力を高めましょう！





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201405600010A7	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(歯学部)		
編集担当教員	田中 美保子		
授業担当教員名(科目責任者)	田中 美保子		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	田中 美保子, 吉田 和弘		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[全] 学部間い合わせのこと		
対象学生（クラス等）	医・保・歯・薬1年, 単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	医学科・保健学科・歯学科・薬学科・薬科学科混成グループによる多職種連携学習を行う。あるテーマについて共同で学習する。同じ場で互いに学び、互いを学び、互いから学ぶとともに相互理解を深める。		
授業到達目標	1) 大学生として自主的な学習能力を習得し、知的活動への動機づけを高める。 2) 科学的な思考能力や立案能力を涵養する。 3) 学習テーマの課題遂行を通して、問題抽出・解決能力や情報収集、ディスカッション、プレゼンテーション、レポートなどの基本的学習技能を習得する。 4) 医療に携わる者として必要なコミュニケーション能力とともに良好な人間関係を築くために必要なマナーを習得する。 5) ものの見方や考え方の多様性を理解し、リーダーシップ、フォロワーシップを発揮できる。 6) 医療関係諸職種の役割、機能について理解する。		
授業方法（学習指導法）	ある課題に関し、医学・歯学・薬学の混成メンバーによるグループワークを行い、最終的にプレゼンテーション、レポート作成をおこなう。 フィールドワークも含め、文教あるいは坂本キャンパスを中心に授業を行う。		
授業内容	15回の授業を通じて、医療系の話題を中心に、グループワーク（立案・情報収集等）、グループディスカッション、プレゼンテーション、レポート作成、発表会等を行う。ほか、図書館利用ガイダンスも適宜行う。第1回目には自己紹介、教養セミナーの趣旨説明、教養セミナーの具体的な進め方・計画の説明を行う。また、第15回目には各曜日のすべての班合同で総括発表会を実施する。各曜日の授業日程は次のとおり。 ○月曜日 第1回 4月 7日 第2回 4月14日 第3回 4月21日 第4回 4月28日 第5回 5月12日 第6回 5月19日 第7回 5月26日 第8回 6月 2日 第9回 6月 9日 第10回 6月16日 第11回 6月23日 第12回 6月30日 第13回 7月 7日 第14回 7月14日 第15回		

	7月28日 ○火曜日 第1回 4月 8日 第2回 4月15日 第3回 4月22日 第4回 5月13日 第5回 5月20日 第6回 5月27日 第7回 6月 3日 第8回 6月10日 第9回 6月17日 第10回 6月24日 第11回 7月 1日 第12回 7月 8日 第13回 7月15日 第14回 7月22日 第15回 7月29日
キーワード	
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールへの取り組み方、授業への参加度、発表、提出された学習資料により総合的に評価する。
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	多職種連携学習により相互理解を深めながら、科学的思考・学習能力を高めましょう！





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201405600010A9	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(歯学部)		
編集担当教員	井川 一成		
授業担当教員名(科目責任者)	井川 一成		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	井川 一成		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[全] 学部間い合わせのこと		
対象学生（クラス等）	医・保・歯・薬1年,単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	医学科・保健学科・歯学科・薬学科・薬科学科混成グループによる多職種連携学習を行う。あるテーマについて共同で学習する。同じ場で互いに学び、互いを学び、互いから学ぶとともに相互理解を深める。		
授業到達目標	1) 大学生として自主的な学習能力を習得し、知的活動への動機づけを高める。 2) 科学的な思考能力や立案能力を涵養する。 3) 学習テーマの課題遂行を通して、問題抽出・解決能力や情報収集、ディスカッション、プレゼンテーション、レポートなどの基本的学習技能を習得する。 4) 医療に携わる者として必要なコミュニケーション能力とともに良好な人間関係を築くために必要なマナーを習得する。 5) ものの見方や考え方の多様性を理解し、リーダーシップ、フォロワーシップを発揮できる。 6) 医療関係諸職種の役割、機能について理解する。		
授業方法（学習指導法）	ある課題に関し、医学・歯学・薬学の混成メンバーによるグループワークを行い、最終的にプレゼンテーション、レポート作成をおこなう。 フィールドワークも含め、文教あるいは坂本キャンパスを中心に授業を行う。		
授業内容	15回の授業を通じて、医療系の話題を中心に、グループワーク（立案・情報収集等）、グループディスカッション、プレゼンテーション、レポート作成、発表会等を行う。ほか、図書館利用ガイダンスも適宜行う。第1回目には自己紹介、教養セミナーの趣旨説明、教養セミナーの具体的な進め方・計画の説明を行う。また、第15回目には各曜日のすべての班合同で総括発表会を実施する。各曜日の授業日程は次のとおり。 ○月曜日 第1回 4月 7日 第2回 4月14日 第3回 4月21日 第4回 4月28日 第5回 5月12日 第6回 5月19日 第7回 5月26日 第8回 6月 2日 第9回 6月 9日 第10回 6月16日 第11回 6月23日 第12回 6月30日 第13回 7月 7日 第14回 7月14日 第15回		

	7月28日 ○火曜日 第1回 4月 8日 第2回 4月15日 第3回 4月22日 第4回 5月13日 第5回 5月20日 第6回 5月27日 第7回 6月 3日 第8回 6月10日 第9回 6月17日 第10回 6月24日 第11回 7月 1日 第12回 7月 8日 第13回 7月15日 第14回 7月22日 第15回 7月29日
キーワード	
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールへの取り組み方、授業への参加度、発表、提出された学習資料により総合的に評価する。
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	多職種連携学習により相互理解を深めながら、科学的思考・学習能力を高めましょう！





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201405600010B0	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(歯学部)		
編集担当教員	尾崎 幸生		
授業担当教員名(科目責任者)	尾崎 幸生		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	尾崎 幸生		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[全] 学部間い合わせのこと		
対象学生（クラス等）	医・保・歯・薬1年,単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	医学科・保健学科・歯学科・薬学科・薬科学科混成グループによる多職種連携学習を行う。あるテーマについて共同で学習する。同じ場で互いに学び、互いを学び、互いから学ぶとともに相互理解を深める。		
授業到達目標	1) 大学生として自主的な学習能力を習得し、知的活動への動機づけを高める。 2) 科学的な思考能力や立案能力を涵養する。 3) 学習テーマの課題遂行を通して、問題抽出・解決能力や情報収集、ディスカッション、プレゼンテーション、レポートなどの基本的学習技能を習得する。 4) 医療に携わる者として必要なコミュニケーション能力とともに良好な人間関係を築くために必要なマナーを習得する。 5) ものの見方や考え方の多様性を理解し、リーダーシップ、フォロワーシップを発揮できる。 6) 医療関係諸職種の役割、機能について理解する。		
授業方法（学習指導法）	ある課題に関し、医学・歯学・薬学の混成メンバーによるグループワークを行い、最終的にプレゼンテーション、レポート作成をおこなう。 フィールドワークも含め、文教あるいは坂本キャンパスを中心に授業を行う。		
授業内容	15回の授業を通じて、医療系の話題を中心に、グループワーク（立案・情報収集等）、グループディスカッション、プレゼンテーション、レポート作成、発表会等を行う。ほか、図書館利用ガイダンスも適宜行う。第1回目には自己紹介、教養セミナーの趣旨説明、教養セミナーの具体的な進め方・計画の説明を行う。また、第15回目には各曜日のすべての班合同で総括発表会を実施する。各曜日の授業日程は次のとおり。 ○月曜日 第1回 4月 7日 第2回 4月14日 第3回 4月21日 第4回 4月28日 第5回 5月12日 第6回 5月19日 第7回 5月26日 第8回 6月 2日 第9回 6月 9日 第10回 6月16日 第11回 6月23日 第12回 6月30日 第13回 7月 7日 第14回 7月14日 第15回		

	7月28日 ○火曜日 第1回 4月 8日 第2回 4月15日 第3回 4月22日 第4回 5月13日 第5回 5月20日 第6回 5月27日 第7回 6月 3日 第8回 6月10日 第9回 6月17日 第10回 6月24日 第11回 7月 1日 第12回 7月 8日 第13回 7月15日 第14回 7月22日 第15回 7月29日
キーワード	
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールへの取り組み方、授業への参加度、発表、提出された学習資料により総合的に評価する。
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	多職種連携学習により相互理解を深めながら、科学的思考・学習能力を高めましょう！





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201405600010B1	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(薬学部)		
編集担当教員	黒田 直敬		
授業担当教員名(科目責任者)	黒田 直敬		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	黒田 直敬		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	〔薬〕 5 階リフレッシュルーム		
対象学生（クラス等）	医・保・歯・薬1年,単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	医学科・保健学科・歯学科・薬学科・薬科学科混成グループによる多職種連携学習を行う。あるテーマについて共同で学習する。同じ場で互いに学び、互いを学び、互いから学ぶとともに相互理解を深める。		
授業到達目標	1) 大学生として自主的な学習能力を習得し、知的活動への動機づけを高める。 2) 科学的な思考能力や立案能力を涵養する。 3) 学習テーマの課題遂行を通して、問題抽出・解決能力や情報収集、ディスカッション、プレゼンテーション、レポートなどの基本的学習技能を習得する。 4) 医療に携わる者として必要なコミュニケーション能力とともに良好な人間関係を築くために必要なマナーを習得する。 5) ものの見方や考え方の多様性を理解し、リーダーシップ、フォロワーシップを発揮できる。 6) 医療関係諸職種の役割、機能について理解する。		
授業方法（学習指導法）	ある課題に関し、医学・歯学・薬学の混成メンバーによるグループワークを行い、最終的にプレゼンテーション、レポート作成をおこなう。 フィールドワークも含め、文教あるいは坂本キャンパスを中心に授業を行う。		
授業内容	15回の授業を通じて、医療系の話題を中心に グループワーク（立案・情報収集等） グループディスカッション プレゼンテーション レポート作成 発表会等を行う。 ほか、図書館利用ガイダンスも適宜行う。		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		

成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールへの取り組み方、授業への参加度、発表、提出された学習資料により総合的に評価する。
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	多職種連携学習により相互理解を深めながら、科学的思考・学習能力を高めましょう！





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201405600010B2	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(薬学部)		
編集担当教員	尾野村 治		
授業担当教員名(科目責任者)	尾野村 治		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	尾野村 治		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	〔薬〕3 階セミナー室		
対象学生（クラス等）	医・保・歯・薬1年,単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	医学科・保健学科・歯学科・薬学科・薬科学科混成グループによる多職種連携学習を行う。あるテーマについて共同で学習する。同じ場で互いに学び、互いを学び、互いから学ぶとともに相互理解を深める。		
授業到達目標	1) 大学生として自主的な学習能力を習得し、知的活動への動機づけを高める。 2) 科学的な思考能力や立案能力を涵養する。 3) 学習テーマの課題遂行を通して、問題抽出・解決能力や情報収集、ディスカッション、プレゼンテーション、レポートなどの基本的学習技能を習得する。 4) 医療に携わる者として必要なコミュニケーション能力とともに良好な人間関係を築くために必要なマナーを習得する。 5) ものの見方や考え方の多様性を理解し、リーダーシップ、フォロワーシップを発揮できる。 6) 医療関係諸職種の役割、機能について理解する。		
授業方法（学習指導法）	ある課題に関し、医学・歯学・薬学の混成メンバーによるグループワークを行い、最終的にプレゼンテーション、レポート作成をおこなう。 フィールドワークも含め、文教あるいは坂本キャンパスを中心に授業を行う。		
授業内容	15回の授業を通じて、医療系の話題を中心に グループワーク（立案・情報収集等） グループディスカッション プレゼンテーション レポート作成 発表会等を行う。 ほか、図書館利用ガイダンスも適宜行う。		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		

成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールへの取り組み方、授業への参加度、発表、提出された学習資料により総合的に評価する。
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	多職種連携学習により相互理解を深めながら、科学的思考・学習能力を高めましょう！





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201405600010B3	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(薬学部)		
編集担当教員	栗山 正巳		
授業担当教員名(科目責任者)	栗山 正巳		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	栗山 正巳		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	〔薬〕第2講義室		
対象学生（クラス等）	医・保・歯・薬1年,単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	医学科・保健学科・歯学科・薬学科・薬科学科混成グループによる多職種連携学習を行う。あるテーマについて共同で学習する。同じ場で互いに学び、互いを学び、互いから学ぶとともに相互理解を深める。		
授業到達目標	1) 大学生として自主的な学習能力を習得し、知的活動への動機づけを高める。 2) 科学的な思考能力や立案能力を涵養する。 3) 学習テーマの課題遂行を通して、問題抽出・解決能力や情報収集、ディスカッション、プレゼンテーション、レポートなどの基本的学習技能を習得する。 4) 医療に携わる者として必要なコミュニケーション能力とともに良好な人間関係を築くために必要なマナーを習得する。 5) ものの見方や考え方の多様性を理解し、リーダーシップ、フォロワーシップを発揮できる。 6) 医療関係諸職種の役割、機能について理解する。		
授業方法（学習指導法）	ある課題に関し、医学・歯学・薬学の混成メンバーによるグループワークを行い、最終的にプレゼンテーション、レポート作成をおこなう。 フィールドワークも含め、文教あるいは坂本キャンパスを中心に授業を行う。		
授業内容	15回の授業を通じて、医療系の話題を中心に グループワーク（立案・情報収集等） グループディスカッション プレゼンテーション レポート作成 発表会等を行う。 ほか、図書館利用ガイダンスも適宜行う。		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		

成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールへの取り組み方、授業への参加度、発表、提出された学習資料により総合的に評価する。
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	多職種連携学習により相互理解を深めながら、科学的思考・学習能力を高めましょう！





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201405600010B4	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(薬学部)		
編集担当教員	淵上 剛志		
授業担当教員名(科目責任者)	淵上 剛志		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	淵上 剛志		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	〔薬〕 5 階研修室		
対象学生（クラス等）	医・保・歯・薬1年,単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	医学科・保健学科・歯学科・薬学科・薬科学科混成グループによる多職種連携学習を行う。あるテーマについて共同で学習する。同じ場で互いに学び、互いを学び、互いから学ぶとともに相互理解を深める。		
授業到達目標	1) 大学生として自主的な学習能力を習得し、知的活動への動機づけを高める。 2) 科学的な思考能力や立案能力を涵養する。 3) 学習テーマの課題遂行を通して、問題抽出・解決能力や情報収集、ディスカッション、プレゼンテーション、レポートなどの基本的学習技能を習得する。 4) 医療に携わる者として必要なコミュニケーション能力とともに良好な人間関係を築くために必要なマナーを習得する。 5) ものの見方や考え方の多様性を理解し、リーダーシップ、フォロワーシップを発揮できる。 6) 医療関係諸職種の役割、機能について理解する。		
授業方法（学習指導法）	ある課題に関し、医学・歯学・薬学の混成メンバーによるグループワークを行い、最終的にプレゼンテーション、レポート作成をおこなう。 フィールドワークも含め、文教あるいは坂本キャンパスを中心に授業を行う。		
	(第一部) 1回 自己紹介、シラバスの説明、テーマ提示と課題分担 2回 図書館資料収集ガイダンス 3回 グループ内で調査報告と意見交換、調べ方の基礎 4回 グループ内で調査報告と意見交換、プレゼンテーションの基礎 5回 グループ・プレゼンテーション、全体討論、レポートライティングの基礎 (第二部) 6回 導入とシナリオ提示、意見交換、課題の明確化と分担、ペアでプランニング 7回 グループ内で調査報告と意見交換、ペアでプランニング 8回 グループ内で調査報告と意見交換、ペアでプランニング		

授業内容	9回 グループ内で調査報告と意見交換、プレゼンテーションの基礎 10回 ペアでプレゼンテーション、全体討論 (第三部) 11回 導入とシナリオ提示、意見交換、課題の明確化と分担、ペアでプランニング 12回 グループ内で調査報告と意見交換、ペアでプランニング 13回 グループ内で調査報告と意見交換、ペアでプランニング、ディベート・ディスカッションの基礎 14回 ディベート・ディスカッション 15回 合同発表会
キーワード	
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。
成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールへの取り組み方、授業への参加度、発表、提出された学習資料により総合的に評価する。
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	多職種連携学習により相互理解を深めながら、科学的思考・学習能力を高めましょう！





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201405600010B5	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(薬学部)		
編集担当教員	畑山 範		
授業担当教員名(科目責任者)	畑山 範		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	畑山 範		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	薬学部 3階 第1セミナー室		
対象学生（クラス等）	医・保・歯・薬1年,単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	医学科・保健学科・歯学科・薬学科・薬科学科混成グループによる多職種連携学習を行う。あるテーマについて共同で学習する。同じ場で互いに学び、互いを学び、互いから学ぶとともに相互理解を深める。		
授業到達目標	1) 大学生として自主的な学習能力を習得し、知的活動への動機づけを高める。 2) 科学的な思考能力や立案能力を涵養する。 3) 学習テーマの課題遂行を通して、問題抽出・解決能力や情報収集、ディスカッション、プレゼンテーション、レポートなどの基本的学習技能を習得する。 4) 医療に携わる者として必要なコミュニケーション能力とともに良好な人間関係を築くために必要なマナーを習得する。 5) ものの見方や考え方の多様性を理解し、リーダーシップ、フォロワーシップを発揮できる。 6) 医療関係諸職種の役割、機能について理解する。		
授業方法（学習指導法）	ある課題に関し、医学・歯学・薬学の混成メンバーによるグループワークを行い、最終的にプレゼンテーション、レポート作成をおこなう。 フィールドワークも含め、文教あるいは坂本キャンパスを中心に授業を行う。		
授業内容	15回の授業を通じて、医療系の話題を中心に グループワーク（立案・情報収集等） グループディスカッション プレゼンテーション レポート作成 発表会等を行う。 ほか、図書館利用ガイダンスも適宜行う。		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		

成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールへの取り組み方、授業への参加度、発表、提出された学習資料により総合的に評価する。
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	多職種連携学習により相互理解を深めながら、科学的思考・学習能力を高めましょう！





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201405600010B6	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(薬学部)		
編集担当教員	植田 弘師		
授業担当教員名(科目責任者)	植田 弘師		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	植田 弘師		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	〔薬〕 4階セミナー室		
対象学生（クラス等）	医・保・歯・薬1年,単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	医学科・保健学科・歯学科・薬学科・薬科学科混成グループによる多職種連携学習を行う。あるテーマについて共同で学習する。同じ場で互いに学び、互いを学び、互いから学ぶとともに相互理解を深める。		
授業到達目標	1) 大学生として自主的な学習能力を習得し、知的活動への動機づけを高める。 2) 科学的な思考能力や立案能力を涵養する。 3) 学習テーマの課題遂行を通して、問題抽出・解決能力や情報収集、ディスカッション、プレゼンテーション、レポートなどの基本的学習技能を習得する。 4) 医療に携わる者として必要なコミュニケーション能力とともに良好な人間関係を築くために必要なマナーを習得する。 5) ものの見方や考え方の多様性を理解し、リーダーシップ、フォロワーシップを発揮できる。 6) 医療関係諸職種の役割、機能について理解する。		
授業方法（学習指導法）	ある課題に関し、医学・歯学・薬学の混成メンバーによるグループワークを行い、最終的にプレゼンテーション、レポート作成をおこなう。 フィールドワークも含め、文教あるいは坂本キャンパスを中心に授業を行う。		
授業内容	15回の授業を通じて、医療系の話題を中心に グループワーク（立案・情報収集等） グループディスカッション プレゼンテーション レポート作成 発表会等を行う。 ほか、図書館利用ガイダンスも適宜行う。		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		

成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールへの取り組み方、授業への参加度、発表、提出された学習資料により総合的に評価する。
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	多職種連携学習により相互理解を深めながら、科学的思考・学習能力を高めましょう！





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201405600010B7	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(薬学部)		
編集担当教員	川上 茂		
授業担当教員名(科目責任者)	川上 茂		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	川上 茂		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	〔薬〕 5 階研修室		
対象学生（クラス等）	医・保・歯・薬1年,単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス	skawakam@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	医薬品情報学		
担当教員TEL	内 2450		
担当教員オフィスアワー	月～金 17：00～18：00		
授業の概要及び位置づけ	医学科・保健学科・歯学科・薬学科・薬科学科混成グループによる多職種連携学習を行う。あるテーマについて共同で学習する。同じ場で互いに学び、互いを学び、互いから学ぶとともに相互理解を深める。		
授業到達目標	1) 大学生として自主的な学習能力を習得し、知的活動への動機づけを高める。 2) 科学的な思考能力や立案能力を涵養する。 3) 学習テーマの課題遂行を通して、問題抽出・解決能力や情報収集、ディスカッション、プレゼンテーション、レポートなどの基本的学習技能を習得する。 4) 医療に携わる者として必要なコミュニケーション能力とともに良好な人間関係を築くために必要なマナーを習得する。 5) ものの見方や考え方の多様性を理解し、リーダーシップ、フォロワーシップを発揮できる。 6) 医療関係諸職種の役割、機能について理解する。		
授業方法（学習指導法）	ある課題に関し、医学・歯学・薬学の混成メンバーによるグループワークを行い、最終的にプレゼンテーション、レポート作成をおこなう。 フィールドワークも含め、文教あるいは坂本キャンパスを中心に授業を行う。		
	「長崎と医学・薬学の関わり」、「医薬品の開発・適正使用」、「薬害と対策」についてPBL方式で自ら学ぶ。 (長崎と医学・薬学の関わり) 1回 自己紹介、シラバスの説明、テーマ提示と課題分担 2回 図書館資料収集ガイダンス 3回 グループ内で調査報告と意見交換、調べ方の基礎 4回 グループ内で調査報告と意見交換、プレゼンテーションの基礎 5回 グループ・プレゼンテーション、全体討論、レポートライティングの基礎 (医薬品の開発、又は、医薬品の適正使用)		

授業内容	6回 導入とシナリオ提示、意見交換、課題の明確化と分担、検索ヒントと留意点 7回 グループ内で調査報告と意見交換（SGD） 8回 グループ内で調査報告と意見交換、プレゼンテーションファイル作成 9回 グループ・プレゼンテーション、全体討論 （薬害と対策） 10回 導入とシナリオ提示、意見交換、課題の明確化と分担、検索ヒントと留意点 11回 グループ内で調査報告と意見交換、課題選定 12回 グループ内で調査報告と意見交換（SGD） 13回 グループ内で調査報告と意見交換、プレゼンテーションファイル作成 14回 グループ・プレゼンテーション、全体討論 15回 合同報告会
キーワード	医療、長崎、医薬品開発、医薬品適正使用、薬害
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。
成績評価の方法・基準等	授業への積極的な取り組み、グループへの貢献度、発表、提出された学習資料により総合的に評価する。
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	多職種連携学習により相互理解を深めながら、科学的思考・学習能力を高めましょう！





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201405600010B8	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(薬学部)		
編集担当教員	高橋 正克		
授業担当教員名(科目責任者)	高橋 正克		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	高橋 正克		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	〔薬〕第1講義室		
対象学生（クラス等）	医・保・歯・薬1年,単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	医学科・保健学科・歯学科・薬学科・薬科学科混成グループによる多職種連携学習を行う。あるテーマについて共同で学習する。同じ場で互いに学び、互いを学び、互いから学ぶとともに相互理解を深める。		
授業到達目標	1) 大学生として自主的な学習能力を習得し、知的活動への動機づけを高める。 2) 科学的な思考能力や立案能力を涵養する。 3) 学習テーマの課題遂行を通して、問題抽出・解決能力や情報収集、ディスカッション、プレゼンテーション、レポートなどの基本的学習技能を習得する。 4) 医療に携わる者として必要なコミュニケーション能力とともに良好な人間関係を築くために必要なマナーを習得する。 5) ものの見方や考え方の多様性を理解し、リーダーシップ、フォロワーシップを発揮できる。 6) 医療関係諸職種の役割、機能について理解する。		
授業方法（学習指導法）	ある課題に関し、医学・歯学・薬学の混成メンバーによるグループワークを行い、最終的にプレゼンテーション、レポート作成をおこなう。 フィールドワークも含め、文教あるいは坂本キャンパスを中心に授業を行う。		
授業内容	15回の授業を通じて、医療系の話題を中心に グループワーク（立案・情報収集等） グループディスカッション プレゼンテーション レポート作成 発表会等を行う。 ほか、図書館利用ガイダンスも適宜行う。		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		

成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールへの取り組み方、授業への参加度、発表、提出された学習資料により総合的に評価する。
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	多職種連携学習により相互理解を深めながら、科学的思考・学習能力を高めましょう！





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201405600010C9	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(医学部保健学科)		
編集担当教員	浦田 秀子		
授業担当教員名(科目責任者)	浦田 秀子		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	浦田 秀子		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[保]103f1-		
対象学生（クラス等）	医・保・歯・薬1年,単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	医学科・保健学科・歯学科・薬学科・薬科学科混成グループによる多職種連携学習を行う。あるテーマについて共同で学習する。同じ場で互いに学び、互いを学び、互いから学ぶとともに相互理解を深める。		
授業到達目標	1) 大学生として自主的な学習能力を習得し、知的活動への動機づけを高める。 2) 科学的な思考能力や立案能力を涵養する。 3) 学習テーマの課題遂行を通して、問題抽出・解決能力や情報収集、ディスカッション、プレゼンテーション、レポートなどの基本的学習技能を習得する。 4) 医療に携わる者として必要なコミュニケーション能力とともに良好な人間関係を築くために必要なマナーを習得する。 5) ものの見方や考え方の多様性を理解し、リーダーシップ、フォロワーシップを発揮できる。 6) 医療関係諸職種の役割、機能について理解する。		
授業方法（学習指導法）	ある課題に関し、医学・歯学・薬学の混成メンバーによるグループワークを行い、最終的にプレゼンテーション、レポート作成をおこなう。 フィールドワークも含め、文教あるいは坂本キャンパスを中心に授業を行う。		
授業内容	15回の授業を通じて、医療系の話題を中心に グループワーク（立案・情報収集等） グループディスカッション プレゼンテーション レポート作成 発表会（7/7または7/15予定）等を行う。 ほか、図書館利用ガイダンスも適宜行う。		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		

成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールへの取り組み方、授業への参加度、発表、提出された学習資料によりグループおよび個人を総合的に評価する。 グループレポート：発表原稿 個人レポート：グループで学習したテーマについてA4レポート用紙1200字以上でまとめる
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	多職種連携学習により相互理解を深めながら、科学的思考・学習能力を高めましょう！





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201405600010D0	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(医学部保健学科)		
編集担当教員	大西 真由美		
授業担当教員名(科目責任者)	大西 真由美		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	大西 真由美		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[保]201f1-		
対象学生（クラス等）	医・保・歯・薬1年,単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	医学科・保健学科・歯学科・薬学科・薬科学科混成グループによる多職種連携学習を行う。あるテーマについて共同で学習する。同じ場で互いに学び、互いを学び、互いから学ぶとともに相互理解を深める。		
授業到達目標	1) 大学生として自主的な学習能力を習得し、知的活動への動機づけを高める。 2) 科学的な思考能力や立案能力を涵養する。 3) 学習テーマの課題遂行を通して、問題抽出・解決能力や情報収集、ディスカッション、プレゼンテーション、レポートなどの基本的学習技能を習得する。 4) 医療に携わる者として必要なコミュニケーション能力とともに良好な人間関係を築くために必要なマナーを習得する。 5) ものの見方や考え方の多様性を理解し、リーダーシップ、フォロワーシップを発揮できる。 6) 医療関係諸職種の役割、機能について理解する。		
授業方法（学習指導法）	ある課題に関し、医学・歯学・薬学の混成メンバーによるグループワークを行い、最終的にプレゼンテーション、レポート作成をおこなう。 フィールドワークも含め、文教あるいは坂本キャンパスを中心に授業を行う。		
授業内容	15回の授業を通じて、医療系の話題を中心に グループワーク（立案・情報収集等） グループディスカッション プレゼンテーション レポート作成 発表会（7/7または7/15予定）等を行う。 ほか、図書館利用ガイダンスも適宜行う。		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		

成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールへの取り組み方、授業への参加度、発表、提出された学習資料によりグループおよび個人を総合的に評価する。 グループレポート：発表原稿 個人レポート：グループで学習したテーマについてA4レポート用紙1200字以上でまとめる
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	多職種連携学習により相互理解を深めながら、科学的思考・学習能力を高めましょう！





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201405600010D1	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(医学部保健学科)		
編集担当教員	本田 純久		
授業担当教員名(科目責任者)	本田 純久		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	本田 純久		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[保]202フー		
対象学生（クラス等）	医・保・歯・薬1年,単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	医学科・保健学科・歯学科・薬学科・薬科学科混成グループによる多職種連携学習を行う。あるテーマについて共同で学習する。同じ場で互いに学び、互いを学び、互いから学ぶとともに相互理解を深める。		
授業到達目標	1) 大学生として自主的な学習能力を習得し、知的活動への動機づけを高める。 2) 科学的な思考能力や立案能力を涵養する。 3) 学習テーマの課題遂行を通して、問題抽出・解決能力や情報収集、ディスカッション、プレゼンテーション、レポートなどの基本的学習技能を習得する。 4) 医療に携わる者として必要なコミュニケーション能力とともに良好な人間関係を築くために必要なマナーを習得する。 5) ものの見方や考え方の多様性を理解し、リーダーシップ、フォロワーシップを発揮できる。 6) 医療関係諸職種の役割、機能について理解する。		
授業方法（学習指導法）	ある課題に関し、医学・歯学・薬学の混成メンバーによるグループワークを行い、最終的にプレゼンテーション、レポート作成をおこなう。 フィールドワークも含め、文教あるいは坂本キャンパスを中心に授業を行う。		
授業内容	15回の授業を通じて、医療系の話題を中心に グループワーク（立案・情報収集等） グループディスカッション プレゼンテーション レポート作成 発表会（7/7または7/15予定）等を行う。 ほか、図書館利用ガイダンスも適宜行う。		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		

成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールへの取り組み方、授業への参加度、発表、提出された学習資料によりグループおよび個人を総合的に評価する。 グループレポート：発表原稿 個人レポート：グループで学習したテーマについてA4レポート用紙1200字以上でまとめる
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	多職種連携学習により相互理解を深めながら、科学的思考・学習能力を高めましょう！





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201405600010D2	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(医学部保健学科)		
編集担当教員	新川 哲子		
授業担当教員名(科目責任者)	新川 哲子		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	新川 哲子		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[保]10411-1		
対象学生（クラス等）	医・保・歯・薬1年,単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	医学科・保健学科・歯学科・薬学科・薬科学科混成グループによる多職種連携学習を行う。あるテーマについて共同で学習する。同じ場で互いに学び、互いを学び、互いから学ぶとともに相互理解を深める。		
授業到達目標	1) 大学生として自主的な学習能力を習得し、知的活動への動機づけを高める。 2) 科学的な思考能力や立案能力を涵養する。 3) 学習テーマの課題遂行を通して、問題抽出・解決能力や情報収集、ディスカッション、プレゼンテーション、レポートなどの基本的学習技能を習得する。 4) 医療に携わる者として必要なコミュニケーション能力とともに良好な人間関係を築くために必要なマナーを習得する。 5) ものの見方や考え方の多様性を理解し、リーダーシップ、フォロワーシップを発揮できる。 6) 医療関係諸職種の役割、機能について理解する。		
授業方法（学習指導法）	ある課題に関し、医学・歯学・薬学の混成メンバーによるグループワークを行い、最終的にプレゼンテーション、レポート作成をおこなう。 フィールドワークも含め、文教あるいは坂本キャンパスを中心に授業を行う。		
授業内容	15回の授業を通じて、医療系の話題を中心に グループワーク（立案・情報収集等） グループディスカッション プレゼンテーション レポート作成 発表会（7/7または7/15予定）等を行う。 ほか、図書館利用ガイダンスも適宜行う。		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		

成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールへの取り組み方、授業への参加度、発表、提出された学習資料によりグループおよび個人を総合的に評価する。 グループレポート：発表原稿 個人レポート：グループで学習したテーマについてA4レポート用紙1200字以上でまとめる
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	多職種連携学習により相互理解を深めながら、科学的思考・学習能力を高めましょう！





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201405600010D3	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(医学部保健学科)		
編集担当教員	橋爪 可織		
授業担当教員名(科目責任者)	橋爪 可織		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	橋爪 可織		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[保]105f1-		
対象学生（クラス等）	医・保・歯・薬1年,単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	医学科・保健学科・歯学科・薬学科・薬科学科混成グループによる多職種連携学習を行う。あるテーマについて共同で学習する。同じ場で互いに学び、互いを学び、互いから学ぶとともに相互理解を深める。		
授業到達目標	1) 大学生として自主的な学習能力を習得し、知的活動への動機づけを高める。 2) 科学的な思考能力や立案能力を涵養する。 3) 学習テーマの課題遂行を通して、問題抽出・解決能力や情報収集、ディスカッション、プレゼンテーション、レポートなどの基本的学習技能を習得する。 4) 医療に携わる者として必要なコミュニケーション能力とともに良好な人間関係を築くために必要なマナーを習得する。 5) ものの見方や考え方の多様性を理解し、リーダーシップ、フォロワーシップを発揮できる。 6) 医療関係諸職種の役割、機能について理解する。		
授業方法（学習指導法）	ある課題に関し、医学・歯学・薬学の混成メンバーによるグループワークを行い、最終的にプレゼンテーション、レポート作成をおこなう。 フィールドワークも含め、文教あるいは坂本キャンパスを中心に授業を行う。		
授業内容	15回の授業を通じて、医療系の話題を中心に グループワーク（立案・情報収集等） グループディスカッション プレゼンテーション レポート作成 発表会（7/7または7/15予定）等を行う。 ほか、図書館利用ガイダンスも適宜行う。		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		

成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールへの取り組み方、授業への参加度、発表、提出された学習資料によりグループおよび個人を総合的に評価する。 グループレポート：発表原稿 個人レポート：グループで学習したテーマについてA4レポート用紙1200字以上でまとめる
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	多職種連携学習により相互理解を深めながら、科学的思考・学習能力を高めましょう！





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201405600010D4	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(医学部保健学科)		
編集担当教員	山本 直子		
授業担当教員名(科目責任者)	山本 直子		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	山本 直子		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[保]106f1-		
対象学生（クラス等）	医・保・歯・薬1年,単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	医学科・保健学科・歯学科・薬学科・薬科学科混成グループによる多職種連携学習を行う。あるテーマについて共同で学習する。同じ場で互いに学び、互いを学び、互いから学ぶとともに相互理解を深める。		
授業到達目標	1) 大学生として自主的な学習能力を習得し、知的活動への動機づけを高める。 2) 科学的な思考能力や立案能力を涵養する。 3) 学習テーマの課題遂行を通して、問題抽出・解決能力や情報収集、ディスカッション、プレゼンテーション、レポートなどの基本的学習技能を習得する。 4) 医療に携わる者として必要なコミュニケーション能力とともに良好な人間関係を築くために必要なマナーを習得する。 5) ものの見方や考え方の多様性を理解し、リーダーシップ、フォロワーシップを発揮できる。 6) 医療関係諸職種の役割、機能について理解する。		
授業方法（学習指導法）	ある課題に関し、医学・歯学・薬学の混成メンバーによるグループワークを行い、最終的にプレゼンテーション、レポート作成をおこなう。 フィールドワークも含め、文教あるいは坂本キャンパスを中心に授業を行う。		
授業内容	15回の授業を通じて、医療系の話題を中心に グループワーク（立案・情報収集等） グループディスカッション プレゼンテーション レポート作成 発表会（7/7または7/15予定）等を行う。 ほか、図書館利用ガイダンスも適宜行う。		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		

成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールへの取り組み方、授業への参加度、発表、提出された学習資料によりグループおよび個人を総合的に評価する。 グループレポート：発表原稿 個人レポート：グループで学習したテーマについてA4レポート用紙1200字以上でまとめる
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	多職種連携学習により相互理解を深めながら、科学的思考・学習能力を高めましょう！





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201405600010D5	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(医学部保健学科)		
編集担当教員	井口 茂		
授業担当教員名(科目責任者)	井口 茂		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	井口 茂		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[保]203f1-		
対象学生（クラス等）	医・保・歯・薬1年,単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	医学科・保健学科・歯学科・薬学科・薬科学科混成グループによる多職種連携学習を行う。あるテーマについて共同で学習する。同じ場で互いに学び、互いを学び、互いから学ぶとともに相互理解を深める。		
授業到達目標	1) 大学生として自主的な学習能力を習得し、知的活動への動機づけを高める。 2) 科学的な思考能力や立案能力を涵養する。 3) 学習テーマの課題遂行を通して、問題抽出・解決能力や情報収集、ディスカッション、プレゼンテーション、レポートなどの基本的学習技能を習得する。 4) 医療に携わる者として必要なコミュニケーション能力とともに良好な人間関係を築くために必要なマナーを習得する。 5) ものの見方や考え方の多様性を理解し、リーダーシップ、フォロワーシップを発揮できる。 6) 医療関係諸職種の役割、機能について理解する。		
授業方法（学習指導法）	ある課題に関し、医学・歯学・薬学の混成メンバーによるグループワークを行い、最終的にプレゼンテーション、レポート作成をおこなう。 フィールドワークも含め、文教あるいは坂本キャンパスを中心に授業を行う。		
授業内容	15回の授業を通じて、医療系の話題を中心に グループワーク（立案・情報収集等） グループディスカッション プレゼンテーション レポート作成 発表会（7/7または7/15予定）等を行う。 ほか、図書館利用ガイダンスも適宜行う。		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		

成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールへの取り組み方、授業への参加度、発表、提出された学習資料によりグループおよび個人を総合的に評価する。 グループレポート：発表原稿 個人レポート：グループで学習したテーマについてA4レポート用紙1200字以上でまとめる
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	多職種連携学習により相互理解を深めながら、科学的思考・学習能力を高めましょう！





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201405600010D6	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(医学部保健学科)		
編集担当教員	中野 治郎		
授業担当教員名(科目責任者)	中野 治郎		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	中野 治郎		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[保]107f1-		
対象学生（クラス等）	医・保・歯・薬1年,単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	医学科・保健学科・歯学科・薬学科・薬科学科混成グループによる多職種連携学習を行う。あるテーマについて共同で学習する。同じ場で互いに学び、互いを学び、互いから学ぶとともに相互理解を深める。		
授業到達目標	1) 大学生として自主的な学習能力を習得し、知的活動への動機づけを高める。 2) 科学的な思考能力や立案能力を涵養する。 3) 学習テーマの課題遂行を通して、問題抽出・解決能力や情報収集、ディスカッション、プレゼンテーション、レポートなどの基本的学習技能を習得する。 4) 医療に携わる者として必要なコミュニケーション能力とともに良好な人間関係を築くために必要なマナーを習得する。 5) ものの見方や考え方の多様性を理解し、リーダーシップ、フォロワーシップを発揮できる。 6) 医療関係諸職種の役割、機能について理解する。		
授業方法（学習指導法）	ある課題に関し、医学・歯学・薬学の混成メンバーによるグループワークを行い、最終的にプレゼンテーション、レポート作成をおこなう。 フィールドワークも含め、文教あるいは坂本キャンパスを中心に授業を行う。		
授業内容	15回の授業を通じて、医療系の話題を中心に グループワーク（立案・情報収集等） グループディスカッション プレゼンテーション レポート作成 発表会（7/7または7/15予定）等を行う。 ほか、図書館利用ガイダンスも適宜行う。		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		

成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールへの取り組み方、授業への参加度、発表、提出された学習資料によりグループおよび個人を総合的に評価する。 グループレポート：発表原稿 個人レポート：グループで学習したテーマについてA4レポート用紙1200字以上でまとめる
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	多職種連携学習により相互理解を深めながら、科学的思考・学習能力を高めましょう！





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201405600010D7	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(医学部保健学科)		
編集担当教員	東 登志夫		
授業担当教員名(科目責任者)	東 登志夫		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	東 登志夫		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[保]201f1-		
対象学生（クラス等）	医・保・歯・薬1年,単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	医学科・保健学科・歯学科・薬学科・薬科学科混成グループによる多職種連携学習を行う。あるテーマについて共同で学習する。同じ場で互いに学び、互いを学び、互いから学ぶとともに相互理解を深める。		
授業到達目標	1) 大学生として自主的な学習能力を習得し、知的活動への動機づけを高める。 2) 科学的な思考能力や立案能力を涵養する。 3) 学習テーマの課題遂行を通して、問題抽出・解決能力や情報収集、ディスカッション、プレゼンテーション、レポートなどの基本的学習技能を習得する。 4) 医療に携わる者として必要なコミュニケーション能力とともに良好な人間関係を築くために必要なマナーを習得する。 5) ものの見方や考え方の多様性を理解し、リーダーシップ、フォロワーシップを発揮できる。 6) 医療関係諸職種の役割、機能について理解する。		
授業方法（学習指導法）	ある課題に関し、医学・歯学・薬学の混成メンバーによるグループワークを行い、最終的にプレゼンテーション、レポート作成をおこなう。 フィールドワークも含め、文教あるいは坂本キャンパスを中心に授業を行う。		
授業内容	15回の授業を通じて、医療系の話題を中心に グループワーク（立案・情報収集等） グループディスカッション プレゼンテーション レポート作成 発表会（7/7または7/15予定）等を行う。 ほか、図書館利用ガイダンスも適宜行う。		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		

成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールへの取り組み方、授業への参加度、発表、提出された学習資料によりグループおよび個人を総合的に評価する。 グループレポート：発表原稿 個人レポート：グループで学習したテーマについてA4レポート用紙1200字以上でまとめる
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	多職種連携学習により相互理解を深めながら、科学的思考・学習能力を高めましょう！





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201405600010D8	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(医学部保健学科)		
編集担当教員	村田 潤		
授業担当教員名(科目責任者)	村田 潤		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	村田 潤		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[保]202フー		
対象学生（クラス等）	医・保・歯・薬1年,単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	医学科・保健学科・歯学科・薬学科・薬科学科混成グループによる多職種連携学習を行う。あるテーマについて共同で学習する。同じ場で互いに学び、互いを学び、互いから学ぶとともに相互理解を深める。		
授業到達目標	1) 大学生として自主的な学習能力を習得し、知的活動への動機づけを高める。 2) 科学的な思考能力や立案能力を涵養する。 3) 学習テーマの課題遂行を通して、問題抽出・解決能力や情報収集、ディスカッション、プレゼンテーション、レポートなどの基本的学習技能を習得する。 4) 医療に携わる者として必要なコミュニケーション能力とともに良好な人間関係を築くために必要なマナーを習得する。 5) ものの見方や考え方の多様性を理解し、リーダーシップ、フォロワーシップを発揮できる。 6) 医療関係諸職種の役割、機能について理解する。		
授業方法（学習指導法）	ある課題に関し、医学・歯学・薬学の混成メンバーによるグループワークを行い、最終的にプレゼンテーション、レポート作成をおこなう。 フィールドワークも含め、文教あるいは坂本キャンパスを中心に授業を行う。		
授業内容	15回の授業を通じて、医療系の話題を中心に グループワーク（立案・情報収集等） グループディスカッション プレゼンテーション レポート作成 発表会（7/7または7/15予定）等を行う。 ほか、図書館利用ガイダンスも適宜行う。		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		

成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールへの取り組み方、授業への参加度、発表、提出された学習資料によりグループおよび個人を総合的に評価する。 グループレポート：発表原稿 個人レポート：グループで学習したテーマについてA4レポート用紙1200字以上でまとめる
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	多職種連携学習により相互理解を深めながら、科学的思考・学習能力を高めましょう！





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201405600010D9	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(医学部医学科)		
編集担当教員	七島 篤志		
授業担当教員名(科目責任者)	七島 篤志		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	七島 篤志		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[全] 学部問い合わせのこと		
対象学生（クラス等）	医・保・歯・薬1年,単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	医学科・保健学科・歯学科・薬学科・薬科学科混成グループによる多職種連携学習を行う。あるテーマについて共同で学習する。同じ場で互いに学び、互いを学び、互いから学ぶとともに相互理解を深める。		
授業到達目標	1) 大学生として自主的な学習能力を習得し、知的活動への動機づけを高める。 2) 科学的な思考能力や立案能力を涵養する。 3) 学習テーマの課題遂行を通して、問題抽出・解決能力や情報収集、ディスカッション、プレゼンテーション、レポートなどの基本的学習技能を習得する。 4) 医療に携わる者として必要なコミュニケーション能力とともに良好な人間関係を築くために必要なマナーを習得する。 5) ものの見方や考え方の多様性を理解し、リーダーシップ、フォロワーシップを発揮できる。 6) 医療関係諸職種の役割、機能について理解する。		
授業方法（学習指導法）	ある課題に関し、医学・歯学・薬学の混成メンバーによるグループワークを行い、最終的にプレゼンテーション、レポート作成をおこなう。 フィールドワークも含め、文教あるいは坂本キャンパスを中心に授業を行う。		
授業内容	15回の授業を通じて、医療系の話題を中心に グループワーク（立案・情報収集等） グループディスカッション プレゼンテーション レポート作成 発表会等を行う。 ほか、図書館利用ガイダンスも適宜行う。		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		

成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールへの取り組み方、授業への参加度、発表、提出された学習資料により総合的に評価する。
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	多職種連携学習により相互理解を深めながら、科学的思考・学習能力を高めましょう！





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201405600010F1	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(医学部医学科)		
編集担当教員	松尾 孝之		
授業担当教員名(科目責任者)	松尾 孝之		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	松尾 孝之		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[全] 学部間い合わせのこと		
対象学生（クラス等）	医・保・歯・薬1年,単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	医学科・保健学科・歯学科・薬学科・薬科学科混成グループによる多職種連携学習を行う。あるテーマについて共同で学習する。同じ場で互いに学び、互いを学び、互いから学ぶとともに相互理解を深める。		
授業到達目標	1) 大学生として自主的な学習能力を習得し、知的活動への動機づけを高める。 2) 科学的な思考能力や立案能力を涵養する。 3) 学習テーマの課題遂行を通して、問題抽出・解決能力や情報収集、ディスカッション、プレゼンテーション、レポートなどの基本的学習技能を習得する。 4) 医療に携わる者として必要なコミュニケーション能力とともに良好な人間関係を築くために必要なマナーを習得する。 5) ものの見方や考え方の多様性を理解し、リーダーシップ、フォロワーシップを発揮できる。 6) 医療関係諸職種の役割、機能について理解する。		
授業方法（学習指導法）	ある課題に関し、医学・歯学・薬学の混成メンバーによるグループワークを行い、最終的にプレゼンテーション、レポート作成をおこなう。 フィールドワークも含め、文教あるいは坂本キャンパスを中心に授業を行う。		
授業内容	15回の授業を通じて、医療系の話題を中心に グループワーク（立案・情報収集等） グループディスカッション プレゼンテーション レポート作成 発表会等を行う。 ほか、図書館利用ガイダンスも適宜行う。		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		

成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールへの取り組み方、授業への参加度、発表、提出された学習資料により総合的に評価する。
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	多職種連携学習により相互理解を深めながら、科学的思考・学習能力を高めましょう！





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	月 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201405600010F2	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(医学部医学科)		
編集担当教員	北條 美能留		
授業担当教員名(科目責任者)	北條 美能留		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	北條 美能留		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[全] 学部間い合わせのこと		
対象学生（クラス等）	医・保・歯・薬1年,単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	医学科・保健学科・歯学科・薬学科・薬科学科混成グループによる多職種連携学習を行う。あるテーマについて共同で学習する。同じ場で互いに学び、互いを学び、互いから学ぶとともに相互理解を深める。		
授業到達目標	1) 大学生として自主的な学習能力を習得し、知的活動への動機づけを高める。 2) 科学的な思考能力や立案能力を涵養する。 3) 学習テーマの課題遂行を通して、問題抽出・解決能力や情報収集、ディスカッション、プレゼンテーション、レポートなどの基本的学習技能を習得する。 4) 医療に携わる者として必要なコミュニケーション能力とともに良好な人間関係を築くために必要なマナーを習得する。 5) ものの見方や考え方の多様性を理解し、リーダーシップ、フォロワーシップを発揮できる。 6) 医療関係諸職種の役割、機能について理解する。		
授業方法（学習指導法）	ある課題に関し、医学・歯学・薬学の混成メンバーによるグループワークを行い、最終的にプレゼンテーション、レポート作成をおこなう。 フィールドワークも含め、文教あるいは坂本キャンパスを中心に授業を行う。		
授業内容	15回の授業を通じて、医療系の話題を中心に グループワーク（立案・情報収集等） グループディスカッション プレゼンテーション レポート作成 発表会等を行う。 ほか、図書館利用ガイダンスも適宜行う。		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		

成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールへの取り組み方、授業への参加度、発表、提出された学習資料により総合的に評価する。
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	多職種連携学習により相互理解を深めながら、科学的思考・学習能力を高めましょう！





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201405600010F3	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(医学部医学科)		
編集担当教員	金子 賢一		
授業担当教員名(科目責任者)	金子 賢一		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	金子 賢一		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[全] 学部問い合わせのこと		
対象学生（クラス等）	医・保・歯・薬1年,単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス	kkaneko@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	耳鼻咽喉・頭頸部外科学教室		
担当教員TEL	095-819-7349		
担当教員オフィスアワー	19:00-20:00		
授業の概要及び位置づけ	医学科・保健学科・歯学科・薬学科・薬科学科混成グループによる多職種連携学習を行う。あるテーマについて共同で学習する。同じ場で互いに学び、互いを学び、互いから学ぶとともに相互理解を深める。		
授業到達目標	1) 大学生として自主的な学習能力を習得し、知的活動への動機づけを高める。 2) 科学的な思考能力や立案能力を涵養する。 3) 学習テーマの課題遂行を通して、問題抽出・解決能力や情報収集、ディスカッション、プレゼンテーション、レポートなどの基本的学習技能を習得する。 4) 医療に携わる者として必要なコミュニケーション能力とともに良好な人間関係を築くために必要なマナーを習得する。 5) ものの見方や考え方の多様性を理解し、リーダーシップ、フォロワーシップを発揮できる。 6) 医療関係諸職種の役割、機能について理解する。		
授業方法（学習指導法）	ある課題に関し、医学・歯学・薬学の混成メンバーによるグループワークを行い、最終的にプレゼンテーション、レポート作成をおこなう。 フィールドワークも含め、文教あるいは坂本キャンパスを中心に授業を行う。		
授業内容	15回の授業を通じて、医療系の話題を中心に グループワーク（立案・情報収集等） グループディスカッション プレゼンテーション レポート作成 発表会等を行う。 ほか、図書館利用ガイダンスも適宜行う。		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		

成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールへの取り組み方、授業への参加度、発表、提出された学習資料により総合的に評価する。
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	多職種連携学習により相互理解を深めながら、科学的思考・学習能力を高めましょう！





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201405600010F4	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(医学部医学科)		
編集担当教員	林 秀行		
授業担当教員名(科目責任者)	林 秀行		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	林 秀行		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[全] 学部問い合わせのこと		
対象学生（クラス等）	医・保・歯・薬1年,単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	医学科・保健学科・歯学科・薬学科・薬科学科混成グループによる多職種連携学習を行う。あるテーマについて共同で学習する。同じ場で互いに学び、互いを学び、互いから学ぶとともに相互理解を深める。		
授業到達目標	1) 大学生として自主的な学習能力を習得し、知的活動への動機づけを高める。 2) 科学的な思考能力や立案能力を涵養する。 3) 学習テーマの課題遂行を通して、問題抽出・解決能力や情報収集、ディスカッション、プレゼンテーション、レポートなどの基本的学習技能を習得する。 4) 医療に携わる者として必要なコミュニケーション能力とともに良好な人間関係を築くために必要なマナーを習得する。 5) ものの見方や考え方の多様性を理解し、リーダーシップ、フォロワーシップを発揮できる。 6) 医療関係諸職種の役割、機能について理解する。		
授業方法（学習指導法）	ある課題に関し、医学・歯学・薬学の混成メンバーによるグループワークを行い、最終的にプレゼンテーション、レポート作成をおこなう。 フィールドワークも含め、文教あるいは坂本キャンパスを中心に授業を行う。		
授業内容	15回の授業を通じて、医療系の話題を中心に グループワーク（立案・情報収集等） グループディスカッション プレゼンテーション レポート作成 発表会等を行う。 ほか、図書館利用ガイダンスも適宜行う。		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		

成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールへの取り組み方、授業への参加度、発表、提出された学習資料により総合的に評価する。
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	多職種連携学習により相互理解を深めながら、科学的思考・学習能力を高めましょう！





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201405600010F5	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(医学部医学科)		
編集担当教員	築城 英子		
授業担当教員名(科目責任者)	築城 英子		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	築城 英子		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[全] 学部問い合わせのこと		
対象学生（クラス等）	医・保・歯・薬1年,単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	医学科・保健学科・歯学科・薬学科・薬科学科混成グループによる多職種連携学習を行う。あるテーマについて共同で学習する。同じ場で互いに学び、互いを学び、互いから学ぶとともに相互理解を深める。		
授業到達目標	1) 大学生として自主的な学習能力を習得し、知的活動への動機づけを高める。 2) 科学的な思考能力や立案能力を涵養する。 3) 学習テーマの課題遂行を通して、問題抽出・解決能力や情報収集、ディスカッション、プレゼンテーション、レポートなどの基本的学習技能を習得する。 4) 医療に携わる者として必要なコミュニケーション能力とともに良好な人間関係を築くために必要なマナーを習得する。 5) ものの見方や考え方の多様性を理解し、リーダーシップ、フォロワーシップを発揮できる。 6) 医療関係諸職種の役割、機能について理解する。		
授業方法（学習指導法）	ある課題に関し、医学・歯学・薬学の混成メンバーによるグループワークを行い、最終的にプレゼンテーション、レポート作成をおこなう。 フィールドワークも含め、文教あるいは坂本キャンパスを中心に授業を行う。		
授業内容	15回の授業を通じて、医療系の話題を中心に グループワーク（立案・情報収集等） グループディスカッション プレゼンテーション レポート作成 発表会等を行う。 ほか、図書館利用ガイダンスも適宜行う。		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		

成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールへの取り組み方、授業への参加度、発表、提出された学習資料により総合的に評価する。
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	多職種連携学習により相互理解を深めながら、科学的思考・学習能力を高めましょう！





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201405600010F6	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(医学部医学科)		
編集担当教員	久保 嘉直		
授業担当教員名(科目責任者)	久保 嘉直		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	久保 嘉直		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[全] 学部問い合わせのこと		
対象学生（クラス等）	医・保・歯・薬1年,単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	医学科・保健学科・歯学科・薬学科・薬科学科混成グループによる多職種連携学習を行う。あるテーマについて共同で学習する。同じ場で互いに学び、互いを学び、互いから学ぶとともに相互理解を深める。		
授業到達目標	1) 大学生として自主的な学習能力を習得し、知的活動への動機づけを高める。 2) 科学的な思考能力や立案能力を涵養する。 3) 学習テーマの課題遂行を通して、問題抽出・解決能力や情報収集、ディスカッション、プレゼンテーション、レポートなどの基本的学習技能を習得する。 4) 医療に携わる者として必要なコミュニケーション能力とともに良好な人間関係を築くために必要なマナーを習得する。 5) ものの見方や考え方の多様性を理解し、リーダーシップ、フォロワーシップを発揮できる。 6) 医療関係諸職種の役割、機能について理解する。		
授業方法（学習指導法）	ある課題に関し、医学・歯学・薬学の混成メンバーによるグループワークを行い、最終的にプレゼンテーション、レポート作成をおこなう。 フィールドワークも含め、文教あるいは坂本キャンパスを中心に授業を行う。		
授業内容	15回の授業を通じて、医療系の話題を中心に グループワーク（立案・情報収集等） グループディスカッション プレゼンテーション レポート作成 発表会等を行う。 ほか、図書館利用ガイダンスも適宜行う。		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		

成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールへの取り組み方、授業への参加度、発表、提出された学習資料により総合的に評価する。
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	多職種連携学習により相互理解を深めながら、科学的思考・学習能力を高めましょう！





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201405600010F7	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(医学部医学科)		
編集担当教員	松坂 雄亮		
授業担当教員名(科目責任者)	松坂 雄亮		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	松坂 雄亮,井生 久美子		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[全] 学部問い合わせのこと		
対象学生（クラス等）	医・保・歯・薬1年,単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	医学科・保健学科・歯学科・薬学科・薬科学科混成グループによる多職種連携学習を行う。あるテーマについて共同で学習する。同じ場で互いに学び、互いを学び、互いから学ぶとともに相互理解を深める。		
授業到達目標	1) 大学生として自主的な学習能力を習得し、知的活動への動機づけを高める。 2) 科学的な思考能力や立案能力を涵養する。 3) 学習テーマの課題遂行を通して、問題抽出・解決能力や情報収集、ディスカッション、プレゼンテーション、レポートなどの基本的学習技能を習得する。 4) 医療に携わる者として必要なコミュニケーション能力とともに良好な人間関係を築くために必要なマナーを習得する。 5) ものの見方や考え方の多様性を理解し、リーダーシップ、フォロワーシップを発揮できる。 6) 医療関係諸職種の役割、機能について理解する。		
授業方法（学習指導法）	ある課題に関し、医学・歯学・薬学の混成メンバーによるグループワークを行い、最終的にプレゼンテーション、レポート作成をおこなう。 フィールドワークも含め、坂本キャンパスを中心に授業を行う。		
授業内容	15回の授業を通じて、医療系の話題を中心に グループワーク（立案・情報収集等） グループディスカッション プレゼンテーション レポート作成 発表会等を行う。 ほか、図書館利用ガイダンスも適宜行う。		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		

成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールへの取り組み方、授業への参加度、発表、提出された学習資料により総合的に評価する。
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	多職種連携学習により相互理解を深めながら、科学的思考・学習能力を高めましょう！





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	火5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201405600010F9	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(医学部医学科)		
編集担当教員	林 洋子		
授業担当教員名(科目責任者)	林 洋子		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	林 洋子		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[全] 学部問い合わせのこと		
対象学生（クラス等）	医・保・歯・薬1年,単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	医学科・保健学科・歯学科・薬学科・薬科学科混成グループによる多職種連携学習を行う。あるテーマについて共同で学習する。同じ場で互いに学び、互いを学び、互いから学ぶとともに相互理解を深める。		
授業到達目標	1) 大学生として自主的な学習能力を習得し、知的活動への動機づけを高める。 2) 科学的な思考能力や立案能力を涵養する。 3) 学習テーマの課題遂行を通して、問題抽出・解決能力や情報収集、ディスカッション、プレゼンテーション、レポートなどの基本的学習技能を習得する。 4) 医療に携わる者として必要なコミュニケーション能力とともに良好な人間関係を築くために必要なマナーを習得する。 5) ものの見方や考え方の多様性を理解し、リーダーシップ、フォロワーシップを発揮できる。 6) 医療関係諸職種の役割、機能について理解する。		
授業方法（学習指導法）	ある課題に関し、医学・歯学・薬学の混成メンバーによるグループワークを行い、最終的にプレゼンテーション、レポート作成をおこなう。 フィールドワークも含め、文教あるいは坂本キャンパスを中心に授業を行う。		
授業内容	15回の授業を通じて、医療系の話題を中心に グループワーク（立案・情報収集等） グループディスカッション プレゼンテーション レポート作成 発表会等を行う。 ほか、図書館利用ガイダンスも適宜行う。		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		

成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールへの取り組み方、授業への参加度、発表、提出された学習資料により総合的に評価する。
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	多職種連携学習により相互理解を深めながら、科学的思考・学習能力を高めましょう！





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201405600010G1	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(医学部医学科)		
編集担当教員	岡田 雅彦		
授業担当教員名(科目責任者)	岡田 雅彦		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	岡田 雅彦		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[全] 学部問い合わせのこと		
対象学生（クラス等）	医・保・歯・薬1年,単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	医学科・保健学科・歯学科・薬学科・薬科学科混成グループによる多職種連携学習を行う。あるテーマについて共同で学習する。同じ場で互いに学び、互いを学び、互いから学ぶとともに相互理解を深める。		
授業到達目標	1) 大学生として自主的な学習能力を習得し、知的活動への動機づけを高める。 2) 科学的な思考能力や立案能力を涵養する。 3) 学習テーマの課題遂行を通して、問題抽出・解決能力や情報収集、ディスカッション、プレゼンテーション、レポートなどの基本的学習技能を習得する。 4) 医療に携わる者として必要なコミュニケーション能力とともに良好な人間関係を築くために必要なマナーを習得する。 5) ものの見方や考え方の多様性を理解し、リーダーシップ、フォロワーシップを発揮できる。 6) 医療関係諸職種の役割、機能について理解する。		
授業方法（学習指導法）	ある課題に関し、医学・歯学・薬学の混成メンバーによるグループワークを行い、最終的にプレゼンテーション、レポート作成をおこなう。 フィールドワークも含め、文教あるいは坂本キャンパスを中心に授業を行う。		
授業内容	15回の授業を通じて、医療系の話題を中心に グループワーク（立案・情報収集等） グループディスカッション プレゼンテーション レポート作成 発表会等を行う。 ほか、図書館利用ガイダンスも適宜行う。		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		

成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールへの取り組み方、授業への参加度、発表、提出された学習資料により総合的に評価する。
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	多職種連携学習により相互理解を深めながら、科学的思考・学習能力を高めましょう！





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	金 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201405600010G2	科目番号	05600010
授業科目名	●教養セミナー(医学部医学科)		
編集担当教員	中村 洋一		
授業担当教員名(科目責任者)	中村 洋一		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	中村 洋一		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[全] 学部問い合わせのこと		
対象学生（クラス等）	医・保・歯・薬1年,単位未修得者		
担当教員Eメールアドレス			
担当教員研究室			
担当教員TEL			
担当教員オフィスアワー			
授業の概要及び位置づけ	医学科・保健学科・歯学科・薬学科・薬科学科混成グループによる多職種連携学習を行う。あるテーマについて共同で学習する。同じ場で互いに学び、互いを学び、互いから学ぶとともに相互理解を深める。		
授業到達目標	1) 大学生として自主的な学習能力を習得し、知的活動への動機づけを高める。 2) 科学的な思考能力や立案能力を涵養する。 3) 学習テーマの課題遂行を通して、問題抽出・解決能力や情報収集、ディスカッション、プレゼンテーション、レポートなどの基本的学習技能を習得する。 4) 医療に携わる者として必要なコミュニケーション能力とともに良好な人間関係を築くために必要なマナーを習得する。 5) ものの見方や考え方の多様性を理解し、リーダーシップ、フォロワーシップを発揮できる。 6) 医療関係諸職種の役割、機能について理解する。		
授業方法（学習指導法）	ある課題に関し、医学・歯学・薬学の混成メンバーによるグループワークを行い、最終的にプレゼンテーション、レポート作成をおこなう。 フィールドワークも含め、文教あるいは坂本キャンパスを中心に授業を行う。		
授業内容	15回の授業を通じて、医療系の話題を中心に グループワーク（立案・情報収集等） グループディスカッション プレゼンテーション レポート作成 発表会等を行う。 ほか、図書館利用ガイダンスも適宜行う。		
キーワード			
教科書・教材・参考書	各クラス担当教員の指示による。		

成績評価の方法・基準等	教養ゼミナールへの取り組み方、授業への参加度、発表、提出された学習資料により総合的に評価する。
受講要件（履修条件）	
備考（URL）	
学生へのメッセージ	多職種連携学習により相互理解を深めながら、科学的思考・学習能力を高めましょう！





タイトル「**2014年度シラバス（教養教育科目）**」、開講所属「**教養教育-教養教育 旧カリ科目**」
シラバスの詳細は以下となります。



学期	前期	曜日・校時	水 5
開講期間			
必修選択	必	単位数	2.0
時間割コード	201405600020Q1	科目番号	05600020
授業科目名	●教養特別講義(平成長崎塾)		
編集担当教員	高橋 正克		
授業担当教員名(科目責任者)	高橋 正克		
授業担当教員名(オムニバス科目等)	高橋 正克		
科目分類	共通基礎科目		
対象年次	1年, 2年, 3年, 4年	講義形態	講義科目
教室	[教養A棟]A-43		
対象学生（クラス等）	全学部		
担当教員Eメールアドレス	takahasi@nagasaki-u.ac.jp		
担当教員研究室	教育学部新館 2 F（高橋研究室）		
担当教員TEL	095-819-2090 （Ext 2090）		
担当教員オフィスアワー	水曜日 12：00～13：00、この時間以外は、事前にメール、電話等でアポイントをとってください。		
授業の概要及び位置づけ	笈を負うて長崎に游学する....長崎は昔から町全体が大学だった、ともいわれています。ならば長崎に游学した勝海舟、坂本龍馬、高杉晋作、福澤諭吉は長大OBといって自慢していい。こんな由緒ある長崎大学あるいは長崎の歴史は？文化は？文学は？大地の生い立ちは？...この講義では、そのルーツから現在までの長崎大学の歴史と、そしてこの長崎大学を育み、かつ大学とともに歩んできた長崎の街や大地を多面的な切り口から知ることによって、長崎大学で学び、長崎の街で学生生活を送る諸君が、本学や長崎を誇りに思い（愛校精神）、将来、地域活性や社会貢献の意欲を持ってもらいます。また、多面的なものの見方、考え方があることを知り、長崎のより深い知識、理解を発展させる学習意欲を身につけてもらうこともねらいとします。		
授業到達目標	長崎大学や長崎の歴史、文化、文学の概要が説明できるようになることです。多面的なものの見方、考え方があることを理解することです。歴史、文化、文学の長崎独自性について意見を展開できることを目指します。長崎のより深い知識、理解を発展させる学習意欲を身に付けることです。		
授業方法（学習指導法）	基本的に講義形式で行うが、できるだけ口頭による質疑応答を取り入れ理解度を探りながら進めます。必要に応じて、ハンドアウトを配布します。また、パワーポイントなども利用して理解を進めます。		
	長崎大学や長崎の歴史、文化、外交、文学、生い立ちなどについて、それぞれ専門の担当教員・講師が、ユニーク、かつ多面的な切り口で講義します。		
	回	内容	
	1	科目の趣旨説明（高橋） 1) フォン・シーボルトと鳴滝塾（相川）	
	2	2) 海軍伝習と日本の近代化（相川）	
	3	3) ボンペ・ファン・メールデルフォールトの医学伝習（相川）	

授業内容	4	1) シーボルトの商業学校設立案と江戸時代の長崎（姫野）
	5	2) 長崎における近代的学校の成立（姫野）
	6	3) 長崎高等商業学校の設立と武藤長蔵（姫野）
	7	4) 原爆被災と長崎大学（姫野）
	8	1) 長崎の大地の生い立ち（布袋）
	9	2) 江戸時代の長崎の町の復元（布袋）
	10	3) 水族館のビオトープづくりとよみがえる里山（布袋）
	11	4) 長崎の町から変遷の痕跡を読み解く一幕末から戦後まで―（布袋）
	12	1) 長崎大学の現状，長崎ことはじめ（高橋）
	13	2) 長崎の歴史を築いた人々（高橋）
	14	3) 長崎の歴史散策紹介（高橋）
	15	4) 長崎検定・長崎通への誘い，まとめ（高橋）
	16	
キーワード	長崎大学 長崎 長崎学 シーボルト ポンペ 歴史 文化 文学 外交 大地の生い立ち 地質 復元	
教科書・教材・参考書	教科書は用いない。適宜，ハンドアウトを配布します。	
成績評価の方法・基準等	毎回の積極的な授業への出席を前提に，提出するレポートで評価します（１００％）。	
受講要件（履修条件）	原則として全回出席し，レポートを提出することを単位認定の要件とします。	
備考（URL）		
学生へのメッセージ	長崎大学や長崎の歴史，文化など多面的に知り，長崎大学生であることを誇りに思い，長崎の街に興味を持って学びに潤いのある学生生活を送ることです。長崎検定などに合格することも，学習意欲を身に付けることにつながります。	

